日本生命保險株式會社

大群團方式ヲ適用(924)

責任準備金基礎書類ノ變更　明治四十二年十一月一日申請
同　年十一月十日認可

保險料積立金方式中尋常終身、有限掛金終身、養老・短期掛金養老ノ四種類ニ限リカループ式大群團方式計算方法ヲ適用スルコトニ變更シタルモノナリ

野田社長(925)

太陽生命保險株式會社

〔二・二七、中外商業〕太陽生命保險株式會社

一取締役野田轄通ハ明治四十二年二月十日辭任ス

退任

新任役員(926)

右明治四十二年二月二十二日登記

新任役員（第十七回明治四二・一一・一二・三一營業報告ヨリ同）

明治四十二年五月三十一日　原田赳城、山根正次取締役ニ新任、藤田謙一、山田格次郎、那須芳三郎補缺取締役ニ鳥居春洋補缺監査役ニ就任ノ登記ヲ本日東京區裁判所ニ六月三日名古屋區裁判所ニ申請シ何レモ即日完了セリ

新任役員(927)

國民生命保險株式會社

〔三・一七、官報〕商號國民生命保險株式會社登記事項中取締役賴鷹二郎、森正約三任期滿了ニ因リ改選左ノ者當撰就任セリ

賀茂郡竹原町　賴　鷹二郎

一同上監査役堂面松吉、村上九一ハ辭任セリ

一同上監査役撰任ニ因リ左ノ者當撰就任セリ

明治四十二年　日本生命　太陽生命　國民生命

賀茂郡竹原町
同　郡同　町
安佐郡川内村中調子
右各明治四十二年二月二十六日登記

整理狀況(928)

佛教生命保險株式會社

營業狀況（第十八回明治四一・七・一事業報告ヨリ　同　四二・六・三〇）

本社ガ最モ急務トスルハ諸債權ノ取立ヲ爲シテ支拂備金ノ支拂ヲ了シ進ンデ財産ノ充實ヲ圖ルニ在ルヲ以テ年度首以還孜々其歩ヲ進メタリシモ死亡者及滿期ノ多數ナルト解約者續出セル爲メ取立債權ノ金員ヲ以テシテハ到底焦眉ノ急ニ應ズベクモアラザルヨリ前重役中ノ篤志者ト現在重役ノ一部ト協定シテ會社ニ寄附ヲ爲ス等經營百端以テ多額ノ支拂ヲ了シタルニ不拘猶前年度末支拂備金ノ半額ニ相當スル支拂備金ヲ殘存シテ當年度ヲ送クルノ已ムナキニ至レリ從ツテ現在保險契約ハ前期末ニ比シテ十分ノ二、四以內ニ減シ責任準備金モ亦タ十分ノ三、三强ニ減セリ而カモ猶解約者旦夕續出シツヽアレバ數旬ノ後或ハ保險契約皆無ニ歸スヘキノ傾向ヲ有シ諸債權ノ取立ニ就テモ件數ニ於テハ既ニ其ノ十分ノ六以上ノ回收整理ヲ遂ゲタリシモ大口ノ分未決濟ナル爲メ金額ノ之ニ比例セザルハ頗ル遺憾トスル所ナルモ現下訴訟中及執行中ノモノ「二十四件」ナレバ逐次回收ヲ爲シ得ベク斯クテ多年悲況ニ沈淪セル本社整理ノ大部ヲ完行シ得ンカ株主諸君ト共ニ更メテ本社興廢ノ問題ヲ熟議スルノ期其甚タ遠カラザルベキヲ信ズ

檢查請願(929)

有隣生命保險株式會社

〔七・九、報知〕**有隣生命の檢查**　有隣生命保險會社は自社の業務成績其他の檢查を主務省に請願したるが主務省に於ても同社の請願に應じ近々出張檢查を行ふ由、因みに同社事務取締役蟹江次郎氏は今般取締役會の決議により社長に推擧せられたりと

其他ノ事項(930)

其他ノ事項——創業十五周年紀念・社長新任・業績檢閱ヲ申請（第十六回明治四二・四・一事業報告書ヨリ　同　四三・三・三一事業報告書ヨリ）

明治四十二年四月十日當會社創業十五周年ノ佳辰ニ相當スルヲ以テ役員、株主、職員、特別出張所、代理店、囑託診查醫等へ記念品ヲ贈與セリ

明治四十二年　國民生命　佛教生命　有隣生命

六月十二日取締役會ニ於テ專務取締役蟹江次郎ヲ社長ニ推選シ承諾ヲ得タリ
九月二十日業務成績調査ニ付農商務省ニ檢閲ヲ申請シ同三十日ニ及ビ無事結了セリ

北陸生命保險株式會社

解散命令抗告棄却(931)

〔四・一八、大阪毎日〕地方電報　（十七日）北陸生命の清算（富山）北陸生命保險會社の解散命令抗告は去九日棄却され十六日夜官撰清算人三名を擧げ徹夜清算に着手せり

解散事由ニ就テ(932)

〔四・一八、北陸タイムス〕北生解散理由の見解　北陸生命保險會社解散理由に付き、農商務省商工局と司法省民刑局の間に取交されたる文面左の如し

大久保商工局長の照會

北陸生命保險株式會社は曩に所轄地方裁判所より保險業法第百五條に依り會社の解散を命ぜられ爾來會社は抗告申立の末控訴院に於ては抗告棄却の決定を與へられたるより更に再抗告の申立を爲し目下事件繫屬中に有之候處株主七人未滿と減じたるの故を以て今回商法第二百二十一條第三號の解散事由發生したるものと爲し解散

登記を經て會社より届出來り又頃日新聞紙上に依れば同會社と同一の境遇にありたる九州生命保險株式會社も亦同樣の下に是亦解散したるにやに新聞上散見致候處元來會社が解散を命ぜられ之れが抗告繫屬中に於て本件の如き別個の事由を以て解散原因と爲すことを認め得べきものなりや否や聊か疑義に渉候廉も有之御意見一應承知致度に付乍御面倒何分の御回示相煩度云々追て本件は差掛り候事も有之至急何分の決定致度存候に付ては可成速に御回報を煩はし候樣致度此段添て申進候也

平沼民刑局長の回答

客年十二月十五日商局發第五八四號を以て保險業法第百五條に依り解散を命ぜられたる保險會社の抗告申立の末抗告を棄却せられ更に再抗告申立中商法第二百二十一條第三號の解散事由發生したる場合に於ては後發の事由を以て解散原因と爲すことを認め得べきや否や御問の趣了承右後發の事由は右解散命令の確定したる後は解散原因たる効力を失ふものと思考致候及回答候也

如上の回答によりて同會社のなしたる解散届出は事由を構成せざることゝなりたるが此件に就てや否やは知らねど一昨夜來當地方裁判所判檢事出張取調ぶる所ありたりと

〔四・二九、北陸タイムス〕北生の破産宣告　結局は詐欺破産か

北陸生命保險會社は昨日富山地方裁判所において破産の宣告を受けたり而して同時に破産主任官に富山地方裁判所民事部長判事千葉米作任命せられ尚同件管財人に野村、龜田の兩辯護士任命されたり是にて該會社は愈よ破産となりたるが本件は尋常の破産となるか詐欺破産となるかは未定の問題にて今の所孰れと速斷出來ざるも拾七萬圓と言ふ莫大なる社金を全體の重役に相談なく秘密に淺倉要之助、中村新之助の兩名が川村隆實に貸し

明治四十二年　有隣生命　北陸生命

與へたる行爲は取りも直さず詐僞的犯罪にて到底詐欺破産たるを免れざる可く若し果して詐欺破産と決定せば商法有罪破産者處斷制に依り輕懲役に處せらるゝものにて刑期は十年以内たる可しと言へり但し牧野平五郎は全く川村隆實に貸與したる事情は知らざるものにて右淺倉、中村の兩人が牧野に一應の相談もなく專斷に秘密に貸與をなしたるものなりとも言ひ又た牧野自身は常に官撰精算人を擧げて會社の善後策處分をなすべく希望したる一人なれば今回の檢擧は無事なるべしと言へり

解散登記(934)

〔五・八、官報〕北陸生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク追加ス

一明治四十一年八月二十九日富山地方裁判所ノ解散決定ニ因リ解散ス

右明治四十二年四月二十六日登記

東京區裁判所

債權調査會等ニ付公告(935)

〔一一・二三、北陸タイムス〕廣　告

明治四十二年破第一號　　富山縣富山市殿町二十一番地　債務者　北陸生命保險株式會社

右ニ對スル破産決定中左ノ通リ變更ス

一債權調査會期日ヲ明治四十三年五月五日午前九時ニ變更ス

一債權者集會期日ヲ明治四十三年五月十二日午前九時ニ變更ス

明治四十二年十一月二十二日　　富山地方裁判所民事部

裁判長　判事　千葉米作　判事　熊澤增郎　判事　松田篤二郎

欠損塡補方法營業費豫算書ノ提出ヲ通牒(936)

農商務省商務局長ヨリ京都府知事ヘ通牒　明治四十二年八月二十八日

商第八〇七四號　貴管下日本共立生命保險合資會社ニ就キ此回局員ヲシテ檢査ヲ實行セシメ候處其複命ニ依レハ會社財産ノ現狀ハ安固ヲ缺キ且營業費ノ支出過大ニ失スルモノト被認候條左記ノ廉ニ嚴重ニ御示達相煩度依命此段及通牒候也

一不動産什器ノ評價ヲ正確ニシ未收保險料、出張所及代理店勘定、假拂金其他一般財産ノ整理ヲ實行シ其結果ニ基キテ財産目錄、貸借表ヲ作リ缺損塡補ノ方法ヲ定メ本省大臣ニ報告スルコト

一營業費ノ支出ニ緊縮ヲ加ヘ爾後五ケ年間ニ對スル收支ノ豫算ヲ編制シ本省大臣ニ提出スルコト

一前二項ハ本文通達後三ケ月以内ニ之ヲ完了スルコト

以上

其他ノ事項(937)

其他ノ事項——定款中變更・保險種類增設（第三回明治四二・七・一報告書ヨリ同四三・六・三〇）

明治四十二年八月一日理事一名增置ニ付定款一部變更ヲ申請シ同年八月二十三日主務大臣ノ許可ヲ經タリ

明治四十二年十一月十五日保險種類增設ニ付事業方法書並ニ保險料及責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類變更ヲ申請シ同四十三年五月六日主務大臣ノ認可ヲ經タリ

明治四十二年　北陸生命　日本共立生命

日本共立生命保險合資會社

博愛生命保險株式會社

農商務省商工局長ヨリ京都府知事ヘ通牒　明治四十二年七月二十四日

商第七〇六一號　貴管下博愛生命保險株式會社ニ付過般檢査執行候處會社財産ノ現狀ニ於テ多大ノ缺損有之樣被認別紙之通リ命令發セラレタル次第ニ付御交附ノ上受書ヲ徵シ御回送相成度猶又該會社ニ對シテハ去ル三十七年十二月一日商發第二五一號ヲ以テ財産ノ整理及財産處分ノ拘束方ニ關シ命令ヲ發セラレ候處爾來出張員ノ調査ノ結果ニ依ルトキハ貸付金假拂金ノ回收及什器ノ評價ニ付テハ依然トシテ命令ノ主旨ヲ遵奉セス殊ニ昨四十一年九月頃ヨリ會社ノ有價證券全部ヲ認可ヲ得ズシテ藤本ビルブローカー銀行ニ預ケ入レ次テ其大部分ヲ同銀行ニ賣却シテ取締役竹下康之株主此村元吉兩名ノ個人的關係ニ基ク同銀行ノ債權ト相殺セラルヽニ至リタルカ如キ甚タ不都合ノ所爲有之ニ付本件ニ就テハ別紙ノ通リ京都地方裁判所檢事局ニ對シ保險業法第九十八條第三號ニ據リ過料處分ノ請求方及移牒候條御承知相成度此段及御通牒候也

商第七〇六一號

京都府京都市上京區二條通東洞院東ヘ入ル松屋町三十三番戸　博愛生命保險株式會社

保險業法第十條及第十一條ニヨリ左記ノ事項ヲ命令ス

一未拂込株金ハ本命令ヲ受ケタル日ヨリ三箇月內ニ其全額ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

二貸付金ニシテ既ニ辨濟期ノ達シタルモノハ本命令ヲ受ケタル日ヨリ二箇月內ニ之カ取立ヲ爲シ其辨濟ノ確カナラサル債權ハ之ヲ損失トシテ整理スヘシ

三有價證券、不動產、什器及圖書ノ評價ヲ正確ニシ諸預ケ金、假拂金、出張所代理店勘定、未收保險料其他一般財產上ノ整理ヲ爲スヘシ

四第二號及第三號ニ揭ケタル整理及第三號ニ揭ケタル評價ハ本命令ヲ受ケタル日ヨリ三箇月內ニ之ヲ終了シ其結果ニ依リ財產目錄貸借對照表ヲ作リ缺損アルトキハ其塡補ノ方法ヲ定メ遲滯ナク之ヲ本大臣ニ報告スヘシ

農商務大臣　男爵　大浦兼武

御屆

當會社取締役竹下康之辭任ニ付別紙登記簿抄本相添ヘ此段及御屆候也　【別紙登記簿抄本ハ省略】

明治四十二年八月七日

京都市上京區二條通東洞院東入松屋町第三十三番戸　博愛生命保險株式會社

取締役社長　守山又三

定款變更認可申請書

明治四十二年　日本共立生命　博愛生命

定欵變更（增資）認可申請

今般社務整理並ニ業務擴張ノ爲メ資本金增加ノ必要ヲ認メ候ニ付本社定欵第四條中資本金「拾萬圓」トアルヲ「五拾萬圓」ト改メ貳千株トアルヲ「壹萬株」ト改メ度候間御認可相成度臨時株主總會決議錄謄本相添ヘ此段申請候也

明治四十二年十月四日

京都市上京區二條通東洞院東入松屋町第三十三番戸　博愛生命保險株式會社

取締役社長　守山又三

農商務大臣　男爵大浦兼武殿

【備考】期治四十二年十一月二日附農商務省指令商第八八〇一號ヲ以テ認可

右ノ追申

本月四日付ヲ以テ申請致候當會社資本金ヲ五十萬圓ニ增額スヘキ定欵改正認可申請ノ件至急御認可相成併セテ本年七月二十四日付商第七〇六一號ヲ以テ御命令ノ第一項未拂込株金拂込ノ件ハ御取消相願度此段申請候也

明治四十二年十月二十一日

增資方法ニ關スル會社ノ答申

本月十七日附ヲ以テ京都府廳ヲ經由シ御照會相成候增資實行方法幷ニ其完成ノ時期ハ嚮ニ定欵變更認可申請ノ際添附書類トシテ呈出有之候總會決議錄ニ記載ノ如クニ有之增資新株式ハ十月五日ノ現在株主ニ引受ケ權利ヲ附與シ新株式第一回拂込金ハ一株ニ付金拾貳圓五拾錢トシ拂込ノ期日ヲ明治四十二年十二月二十五日ト定メ自今株式割宛ノ手續中ニ候間右期日ニ第一回拂込ヲ結了シ以テ增資ノ完成ヲ告クル豫定ニ候間此段答申候也

明治四十二年十一月二十日

京都市上京區二條通東洞院東入松屋町第三十三番戸　博愛生命保險株式會社

農商務大臣　男爵大浦兼武殿

取締役社長　守山又三

大阪生命保險株式會社

本店移轉(942)

〔四・二九、官報〕大阪生命保險株式會社　本店ヲ大阪市東區本町二丁目八十七番屋敷ニ移轉

右明治四十二年四月十二日登記

大阪區裁判所

仁壽生命保險合資會社

(943)

仁壽生命保險合資會社保險規則（抄）　明治四十二年一月約欵改正

明治四十二年　博愛生命　大阪生命　仁壽生命

保險契約

第一項　當會社ニ於テ引受クヘキ生命保險契約ノ種類左ノ如シ

一、十年滿期保險　二、十五年滿期保險　三、二十年滿期保險　四、二十五年滿期保險
五、六十歲受取保險　六、七十歲受取保險

保險金額

第二項　當會社ニ於テ引受クヘキ保險金額ハ一契約ニ付最低金參百圓トス

保險料

第三項　保險金額百圓ニ對スル毎一箇年拂ノ保險料左表ノ如シ

年齡	種類	十年滿期	十五年滿期	二十年滿期	二十五年滿期	六十歲受取 全期間拂込	六十歲受取 十箇年拂込	七十歲受取 全期間拂込	七十歲受取 十箇年拂込
一五	錢	九・三	六・一	四・四	三・四	二・六	四・三	二・〇	四・二
二〇		九・六	六・二八	四・四九	三・五一	二・六三	四・五三	二・二六	四・六一
二五		九・七四	六・三三	四・五四	三・五九	二・七四	五・一五	二・二九	五・一三
三〇		九・七九	六・三一	四・六四	三・七〇	二・八四	五・八一	二・三五	五・七三
三五		九・八八	六・四二	四・七七	三・八五	三・一四	六・六二	三・〇三	六・四二
四〇		九・九	六・五四	四・九五	四・〇八	三・四五	七・五八	三・六三	七・二七
四五		一〇・一三	六・七五	五・二三	四・二五	三・九五	八・八〇	四・四五	八・三八
五〇		一〇・四三	七・一六	五・七四	四・五二	四・六五	一〇・四三	五・七四	九・八三
五五		一〇・九三	七・八三	：	：	：	：	：	：
六〇		一二・七〇	：	：	：	：	：	：	：

保險年齡

第五項　當會社ニ於テ引受クヘキ被保險者ノ年齡ハ十五歲ヨリ六十歲マテトス
年齡ノ端數ハ六箇月マテハ之ヲ切捨テ其以上ハ之ヲ一箇年トシテ計算ス

〔一二・一七、中外商業〕**商業登記公告**

仁壽生命保險合資會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一業務擔當社員辻新次ハ明治四十二年十二月十五日辭任セリ

右明治四十二年十二月十五日登記

東京區裁判所

眞宗信徒生命保險株式會社

〔三・七、京都日出〕**眞宗信徒生命保險の契約高**　同生命保險會社に於ける二月中の新契約高は千三十四件、此契約金額三十五万三百圓、死亡拂渡高百件、此金額二万三千圓にして月末現在の件數七萬五千四百三十七件、此契約總額二千五十六万九千五百二十圓なりと云ふ尙會社の生存保險契約額は六百四十五件、五万三千圓

明治四十二年　仁壽生命　眞宗信徒生命

なりと

主務省ノ檢査(946)

〔一〇・二二、京都日出〕眞宗信徒生命保險會社に出張し其出納簿幷に成績を檢査中なりしが右は既に無事結了したるを以て同官日以來眞宗信徒生命保險會社に出張し其出納簿幷に成績を檢査中なりと　農商務省野守保險事務官補は三名の屬官を隨へ去る十七補等の一行は昨東したりと

九州生命保險株式會社

解散登記(947)

〔二・一、福岡日々〕九州生命保險株式會社ハ株主總數七人未滿ニ減シタルニ依リ明治四拾壹年拾貳月拾壹日解散ス

福岡區裁判所

解散登記抹消(948)

右明治四拾壹年拾二月拾貳日登記

〔二・九、官報〕九州生命保險株式會社ノ明治四十一年十二月十一日解散ノ登記ハ錯誤ニ依リ抹消ス

福岡（福岡地方裁判所管內）區裁判所

右明治四十二年一月二十六日登記

更ニ解散登記(949)

〔二・九、官報〕九州生命保險株式會社ハ明治四十一年十二月十一日解散ス

福岡（福岡地方裁判所管內）區裁判所

右明治四十二年一月二十六日登記

破產決定公告(950)

〔八・一五、福岡日々〕公　告　決定

福岡縣福岡市東中洲町二百十二番地　九州生命保險株式會社

右法定代理人右會社清算人　原田種一　岩永佐八　許斐儀七

九州生命保險株式會社ヲ破產者トス

支拂停止ノ日時ヲ明治四十二年八月七日トス

破產主任官ニ福岡地方裁判所判事高橋喜又ヲ破產管財人ニ原田種一、岩永佐八ヲ選任ス

破產財團中動產ノ封印ヲ命ズ

破產者ノ債務者又ハ破產財團ニ屬スル物ノ占有者ハ破產者ニ支拂又ハ引渡ヲ爲ス可カラス

破產者ニ對スル債權者ハ其權利ヲ明治四十二年十一月三十一日迄ニ破產主任官ニ届出ツ可シ

債權調査會及債權者集會ノ期日ヲ明治四十二年十二月十五日トス

明治四十二年八月十日　福岡地方裁判所

裁判長判事　大野吉利　判事　中根要次郎　判事　高橋喜又

右公告ス

明治四十二年八月十一日　福岡地方裁判所

明治四十二年　九州生命

六條生命保險株式會社

清算狀況(951)

〔三・二八、大阪毎日〕**六條生命の清算**　同社は去四十年五月任意解散したるものなるが其後被保人に對する債務は漸次減少し今日にては七八万圓を遺すに過ぎざるも一方債權は大谷本願寺に十四五万圓其他代理店貸二万圓位あり代理店貸は成るべく其地の被保人に對する債務と相殺せしめ清算事務所へ請求し來るものには本願寺よりの回收を以て支拂に供しつゝありといふ

新契約ノ停止(952)

日宗生命保險株式會社

〔三・一九、官報〕**農商務省告示第九十四號**

保險業法第十一條ニ依リ東京府東京市日本橋區通二丁目六、七番地日宗生命保險株式會社ニ對シ新ニ保險契約ヲ締結スルコトヲ停止シタリ

明治四十二年三月十九日

農商務大臣　男爵　大浦兼武

解散登記(953)

〔九・二九、官報〕**日宗生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス**

一解散ノ原因及年月日　明治四十二年九月四日裁判ニ因リ解散ス

一清算人ノ氏名住所　東京市京橋區南鍋町二丁目五番地　岡村輝彦

同　市芝區芝公園二十五號一番地　竹内平吉

同　市神田區錦町三丁目五番地　高橋織之助

右明治四十二年九月廿一日登記

東京區裁判所

債權申出公告(954)

〔九・二六、中外商業〕**債權申出公告**

今回日宗生命保險株式會社解散を命せられ候に付ては同會社に對し債權を有せらるゝ諸君は明治四十二年十二月十日迄に其請求を當事務所へ申出でらるべし

若し右期間内に申出無之時は其債權は清算より除斥せらるへし

右公告す

明治四十二年九月廿四日

日本橋區通二丁目六、七番地

日宗生命保險株式會社　清算事務所

清算人　岡村輝彦　竹内平吉　高橋織之助

日本教育生命保險株式會社

新任役員(955)

〔二・一七、官報〕日本教育生命保險會社
取締役松平正直、瀧山瑄、酒井靜雄、滿期重任
大阪市北區曾根崎上一丁目　平瀨三七雄
東京市牛込區横寺町　森田彦季
監査役ニ就任
右明治四十二年二月一日登記

東京支店設置(956)

支店設立ニ付支店所在地ノ區裁判所ニ於テ受ケタル登記事項御届
一社名　日本教育生命保險株式會社
一本店　大阪市東區北濱三丁目五十九番屋敷　大阪區裁判所
一支店　東京市日本橋區檜物町壹番地
一登記ノ目的　支店設立ノ登記

責任準備金算出方法變更(957)

一登記ノ事由　株主總會ノ決議ニヨリ明治四十二年七月拾日東京市日本橋區檜物町壹番地支店ヲ設立シタルニヨリ支店所在地ニ於テ登記スル事項左ノ通リ【中略】
一登記ヲ受ケタル年月日　明治四十二年七月十七日
右本月二十日附大阪府廳ヲ經テ御示達ニ依リ及御屆候也
明治四十二年十月二十二日
大阪市東區北濱三丁目五十九番屋敷　日本教育生命保險株式會社
社長　松平正直
農商務大臣　男爵大浦兼武殿

徵兵保險株式會社

責任準備金算出方法變更
明治四十二年四月廿二日生存保險責任準備金算出方法變更願ヲ農商務省ヘ提出シ同年四月廿九日之レカ認可ヲ得タリ（第十一回明治四一・五・一報告ヨリ同四二・四・三〇報告ヨリ）
明治四十二年　日本教育生命　徵兵保險

明治四十二年七月三十一日徴兵保險責任備準金算出基礎方法變更認可申請書ヲ農商務省ヘ提出シ同年八月十六日認可ヲ得タリ（第十二回明治四二・五・一報告ヨリ　第十二回同四三・四・三〇報告ヨリ）

株金拂込(958)

〔一一・六、官報〕徴兵保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一各株ニ付キ拂込ミタル株金額ヲ金三十二圓五十錢ト變更セリ

右明治四十二年十月二十七日登記

東京區裁判所

清算人變更(959)

帝國徴兵保險株式會社

〔七・三〇、官報〕名古屋市中區納屋町二十三番戸帝國徴兵株式會社登記事項中左ノ通變更ス

一清算人全部辭任ニ付明治四十二年六月二十五日左ノ通選任ス　【住所ハ省略】

中津原周二郎　佐野政德　伊藤義夫　木下馨　村上音吉

明治四十二年七月十五日登記

右公告ス

名古屋區裁判所

新契約停止ノ命令(960)

明治四十二年七月十五日

日東生命保險株式會社

〔一・二三、官報〕農商務省告示第十號

保險業法第十一條ニ據リ新潟縣中頸城郡高田町大字呉服三十二番地日東生命保險株式會社ニ對シ新ニ保險契約ヲ締結スルコトヲ停止シタリ

明治四十二年一月二十三日

農商務大臣　男爵　大浦兼武

解散及清算人登記(961)

〔六・三〇、官報〕日東生命保險株式會社登記事項中左ノ通追加ス

一解散ノ事由及年月日　明治四十二年三月四日臨時株主總會ノ決議ニ因リ解散ス

一清算人ノ氏名住所　新潟縣中頸城郡高田町大字新中殿二十一番地　上野茂三郎

同縣同郡上杉村大字山高津二十七番地　渡邊宏榮

東京市日本橋區南茅場町十五番地　石井隨應

明治四十二年　徴兵保險　帝國徴兵保險　日東生命

右明治四十二年六月二十二日登記

高田（新潟地方裁判所管内）區裁判所

東洋生命保險株式會社

社長交迭(962)

〔五・六、保險銀行時報〕東洋生命の社長交迭

東洋生命保險會社は從來秋田毅氏が社長にて經營され居たる所、今回都合ありて同氏は辭任し、監査役たりし西谷金藏氏が入つて社長の椅子に就きたるが聞く所に依れば今後多少營業方針に變更あるべしとの事なり、尙又別項にも記載せる如く同社營業部長古田錞次郎氏も社長の更迭と共に同社を退き太平生命に入社したり

役員就任(963)

〔一〇・二七、官報〕東洋生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一取締役尾高次郎、森村金造、西谷金藏、本城清彦、古城菅堂ハ明治四十二年十月三日重任シ大池忠助、賀田金三郎ハ同日取締役ニ就任ス

尾高次郎　森村金造　西谷金藏　本城清彦　古城菅堂　大池忠助　賀田金三郎【住所省略】

一監査役山口太兵衞、佐本壽人ハ明治四十二年十月三日重任シ大池忠助ハ同日退任セリ

山口太兵衞　佐本壽人

右明治四十二年十月十八日登記

東京區裁判所

大同生命保險株式會社

移轉廣告(964)

〔一・二四、中外商業〕移轉廣告

當會社本店假新築今回竣工に付當月二十五日より左記營業所に於て執務致候

追て電話番號も全部變更申候

大阪市西區江戸堀上通一丁目九番地　大同生命保險株式會社

外國ニ於ケル營業ニ關シ照會(965)

農商務省商工局長ヨリ大阪府知事へ照會　明治四十二年二月十九日

商局發第二三八號　去ル四十年四月十一日附商發第四三號ヲ以テ保險會社カ外國ニ於テ事業ヲ經營スル場合ハ認可申請可致旨及御通牒猶昨四十一年五月十九日附商局發第二三八號ヲ以テ會社ノ外國ニ於ケル施設ノ狀況御取糺方及御照會候處貴管下大同生命幷ニ日本海上運送火災兩保險株式會社ヨリハ未タ何等ノ答申無之大阪火災　明治四十二年　東洋生命　日東生命　大同生命

海上運送保險株式會社ニアリテハ昨四十一年九月廿四日附商乙第一〇七二號ヲ以テ施設ノ狀況ニ關スル答申書御進達ニ相成之ニ對シ同年九月二十九日附商局發二三八號ヲ以テ認可申請ノ手續ヲ履ミ候樣及御照會置其儘ニ相成居候テ何レモ調査上支障不些候條右三會社ニ對シ至急相當手續完了可致樣篤ト御示達相煩度此段重テ及御照會候也

（966）外人契約無之旨會社ノ答申

答申書　明治四十二年三月十七日

清韓其他ノ外國ニ於テ保險事業ヲ經營スル場合ハ相當手續ヲ爲スヘキ旨御指示相成敬承仕候當會社ハ定款ノ規定ニ從ヒ外國ニ渡航セル日本人ヲ被保險人トシ之ト保險契約ヲ締結致シ來リ候得共嘗テ清韓人其他ノ外國人ニ對シ契約ヲ締結シタル事無之候

右及御答申候也

（967）社長就任届

社長就任御届

當會社々長取締役廣岡久右衞門儀本月弐拾日死亡致候ニ付昨十三日取締役會ニ於テ互撰ノ結果取締役廣岡惠三社長就任ノ事ニ相成候間此段申上候也

明治四十二年六月二十四日　大阪市西區江戸堀上通壹丁目九番地　大同生命保險株式會社

取締役　廣岡惠三　廣田千秋　西田由　橋本篤

農商務大臣　男爵　大浦兼武　殿

（968）定款變更認可申請

定款變更認可申請書

明治四十二年八月三十日當會社臨時株主總會ニ於テ左ノ通リ定款條項中變更ノ件決議致候間御認可被下度理由書相添ヘ此段申請仕候也

一定款第二十五條中當會社ノ取締役「五名」トアルヲ「七名以内一ト監査役ハ「二名」トアルヲ「三名以内」ト改ム

一定款第三十條中第一項ヲ

「取締役又ハ監査役ニ缺員ヲ生シタルトキハ補缺撰擧ヲ行フ但現員ガ法定ノ員數ヲ下ルコトナク且取締役會ニ於テ業務ニ差支ナシト認メタルトキハ補缺撰擧ヲ行ハサルコトヲ得」ト改ム

一定款第三十條第二項中選任シタル取締役「及ヒ」トアルヲ「又ハ」ト改ム

明治四十二年九月三日　大阪市西區江戸堀壹丁目九番地　大同生命保險株式會社

取締役社長　廣岡惠三

農商務大臣　男爵　大浦兼武　殿

【備考】明治四十二年十一月十日認可――第八回事業報告書ヨリ

明治四十二年　大同生命

千代田生命保險相互會社

本社移轉(969)

本社ノ移轉（第六回明治四二・一・一―同四二・三・一事業報告書ヨリ）

明治四十二年五月十七日本社ヲ京橋區桶町十八番地ノ新築家屋ニ移轉セリ

四十二年主要事項(970)

萬歲生命保險株式會社

明治四十二年ノ主要事項（第四回明治四二・一・一―同四二・三・一事業報告ヨリ）

一月九日　顧問粟津清亮氏ヨリ辭任ノ旨申出ニ付二月十七日其承諾ヲ爲シタリ

六月六日　相談役男爵澁澤榮一氏ヨリ辭任ノ旨申出ニ付同月十二日其承諾ヲ爲シタリ

國光生命保險相互會社

第二類普通保險約款（抄）（明治四十二年一月十二日刺定 同年七月一日實施）

【備考】本約款中明治四十年約款（本編840）ト略同樣ノ規定ハ省略セリ

第八條　被保險者カ從軍スルカ又ハ戰爭其他ノ變亂ノ地ニ赴クトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ豫メ其旨ヲ當會社ニ通知スヘシ

此場合ニ於テハ當會社ハ其事由ノ繼續スル期間ニ對スル特別保險料トシテ普通保險料ノ外ニ保險金額ノ百分ノ二乃至十五ニ相當スル金額ヲ請求スルモノトス

第二十二條　保險契約者ハ保險期間ノ五分ノ一以上ニ亘リ保險料ノ拂込ヲ爲シタルトキハ當會社ノ承諾ヲ得テ保險金額ヲ變更シ將來ノ保險料ノ拂込ヲ免ルヽコトヲ得

〔六・二八、官報〕國光生命保險相互會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一明治四十二年六月十九日事務所ヲ左ノ所ニ移轉ス

事務所　東京市京橋區南鍋町二丁目十三番地

明治四十二年　千代田生命　萬歲生命　國光生命

右明治四十二年六月二十二日登記

其他ノ事項(973)

其他ノ事項――岩間支配人辭任・定款約款其他基礎書類變更（第二回明治四一・七・一事業報告ヨリ同四二・六・三〇）

一支配人岩間六郎ハ明治四十一年七月廿三日辭任シ同月廿七日之ヲ登記セリ

一明治四十二年一月十六日定款、普通保險約款、事業方法書並ニ保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類ノ變更認可申請書及ヒ理由書ヲ主務省ニ提出ス

一明治四十二年四月八日右書類變更事項ノ訂正及ヒ說明書ヲ主務省ニ提出ス

一明治四十二年六月廿九日定款、普通保險約款、事業方法書並ニ保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類ノ變更認可ヲ受ク

創立總會(974)

富士生命保險株式會社

東京區裁判所

〔三・四、報知〕**富士生命創立總會**　三日午後二時新橋倶樂部に於て開く、出席者三十五名、矢吹男より創立事項の報告を爲し滿場一致を以て承認に決し、次て役員の撰擧に移り取締役に矢吹秀一男、梨羽時起、石黒宇宙治、小川資源、粟屋新三郎、藤本德之進、今井彌一、賀田金三郎の諸氏當選せり

營業免許指令(975)

農商務省指令商第二一八六號

東京市京橋區新肴町五、六番地　富士生命保險株式會社

明治四十二年三月四日付申請生命保險營業ノ件免許ス

明治四十二年三月三十日

農商務大臣　男爵　大浦兼武

(976)

富士生命保險株式會社定款（抄）

【創立當時ノモノ】

第一章　總則

第一條　當會社ノ商行爲及株主間ノ關係ニシテ此定款ニ明文ナキモノハ凡テ法律ノ規定ニ從フ

第二章　商號、目的及所在地

第二條　當會社ハ富士生命保險株式會社ト稱ス

第三條　當會社ハ生命保險事業ヲ以テ營業ノ目的トシ被保險者ハ內外國ニ在住スル日本帝國ノ臣民ニシテ保險契約締結ノ時ニ於テ滿十四年七ケ月以上滿六拾五年六ケ月以下ノ者タルコトヲ要ス

第四條　當會社ハ本店ヲ東京市ニ置ク

淸韓米三國及內地ノ各要地ニ出張所或ハ代理店ヲ置ク事アルベシ

第三章　資本金

第五條　當會社ハ資本金ヲ五拾萬圓トス

第五章　株式

第七條　當會社ノ株式ハ五千株ニシテ一株ヲ壹百圓トス

第九條　當會社ノ株金ハ第一回拂込ヲ一株ニ付貳拾五圓宛トナシ第二回以後ノ拂込ハ必要ニ應ジ之ヲ拂込マシム其拂込ノ時期及金額ハ取締役會ニ於テ之ヲ定メ各株主ヘ催告スヘシ

第六章　株主總會

第十七條　定時株主總會ハ每年二月之ヲ開會ス

第十八條　臨時株主總會ハ左ノ場合ニ之ヲ招集ス

一取締役又ハ監査役ニ於テ必要ヲ認メタルトキ

二商法第百六十條第一項ニヨリ株主ヨリ請求アリタルトキ

第七章　役員

第二十三條　取締役ハ七名以上拾名以下監査役ハ三名以上五名以下トス

第二十六條　取締役ハ互選ヲ以テ社長一名ヲ定ム
社長ハ會社ノ業務ヲ總理シ且主トシテ會社ヲ代表ス

第二十七條　取締役ノ任期ハ三ケ年トシ監査役ノ任期ハ二ケ年トス但再選ヲ妨ケス

第二十八條　事業方法書、保險約款、保險料及責任準備金算出基礎ノ變更、出張所ノ設置、廢止、支配人ノ任命、解任並ニ財産ニ關スル利用方法其他重要ノ事項ハ取締役會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第八章　計算

第三十二條　當會社ハ毎年十二月末日ヲ以テ決算期トス

第三十三條　當會社ハ前期諸繰越金及其他總收入金ヨリ支拂保險金、解約返戻金、祝壽保險金及保險責任準備金、特別危險責任準備金、支拂備金ヲ控除シ尚營業費其他ノ支出金ヲ引去リタル殘額ヲ純益金トス

第三十四條　當會社ハ純益金中ヨリ其ノ百分ノ五以上ヲ法定準備金トシ其殘額ヲ左ノ比例ニ依リ分配ス但計算ノ都合上純益金ノ全部又ハ一部ヲ次期ニ繰越スコトアルヘシ
保險契約者利益分配金　百分ノ五十以上
株主特別配當金　百分ノ四十以內
役員賞與金　百分ノ十以內

第三十五條　前條ノ保險契約者利益分配金ハ普通保險約款ノ定ムル所ニ據リ保險契約者ニ分配ス

事業方法書（抄）

【創立當時ノモノ】

第一章　事業ノ範圍

第一條　當會社ノ被保險者ハ日本帝國ノ臣民ニシテ帝國內地及清韓、米三國其他諸外國に住居スルモノニ限ル
但朝鮮人ハ奏任官以上ニシテ生活程度中流以上ノ者及金壹千圓以上ノ年收アルモノニシテ生活程度佳良ナル者ニ限ル
前項ノ場合ニ於テ普通保險約款第七條及第八條ニ據ル戶籍謄本等ヲ要スル場合ハ官公署ノ相當證明書ヲ以テ之ニ代フ

第二章　保險ノ種類

第二條　當會社ニ於テ營ム保險ノ種類ハ普通養老保險、祝壽養老保險ノ二種トス

第三條　普通養老保險ハ被保險者カ保險期間內ニ死亡シタル場合又ハ該期間ノ滿了ニ至ル迄生存シタル場合ニ於テ一定ノ保險金ヲ支拂フモノニシテ左ノ八種トシ其保險料拂込方法ハ請取年齡迄一年拂濟、十年拂濟、二十年拂濟ノ四種トス

四十歲請取養老保險、四十五歲請取養老保險、五十歲請取養老保險、五十五歲請取養老保險、六十歲請取養老保險、六十五歲請取養老保險、七十歲請取養老保險、七十五歲請取養老保險

第四條　祝壽養老保險ハ八十七歲請取養老保險ニシテ被保險者カ保險期間內ニ死亡シタル場合又ハ該期間ノ滿了ニ至ル迄生存シタル場合ニ於テ一定ノ保險金ヲ支拂フ外左ノ三種ニ區別シテ祝壽保險金ヲ支拂フモノトス

一　三回祝壽養老保險　此種類ハ滿六十歲迄保險料ヲ拂込ムモノニシテ被保險者カ滿六十歲、滿七十六歲及滿八十七歲ノ契約相當日ニ生存スルトキハ其都度保險金ノ半額ニ當ル祝壽保險金ヲ支拂フモノトス

一　二回祝壽養老保險　此種類ハ滿七十六歲迄保險料ヲ拂込ムモノニシテ被保險者カ滿七十六歲及滿八十七歲ノ契約相當日ニ生存スルトキハ其都度保險金ノ半額ニ當ル祝壽保險金ヲ支拂フモノトス

一　一回祝壽養老保險　此種類ハ滿八十七歲迄保險料ヲ拂込ムモノニシテ被保險者カ滿八十七歲ノ契約相當日ニ生存スルトキハ保險金ト同額ノ祝壽保險金ヲ支拂フモノトス

以上三種トモ保險料一時拂ノ方法アリ

第三章　保險金ノ制限

第五條　當會社ニ於テ契約スル保險金額ハ被保險者一人ニ對シ最低金參百圓最高金壹萬圓トス

第六章　保險料

第十二條　營業保險料算出ハ純保險料ニ其十分ノ二及保險金額ノ千分ノ一ヲ加ヘタルモノトス
但祝壽養老保險ハ純保險料ニ其十分ノ二及保險金額ノ千分ノ二ヲ加ヘタルモノトス

第七章　利益分配

第十四條　當會社ハ毎年定款ノ規定ニ據リ純益金ノ一部ヲ定款第三十四條ニ據ル保險契約者ニ對シ利益分配金トシテ其責任準備金ノ比例ヲ以テ割當テ積立置クヘシ

第十五條　前條ノ分配金ハ普通保險約款第二十一條ニ據リ支拂フモノトス

第十章　特別危險責任準備金

第二十條　被保險者カ戰爭其他變亂ノ危險及旅行、職業等ノ危險ニ對シテハ毎年末ニ於ケル總保險金額ノ千分ノ一ヲ特別危險責任準備金トシテ毎年累加積立ツルモノトス但此準備金ハ死亡率ヲ超過シタル部分ニ對スル總テノ保險金ヲ支拂フモノトス

第十一章　解約返戻金

第二十一條　解約返戻金計算ノ方法ハ責任準備金ヨリ費用ノ賠償トシテ保險金額ノ百分ノ三ト責任準備金ノ十分ノ二ニ當ル金額ヲ控除シテ殘額ヲ拂戻スモノトス

富士生命保險株式會社普通保險約款（抄）

【創立當時ノモノ】

第四條　保險料拂込猶豫期間ヲ經過シテ尚保險契約者ガ保險料ヲ拂込マサル場合ニ第十八條ニ規定セル解約返戻金ガ延滯保險料ニ相當スル金額以上アルトキハ會社ハ直チニ其返戻金ヲ貸付金ニ振替ヘ拂込ニ充用ス此貸付金ニ付テハ一日壹萬分ノ四ノ利子ヲ領收スルモノトス

第拾貳條　左ノ場合ニ於テハ會社ハ保險金支拂ノ責ニ任セス

一契約後滿五ケ年以內ニ被保險者ガ自殺シタルトキ又ハ自殺セントシタルコトガ原因トナリテ死亡シタルトキ

【二、三ハ省略】

第拾參條　旅行職業等ノ危險及戰爭其他ノ變亂ノ危險ニ因リ死亡シタル場合ト雖モ會社ハ保險金支拂ノ責ニ任スヘシ

第拾五條　保險契約者カ保險料ヲ支拂ハズシテ保險契約ノ効力ヲ失ヒタル後一ケ年以內ニ會社ノ定メタル書式ニ據ル健康證明書ヲ提出シテ保險契約ノ復活ヲ請求スルトキハ會社ハ被保險者ノ身體ニ異狀ナシト認メタルトキニ限リ延滯シタル保險料ト之ニ對スル一日壹萬分ノ四ノ利子トヲ領收シテ之ヲ承諾スヘシ

第拾六條　保險契約無効ノ場合ニ於テハ會社ハ既收保險料ヨリ其ノ十分ノ二及保險金額ノ百分ノ三ニ當ル金額ヲ控除シ殘額ヲ拂戻スモノトス

但第十條第一號及第二號ノ場合ニ保險契約者又ハ被保險者ガ惡意ノトキハ此限リニ非ス

第拾八條　保險契約ノ解除失効又ハ會社ガ保險金ヲ支拂フ責ニ任セサル場合ニ於テハ會社ハ責任準備金ヨリ保險金額ノ百分ノ三ト責任準備金ノ十分ノ二ニ當ル金額ヲ控除シテ殘額ヲ拂戻スモノトス

但第拾貳條第三號ノ場合ハ此限リニ非ス

第拾九條　會社ハ保險契約者及保險金受取人ノ連帶ノ請求アリタルトキハ前條ノ拂戻金額以內ニ限リ貸付金ヲナスベシ

第貳拾條　保險契約者カ將來ノ保險料免除ヲ請求スルトキハ第拾八條ノ返戻金アルトキニ限リ相當金額ノ拂濟證券ニ振替交付スヘシ

第貳拾壹條　保險金壹件金壹千圓以上ノ保險契約者ハ滿二ケ年以上ヲ經過シタル後ニ於テ又保險金壹千圓未滿ノ保險契約者ガ增額シテ金壹千圓以上ニ達シタルトキハ其增額ヨリ滿二ケ年ヲ經過シタル後ニ於テ又保險金壹件金壹千圓以上ノモノ增額シタルトキハ其年ヨリ增額ヲ通算シテ何レモ會社ノ利益分配ニ與カル權利ヲ有シ被保險者及保險金受取人及ヒ保險金壹千圓未滿ノ保險契約者ハ會社ノ利益配當ニ與カルコトヲ得ス

但、保險契約者ハ當會社ノ承諾ヲ得テ此利益分配ニ與カル權利ヲ被保險者又ハ保險金受取人ニ讓與スルコトヲ得

會社ハ純益金中ヨリ法定準備金及年六朱ニ當ル株主配當金ヲ控除シタル殘額ノ百分ノ五十以上ヲ以テ前項ノ利益分配トシ每年度末ニ於ケル有權者ニ對シ其責任準備金ノ比例ヲ以テ分配ノ計

算ヲナス

前項ノ分配金ハ會社營業年度五ケ年每ニ之ヲ取纏メテ支拂フモノトス若シ其以前ニ保險金ノ支拂ヲナス場合ニハ會社ハ既ニ積立テタル分ヲ有權者ニ支拂フベシト雖モ契約ノ解除失効又ハ無効ノ場合ニアリテハ會社ハ其ノ積立タル分ヲ支拂ハス

前條ノ拂濟證券ヲ得シモノハ其年度以後ノ利益配當ニ與カル權利ナシ

〔四・一九、官報〕株式會社登記簿第一四冊第六一〇號

一商　號　富士生命保險株式會社

一本　店　東京市京橋區新肴町六番地

一設立年月日　明治四十二年三月三日

一資本ノ總額　金五十万圓

一一株ノ金額　金壹百圓

一各株ニ付拂込ミタル株金額　金二十五圓

一公告ヲ爲ス方法　本店所在地管轄區裁判所カ商業登記公告用トシテ指定スル新聞紙ニ揭載ス

一取締役ノ氏名住所　【住所ハ省略】　矢吹秀一　梨羽時起　石黒宇宙治　山川資源　粟屋新三郎　藤本德之進　今井孫市　賀田金三郎

一監査役ノ氏名住所　【住所ハ省略】　柴山矢八　阪井重季　岩田宙造　藤岡市助

一設立費用償却ノ方法　初年度ニ於テ全部償却ス

右明治四十二年四月一日登記

明治四十二年　富士生命

東京區裁判所

我社の五義　（創業當時ノ保險案内ヨリ）

富士は不時です不時の用意の生命保險です
富士は不二です二つとない良會社たることを期して居ります
富士は不死です無病長命の人の爲めに祝壽養老保險があります
富士は訓んで文字の如く被保險者は皆富める紳士となるのです
富士は父子と姉妹とに通じます卽ち親も子も貴女も殿方も生命保險は必要です

太平生命保險株式會社

〔三・二四、大阪毎日〕**太平生命創立總會**　元農商務省保險課長楠秀太郎氏の主唱にかゝる太平生命保險株式會社は去る二十日東京築地同氣倶樂部に於て創立總會を開き、役員詮考委員早川千吉郎、村井吉兵衞兩氏の選定に依り取締役に中村靜嘉、楠秀太郎、村井貞之助、倉知誠夫、前川善平、內野五郎三、高山長幸の七氏、監査役に舟木練太郎、潮田方藏の二氏就任し猶ほ株主中より早川、村井兩氏並に田邊貞吉氏等を相談役に囑托する筈にて開業は來月中旬なりと云ふ

〔五・一三、官報〕株式會社登記簿第一四冊第六一三號（抄）

一商　號　太平生命保險株式會社
一本　店　東京市京橋區築地二丁目十五番地
一設立ノ年月日　明治四十二年三月二十日
一資本ノ總額　金五十万圓
一一株ノ金額　金一千圓
一各株ニ付拂込ミタル株金額　金二百五十圓
一取締役ノ氏名住所【住所ハ省略】楠秀太郎　中村靜嘉　村井貞之助　內野五郎三　倉知誠夫　前川善平
高山長幸
一監査役ノ氏名住所【住所ハ省略】舟木錬太郎　潮田方藏
一設立費用償却ノ方法　設立費用ハ初年度ニ於テ之ヲ償却スルモノトス
右明治四十二年五月五日登記

東京區裁判所

創立總會ヨリ開業マデ（第一回明治四二・一・三・二〇事業報告書ヨリ同四二・一二・三一）

一三月二十日創立總會終了後引續キ取締役會ヲ開キ社長及專務取締役ニ楠秀太郎氏當選セリ
一三月二十五日營業免許申請書幷ニ附屬書類ヲ主務大臣ニ提出セリ
一三月三十日主務省ヨリ檢査官出張諸帳簿及諸書類ノ檢査ヲ受ケ翌日ヲ以テ終了セリ

明治四十二年　富士生命　太平生命

一四月二十七日付ヲ以テ主務大臣ヨリ營業免許ノ指令ヲ下付セラレ二十八日之ヲ受領セリ
一五月五日東京區裁判所ニ於テ設立登記ヲ終了セリ
一五月五日營業ヲ開始セリ
一五月六日登記濟報告書及開業届ヲ主務大臣ニ提出セリ

東海生命保險相互會社

〔九・八、東京日々〕東海生命保險申請　農商務省にては七日久保勇、藤田昆直、河原林義雄外十五氏の發企に係る資本金五十万圓の東海生命保險株式會社の認可申請書を受理したる旨岡保險課長は語れり

明治四十三年

帝國生命保險株式會社

明治四十三年ノ主要事項——利附終身開始・關東州ノ營業・責任準備金計算變更・定款中變更（第二十五回明治四三・一一・一二・三一事業報告ヨリ同）

一一月十日利益配當附尋常終身保險（毎五年利益配當）營業開始ノ件農商務省ノ認可ヲ得タリ
一十月十九日關東都督府令第貳拾壹號ニ基キ同州ニ於ケル事業ノ經營方法ニ關シ關東都督ニ届出タリ
一十月二十七日責任準備金計算ノ基礎及方法ノ變更ノ件農商務大臣ノ認可ヲ得タリ
一十一月二十二日定款第參拾四條削除ノ件農商務大臣ノ認可ヲ得タリ

內國生命保險株式會社

新社長決定其他 (986)

〔五・二六、中外商業〕**內國生命保險新社長**　內國生命保險會社は二十四日臨時株主總會を開き取締役補缺選擧の件幷に定款改正の件を附議したるが、取締役には早川鐵冶氏擧げられ又約款改正幷に利益配當附保險事業を營むに就ての定款改正の件も異議なく可決せり、尙二十五日更に取締役會を開き重役互選の上早川氏を社長に推したり

主務省ヨリ戒飭 (987)

〔六・三〇、報知〕**內國生命戒飭さる**　內國生命保險會社は曩に保險事務官の檢査を受けたる結果、財産狀態頗る危險なりと認定せられ、四月八日附を以て新契約停止を命ぜられたるが尙ほ同社に對し六月三日附肥田商務局長代理より東京府知事宛にて發せられたる整理命令の趣旨左の如きものなりと

【前略】檢査の結果に依れば會社客年中株式の定期取引をなしたる形跡有之資産の運用上最も周密を要する保險會社にして投機行爲をなすが如きは甚だ不都合の儀に候條爾後此の如き行爲を再せざる樣御戒飭相成度又當會社の什器整理は甚た不充分と被認候條速に之が調査及整理をなし什器臺帳に登載候樣御示達相成度又會社所有の七十七銀行株式及金華山漁業會社株式は機を見て處分候樣致度云々

等にして命令の條項は十一項より成れるが其概要を擧れば

一本年十二月三十一日迄に未拂込株金の拂込をなす事

四貸付金を遲滯なく取立る事

五二十銀行に對する預金及下村房次郎外三名に對する貸金を遲滯なく取立る事

六別勘定に屬する會社の權利を行使又は保全する事

十財産狀態を精算し缺損金補塡方法を報告する事

〔一〇・二七、保險銀行時報〕**內國生命の其後に就て**　內國生命保險株式會社は主務省より受けたる十餘箇條より成る整理命令中債權債務の處理すへき者は夫々整理を遂げたる結果として現存する百七十萬圓內外の責任準備金は夫々取引銀行に預托しあるも右金額に比し不足を生ずるより之を補塡する爲め主務省は特に此際一定金額の拂込みを命令したるなり然るに下村前社長、野村前專務に代り入りて經營の局に當りたる現任早川社長、河村專務を始め此系統に屬する株主間には前重役より株式の引受けを爲す當初に於て今後拂込みを爲さずとの內約ありたることとて主務省の命令とは云へ如何にも拂込み難き事情あり自餘の株主又た固より一部の重役の失態より生ぜる缺損補塡の爲めハサ〳〵拂込みに應ずるを快しとせざる色あり旁々今以て拂込問題は未解決の儘横はり居れる爲め主務省にては新契約の手控命令を撤回せざる而已ならず更に一段嚴重の態度を以て拂込の速行を促がすより會社重役は目下非常の苦境に立ちつゝありと說く者なきにあらざれども同社は旣に諸般の整理をなし早川社長始め熱心業務を取りつゝあれば是れ爲にせんとする者の風評ならんと信ずるが故に同社のため此所に記する事とせり

明治四十三年　內國生命

國民生命保險株式會社

〔四・九、官報〕國民生命保險株式會社登記事項中取締役ノ內任期滿了又ハ死亡ニ因リ撰擧ノ結果左ノ者當選就任セリ

松阪昭二　森正約三

同上事項中監査役三名任期滿了ニ因リ改撰左ノ者當撰就任セリ

堂面松吉　村上九一　戸田宗三郎

右各明治四十三年三月七日登記

廣島區裁判所

佛教生命保險株式會社

任意解散認可申請

一當會社ハ去ル拾五日開催ノ臨時株主總會ニ於テ任意解散ヲ決議致候ニ付御認可相成度別紙決議錄謄本並ニ財産目錄貸借對照表相添ヘ此段申請候也

追テ前記財産目錄及貸借對照表作成ノ基礎トナリタル同日現在ノ總勘定元帳殘高表幷ニ支拂備金內譯表保險契約高表責任準備金明細表及損益計算書御參考迄ニ添附致候

明治四拾參年參月貳拾六日

京都市下京區河原町通四條上ル米屋町參百八拾五番地　佛教生命保險株式會社

取締役　孝橋龜次郎

農商務大臣　男爵　大浦兼武　殿

【備考】明治四十三年五月二十八日附農商務省指令商第二一一七號ヲ以テ認可

明治四十三年　內國生命　佛教生命

債權申出催告(991)

〔六・二二、京都日出〕**廣　告**

本會社ハ去三月十五日臨時株主總會ニ於テ任意解散シ客月廿八日主務大臣ノ認可アリタルニ付テハ會社ノ債權者ハ本年八月三十日限京都市下京區河原町通四條上ル米屋町三百八十五番地當會社清算事務所ニ其債權ヲ届出ラルベク若シ同日迄届出ヲ爲ザル時ハ清算ヨリ除斥セラルベシ右催告ス

明治四十三年六月

佛教生命保險株式會社
清算人　奥島元次郎

清算人登記濟届(992)

御　届

一當會社任意解散シ左記ノ通リ登記候ニ付登記簿抄本相添ヘ此段御届申上候也

一明治四拾參年五月貳拾八日任意解散ス

一清算人ノ氏名住所左ノ如シ

京都市下京區不明門通七條下ル東鹽小路町七拾壹番戸　奥島元次郎

大阪府東成郡依羅村大字苅田六百貳拾七番地　東野修一郎

以上

右明治四拾參年六月九日登記

明治四拾參年六月貳拾八日

京都市下京區河原町通四條上ル米屋町參百八拾五番地　佛教生命保險株式會社

清算人　奥島元次郎

農商務大臣　小松原英太郎殿

社業現況(993)

有隣生命保險株式會社

〔六・一七、東京日々〕**有隣生命の現況**　日本橋區南茅場町なる有隣生命保險株式會社は昨年滿十五周年紀念募集を各方面に亘りて行ひ一般の不景氣にも拘らず豫定の成績を擧げたるが、本年は更に飛躍を試みん計畫にて近く東京市内は勿論、全國に亘り活動を開始すべしといふ、因に同社の諸積立金は百八十餘萬圓にして契約額一千八百萬圓に上り創業以來既に百七十餘萬圓の保險金を支拂ひたりと

専務取締役變更(994)

專務取締役變更

明治四十三年三月十九日取締役會ニ於テ取締役井口半兵衞ヲ專務取締役ニ推擧シ承諾ヲ得タリ

（第十六回明治四二・四・一事業報告書ヨリ）
（同　同四三・三・三一事業報告書ヨリ）

拾壹月貳日專務取締役井口半兵衞專務辭任ニ付農商務大臣ヘ届出タリ

（第十七回明治四三・四・一事業報告書ヨリ）
（同　同四四・三・三一事業報告書ヨリ）

北陸生命保險株式會社

契約者へ資産分配 (995)

〔六・二七、保險銀行時報〕北陸生命資産分配　北陸生命保險會社は爾來富山地方裁判所の管理の下に破産手續中なりしが同破産管理人より優先權を有する保險契約人に對し七月一日より第一回の資産配當をなすべき旨公表ありしが其率は純保險料百分の十八にして配當金總額は五萬五千二百餘圓なるが其殘額は破産費用に充當すべしと云ふ

(996)

日本共立生命保險合資會社

社長逝去 (997)

〔一一・二七、保險銀行時報〕日本共立社長逝去　日本共立生命の社長として同社のため功勞多かりし藤川氏は病魔の犯す所となり白玉樓中の人となられ去二十四日葬儀を執行せられたるが同氏生前の知己多きため會葬者多數なりき吾人同氏の此悲報に接したるを悼む

會社檢査ノ結果諭達事項ヲ通牒

農商務省商務局長ヨリ京都府知事ヘ通牒　明治四十三年十二月二十七日

貴管下日本共立生命保險合資會社ニ對シ今回局員ヲシテ檢査ヲ執行セシメ候處該會社ハ四十三年六月未拂込資本金ノ內貳萬五千圓ノ拂込ヲ實行シタリト云フモ現實ノ拂込ニアラスシテ直チニ貸付金ニ振替ヘ且貸付期限ヲ經過セルニ拘ラス何等ノ手續ヲモ爲サヽルモノニ有之然ルニ一方拂込資本金五万圓ヲ切捨テ缺損塡補ニ充テタル結果目下實質上拂込資本金ヲ有セサルカ如キ狀況ニ有之不都合ノ次第ニ付速カニ該貸付金ヲ回收シ拂込資本金ヲ充實致候樣嚴重ニ御諭達相成度又該會社ハ客年十月五ケ年間ニ對スル收支豫算ヲ提出シ營業費ニ於テモ緊縮ニ努メツヽアリト雖モ新契約ハ豫算通募集スルヲ得サルニ反シ營業費ハ比較的多額ヲ支出スルカ如キ現狀ニ有之若シ該會社ニシテ此際營業方針ヲ一變スルニ非レハ過去ノ經驗ヲ繰返スニ過キスシテ遂ニハ會社存立ノ困難ヲ來スコトナキヲ保シ難キ次第ニ付會社ノ將來ニ關シ更ニ具體的方針ヲ立テ具申候樣御諭示相成度尙又該會社ハ業務上並ニ財産上ニ於テ左記ノ點ハ整理改善ヲ要スルモノト被認候ニ付其旨御示達相煩度

追テ該會社ハ保險金支拂ニ際シ告知義務違反ニ關スル事故ヲ發見スルコト多ク之カ爲メ保險金ヲ支拂フヘカラサルモノトシ義濟金ナル名義ノ下ニ支出セル金額不尠ニ付此等ハ必竟契約締結ニ際シ愼重ナル調査ヲ遂ケサル結果ト被存候ニ付今後此點ニ關シ充分注意スヘキ旨御垂示相成度

右依命通牒ス

【左記省略】

明治四十三年　北陸生命　日本共立生命

【備考】明治四十五年一月二十日右ノ諸般ニ關スル整理命令ニ付答申書ヲ提出セリ

博愛生命保險株式會社

事業方法書中追加認可申請(998)

認可申請書

當會社事業方法書中別紙ノ通リ追加致度候間御認可相成度此段申請候也

明治四十三年十二月二十六日

京都市上京區二條通東洞院東入松屋町第三十三番戸　博愛生命保險株式會社

取締役社長　守山又三

農商務大臣　男爵大浦兼武殿

【備考】明治四十四年一月十七日附農商務省指令商第一二二號ヲ以テ認可

追加事項(999)

事業ノ範圍

當會社ノ契約スヘキ被保險者ハ內國ニ於ケル一般公衆トス

（事業ノ範圍）

但朝鮮國及朝鮮國民ハ之ヲ除外ス

理由書

朝鮮國併合ノ結果當會社事業ノ範圍ヲ明定スルノ必要ヲ生ジタルニ因ル

追加理由

其他ノ事項(1000)

其他ノ事項——增資・定款變更・社長更迭（第十九回明治四二・四・一報告ヨリ同四三・三・三一報告ヨリ）

一九月三十日臨時株主總會ヲ開キ資本金增加ノ件及定款變更ノ件ヲ決議ス

一八月二日取締役竹下康之社長ヲ辭任シ取締役守山又三社長ニ就任セリ

一十一月二日農商務大臣ヨリ定款ノ變更ヲ認可セラレタリ

清算事務(1001)

大阪生命保險株式會社

【六・二〇、保險銀行時報】大阪生命解散事務終了難　經濟界を騷したる例の大阪生命解散事務は其後法律不備の爲め意の如くに進まず徒らに時日を遷延しつゝありしが同社は曩きに一二回に渉り被保人に割戻金を交付

明治四十三年　博愛生命　大阪生命

ノ終了至難

したるが何分五萬餘人の多數とて時日を經過したる今日となりては被保人中居所不明のものも多く今に交付の結了を見る能はず隨て同社清算人側に在りても此等居所不明の向に對しては時効の到來を待つより他に策なき有樣にて時効經過後此等交付すべき金額は如何に處分すべきか將た又些少の金額と雖も交付すべき金額のある間は依然として精算人を置かざるべからず旁々それ等費用の見積り等に至りても殆んど空漠として豫定する能はざる等生命保險の解散は他の商事會社と趣きを異にせるだけ事務の終了は却々の至難なるべしといふ

重役間ノ紛糾(1002)

仁壽生命保險合資會社

〔七・九、東京日々〕**仁壽益々紛糾**　長郷專務拘引　仁壽生命保險會社が重役爭奪問題のため長郷專務と山口常務との間に鬮鬪を惹起し居るは既記の如くなるが、六日午後八時長郷專務は突然東京地方裁判所に召喚せられ宮崎檢事より長時間の取調を受け午後十時より松谷元三郎氏も喚問取調べを受け長時間に亘り松谷氏は日本倉庫の財産調査を命ぜられ歸宅を許されたるも長郷氏は七日午前四時警視廳に押送せられ其儘留置せられたり事件の內容　は兩派とも口を緘して言はざるを以て知るに由なきも、探聞する所によれば長郷泰輔氏は仁壽の業務執行者として日本倉庫に對し新に五十萬圓を限度とする社債の募集に應ずる契約を六日締結したるにより目下の日本倉庫財産が五十万圓に充たざるに五十万圓を限度とする社債を發行し情を知りて之が應募を他にも業務執行者の存するに拘はらず獨斷に契約したるは、其間何等かの情實若くは詐僞行爲を含まざるかに就て山口常務及ひ吉澤監査役の告訴する所となりたるものならんかといふ

山口派ノ勝利(1003)

〔七・一八、中外商業〕**仁壽生命總會**　結局山口派の勝利　仁壽生命保險會社にては十七日午前九時より繼續總會を開く、出席者は長郷派三名を除き山口派全部にして當日の議案たる取締役一名の補欠選擧を行ひ吉澤氏選任せられたるも出席者は左の如く定員に滿たざるを以て更に廿四日繼續會を開き同氏の選任を確定すると同時に監査役二名を選定することゝせり、尚同日午後二時より長郷氏の辭任に關する第二總會を開く出席者は午前の總會の如く山口派全部委任狀共にして長郷氏の解任を決議す斯くて同氏の解任は愈々確定したれば會社は十八日右解任に關する登記を爲す筈なり久しく未解決の間にありたる同社の紛議も之にて山口派の勝利にて鳧を附けたり

松谷拘引(1004)

〔七・二三、中外商業〕**松谷天一坊拘引**　仁壽生命の乘取り策に敗れて過日來檢問中たりし松谷元三郎は二十一日午後四時より東京地方裁判所福岡檢事の取調べを受け同六時休憩更らに同九時より引續き翌午前三時に亘りて嚴重なる取調べの末東京監獄へ收容されたるが右は曩に入檻せる前專務長郷泰輔の取調べ進行せる結果な

りと

【九・一六、大阪毎日】仁壽保險內訌の落着　仁壽生命保險會社の內訌は改革派の勝利に歸し長鄕泰輔は社員總會に於て除名せられ其補充として谷新助氏新たに入社したるか、去一日役員選擧の結果社長には下鄕傳平氏取締役には山口久四郎、吉澤絆三郎の兩氏、監査役には松平直亮、三野村利市氏各就任し又前社長辻新次氏は監督に推選され依然會社の爲めに盡力する事となれりと、尙ほ同會社は現在契約高は三千万圓以上また昨年度末に於ける諸準備金は三百二十七万五千餘圓にして有價證券二百万圓以上は之れを日本銀行に保護預けとなしある由

（内訌落着）(1005)

其他ノ事項——定款變更・未經過保險料計算ノ基礎書類變更（第十六回明治四三・一二・三一報告ヨリ同）

一明治四十三年六月十八日臨時總會及同七月三日其第二總會ノ決議ニ基ツキ定款變更ノ件同七月五日農商務大臣ニ認可ヲ申請シ同月八日認可ヲ得タリ【第八條社員ノ持分讓渡ニ關スル規定ヲ改正】

一明治四十三年十月三日未經過保險料計算ノ基礎ニ關スル書類變更ノ件農商務大臣ニ認可ヲ申請シ同十三日認可ヲ得タリ

（其他ノ事項）(1006)

東亞生命保險株式會社

農商務省商務局長ヨリ大阪府知事ヘ通牒　明治四十三年二月二十六日

商第二三九號　貴管下左記保險會社ハ目下清算中ノ處其進捗ノ模樣承知致度ニ付其現況詳細ニ至急報告スヘク尙最近調製ニ係ル貸借對照表ヲ同時ニ提出方御示達相成度又爾後毎月五日限リ同月末日現在總勘定元帳殘高表ヲ添ヘ前月中ニ於ケル清算進行狀況ヲ委曲報告可致樣併テ御示達相成度

右通牒ス

左　記

大阪市北區西野田玉川町三丁目千三百五十四番地　明治四十年三月六日解散　東亞生命保險株式會社

（清算狀況ニ付通牒）(1007)

上申書

本社清算事務ハ未タ全ク完了セザルモ漸次督促シ居候諸貸付又ハ代理店勘定等口數多有之爲メ兎角回收致兼候得共不怠催促回收ノ目的ニ御座候近々整理速ニ清算事務結了致度都合ニ御座候右概況上申候也

明治四十三年五月廿一日　大阪市北區西野田玉川町三丁目　東亞生命保險株式會社

明治四十三年　仁壽生命　東亞生命

（清算事務概況ニ付上申）(1008)

農商務大臣　小松原英太郎殿

清算人　佐藤善右衛門

眞宗信徒生命保險株式會社

〔四・八、京都日出〕株主總會無効確認事件　眞宗信徒生命保險會社株主三田勝俊より同會社重役を相手取り昨年十一月開會の同會社臨時株主總會無効確認の訴訟は既記の如く當地方裁判所に於て數回口頭辯論を開きたる結果愈々昨日判決を與へらる其主文は被告會社より本派本願寺へ一万五千圓を寄附行爲を以て贈與すとの決議は無効とす其他の原告請求は之を却下す訴訟費用は原被告折半負擔すべしと云ふにあり

九州生命保險株式會社

〔一一・一七、福岡日々〕九州生命破産事件公判　九州生命保險株式會社詐欺破産事件公判は昨日午前十時より福岡地方裁判所刑事法廷に於て引續き其三日目を開廷したるが、被告人河村隆實、林詮吾、朝倉要之助、吉田健藏、中山直方、辯護士中村了詮、星野禮助、梅野正、伊藤久藏、土方千種、坂田豐秋、守屋孝藏、鵜澤聰明の諸氏出廷し星野、坂田、鵜澤三辯護士より一々理由を述べたる上證人として小澤武雄男外數名召喚を申請し新名檢事之に關し簡單なる意見を述べ、大野裁判長は事件頗る複雑なれは證人の召喚も改めて書類を以て申請せられたく合議の上裁決すべしと述べ更に次回公判廷延期に就て辯護士の意見を求めたるに辯護士側よりは保釋其他の事あれは一同協議の上定めたしと答へしかは次回は追て開廷することとして十時四十分閉廷したり

六條生命保險株式會社

商第一〇六〇〇號　貴管下六條生命保險株式會社ニ就キ過般局員ヲシテ清算狀態ニ關シ檢査ヲ執行セシメ候處其復命ニヨレハ該會社ハ解散後已ニ二年半餘ヲ經過シタルニ尚支拂フヘキ債務ノ大部分即六萬六千餘圓ヲ殘存シ支拂方頗ル緩慢ヲ極メ居リ候ニ付此際債權ノ取立ヲ勵行シ速カニ支拂ヲ結了致候樣嚴重ニ御示達相成度尚該會社ハ大谷派本願寺トノ關係上已ニ支拂ヒタリト稱スル金額モ現實ニ支拂ヲ實行シタリト認ム可カラサルモノ

明治四十三年　眞宗信徒生命　九州生命　六條生命

清算人ノ答申(1012)

有之不都合ノ義ニ付兎今右様ノ措置無之様篤ト御諭達相煩シ度依命此段及御通牒候也

明治四十三年一月八日

京都府知事　大森鐘一殿

農商務省商務局長　大久保利武

追テ前文御示達ノ上ハ清算人ヨリ清算結了ノ見込ニ付答申書差出候様併テ御示達相煩シ度候也

(1013)

本月十一日附京都府商第二五號ヲ以テ御達ニ相成候債權取立ハ決テ緩慢ニアラス時々催告罷在候ニ付清算結了ハ本年中ノ見込ニ候

右謹而奉答候也

明治四十三年一月十五日

農商務大臣　男爵大浦兼武殿

六條生命保險株式會社清算人　横井善三郎

日本教育生命保險株式會社

社長辭任（第十五回明治四三・一一・一二・三一事業報告ヨリ）

松平社長辭任

十二月二十四日取締役社長松平正直樞密顧問官ニ任セラレシタメ辭任登記ヲ了ス

定款變更(1014)

愛國生命保險株式會社

定款中變更　明治四十三年三月十五日申請　同年三月二十六日認可

定款第二十一條ヲ左ノ通變更スル事

一第二十一條　本社ハ左ノ役員ヲ置ク

取締役　七名以下

監査役　三名以下

東洋生命保險株式會社

明治四十三年　六條生命　日本教育生命　愛國生命　東洋生命

役員更任(1015)

〔八・六、官報〕東洋生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一取締役本城清彦、賀田金三郎、大池忠助ノ三名ハ明治四十三年七月二十日辭任シ取締役尾高次郎、西谷金藏
古城菅堂ノ三名ハ同日重任シ佐々木清麿、日下義雄、福島宣三ノ三名ハ同日取締役ニ就任セリ
尾高次郎　西谷金藏　古城菅堂　日下義雄　福島宣三
一監査役山口太兵衞、佐本壽人ハ明治四十三年七月二十日辭任シ左記ノ者同日監査役ニ就任セリ
鎌田勝太郎　井上敏夫

右明治四十三年七月三十日登記

第一生命保險相互會社

東京區裁判所

基金總額變更(第一回基金償却)(1016)

〔一一・二八、官報〕第一生命保險相互會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一明治四十三年十一月十五日基金總額ヲ左ノ如ク變更ス
一基金總額　金拾八萬圓

右明治四十三年十一月二十一日登記

東京區裁判所

定款ノ變更(1017)

千代田生命保險相互會社

定款ノ變更　明治四十三年三月二十三日申請
同　年六月十八日認可

第三十八條　第三十六條ニ規定シタル社員配當準備金ノ內、豫定利率ト運轉利率トノ差益ヨリ生シタル部分ハ其年度ノ中數責任準備金ニ比例シテ終身保險、甲種滿期保險及乙種滿期保險ノ三種ニ分割シ左ノ方法ニ從ツテ配當ス但シ中途ニ拂濟保險ニ變更シタルトキハ其變更後ハ何等ノ配當ヲ爲サス

終身保險

終身保險ノ配當準備金ハ明治四十年度ヨリ毎五ケ年ヲ以テ配當期ト定ムト雖モ現金ヲ以テ配當セス之ヲ保險金額ニ換算シテ契約保險金額ヲ增加ス

前項ノ保險金額ニ換算スル方法ハ終身保險契約總額ノ現價ト其保險金總額トノ割合ヲ配當準備金總額ニ乘シタルモノヲ總契約ニ對スル保險金增加額トシ尚各契約ノ前配當期以後ニ於ケル繼續年數ト契約保險金額トヲ標準トシテ箇々ノ保險金額ヲ增加ス

各契約ニ對スル保險金增加額ハ配當期迄ニ三年以上ノ契約ヲ繼續シタル社員ニ通知シ置キ被保險者死亡ノ時之ヲ拂渡スモノトス

甲種滿期保險

甲種滿期保險ノ配當準備金ハ年利四朱ノ割合ヲ以テ重加シ契約滿期ノ際ニ至リ前年度末ニ於テ三年以上ノ契約ヲ繼續シタルモノニ屬スル責任準備金ニ比例シテ割當テ之ヲ滿期社員ニ配當ス

乙種滿期保險

乙種滿期保險ノ配當準備金ハ各事業年度末ニ於テ契約締結後一ケ年以上ヲ經過シタル契約ニ對シ年額保險料ト拂込年數（端數ハ切捨ツ）トニ比例シテ割當ツルモノトス但シ計算ノ便宜上配當準備金ノ一部又ハ全部ヲ次年度ノ配當準備金ニ繰越スコトアルヘシ

各契約ニ對スル配當金ハ之ヲ割當テタル年度ニ於テ始マル保險年度ノ保險料ヲ拂込ムトキハ相殺スルモノトス

契約締結後二ケ年未滿ニシテ契約消滅シタルモノノ若クハ配當金ト保險料トノ相殺ヲ爲サヽル間ニ契約消滅シタルモノニ對シテハ何等ノ配當ヲ爲サス其ノ配當金ハ當該事業年度ニ於ケル乙種滿期保險ノ配當準備金中ニ繰入ルヽモノトス

左ノ場合ニ於テハ現金ヲ以テ配當ス

一相殺スヘカリシ保險料カ已ニ拂込濟ナルトキ

二配當金カ相殺スヘキ保險料ヨリ大ナル場合ニハ其差額

三保險期間滿了シタルトキ

事業方法書ノ變更（抄）

明治四十三年三月二十三日申請
同　年六月十八日認可

第五項ヲ左ノ通リ變更ス

當會社ノ締結スル保險種類ハ尋常終身、二十年拂終身、一時拂終身、甲種滿期保險（十年滿期、十五年滿期、二十年滿期、二十五年滿期及ヒ三十年滿期ノ五種）及ヒ乙種滿期保險（四十歲受取、四十五歲受取、五十歲受取、五十五歲受取及ヒ六十歲受取ノ五種）トス

滿期保險ノ保險料ハ凡テ每年拂トス

第六項ヲ左ノ通リ變更ス

當會社ハ終身保險ニ在テハ被保險者死亡シタルトキ甲種滿期保險及ヒ乙種滿期保險ニ在テハ契約期間滿了ノトキ若クハ其以前ニ被保險者カ死亡シタルトキ保險金ヲ支拂フモノナリ

第七項ヲ左ノ通リ變更ス

當會社カ締結スル保險金額ハ保險契約一件ニ付最低額ヲ終身保險ニ在テハ壹千圓、甲種滿期保險ニ在テハ五百圓、乙種滿期保險ニ在テハ壹千圓トシ最高額ハ被保險者壹人ニツキ其當時ニ於ケル當會社ノ現在總契約額ノ壹千分ノ壹ヲ限度トス

但シ被保險者壹人ニ付保險金額壹萬圓迄ハ現在總契約額ニ拘ハラス契約ヲ締結スルモノトス

普通保險約款ノ變更（抄）

明治四十三年三月二十三日申請
同　年六月十八日認可

第十六條ヲ左ノ如ク變更ス

保險契約ノ解除、失效又ハ會社カ保險金支拂ノ責ニ任セサル場合ニ於テハ第十一條第三號ノ場合ヲ除キ左ノ規

定ニ從テ返還金ヲ拂渡スモノトス但返還金ノ標準ハ保險業法施行規則第十三號書式ニ準シテ保險證券ノ裏面ニ之ヲ記載ス

一時拂終身保險

其保險年度ニ於ケル責任準備金ノ九割ニ當ル金額

十年甲種滿期保險

二ケ年以上ノ保險料ヲ拂込ミタルモノニ對シ別表ノ金額

尋常及ヒ二十年拂終身保險

十五年、二十年、二十五年及ヒ三十年ノ甲種滿期保險、乙種滿期保險三ケ年以上ノ保險料ヲ拂込ミタルモノニ對シ別表ノ金額

前項ノ返還金ヲ受取ル代リニ其金額ヲ以テ拂濟保險ニ變更セントスルトキハ會社ハ之ニ拂濟保險證券ヲ交付スルモノトス

事業方法書ノ變更（朝鮮人ノ契約）(1020)

明治四十三年十月二十五日申請
同　年十一月二十四日認可

事業方法書第四項ノ末尾ニ左ノ通リ追加ス

朝鮮人ニ對シテハ當分保險契約ヲ爲サス但貴族其他人格資產等十分信用シ得ラルル者ニ限リ保險契約ヲ爲スコトアルヘシ尤モ朝鮮ニ於テハ未タ完全ナル戸籍法ノ制定ナキカ故ニ普通保險約款第五條第六條ノ場合ニ於テ提出セシムル書類中死亡證明書及ヒ戸籍謄本ハ隆熙三年（明治四十二年）四月ヨリ施行ノ民籍法ニ依リ京城ニ於テ警察官若シ又醫師診斷書ヲ提出シ難キ場合ニハ面長又ハ警察官ニ就キ死因、病名等ノ取調ヲナスモノトス

次ニ人格、資產等十分信用シ得ラルル者トハ高級官吏又ハ銀行、商業會議所漢城手形組合ノ如キ公共機關ニ於テ取調ヘタル上流商人又ハ不動產時價三万圓以上ヲ有スル農民トス

定款ノ變更(1021)

明治四十三年十二月十五日申請
同　四十四年一月三十一日認可

定款第三十六條第二項第三項トシテ左ノ通リ追加ス

或ル年度ニ於テ財產ノ賣却、評價若クハ公債、社債ノ償還ニ因リテ生シタル利益アルトキハ其利益金ノ全部又ハ幾部ヲ別途準備金トシテ剩餘金中ヨリ前項法定準備金ノ次ニ之ヲ控除スルコトヲ得

此場合ニハ其殘額ヲ基礎トシテ前項役員賞與金以下ノ配當ヲ爲スモノトス

別途準備金ノ使途ハ評議委員會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

基金ノ償却（第七回明治四三・一二・三一事業報告書ヨリ）(1022)

明治四十三年三月五日本社ニ於テ基金者總代トシテ門野重九郎、岸崎一及ヒ岩本述太郎ノ三氏立會ノ上償却基金三百六十口ノ抽籤ヲ行ヒ當籤者ニ對スル參萬六千圓ノ償却ヲ結了セリ

萬歲生命保險株式會社

事業方法書中變更（第五回同明治四三・一二・三一事業報告書ヨリ）

十二月廿七日　事業方法書中附則第一條「當會社定款第四條規定ノ營業範圍ハ當分ノ間日本國ノ內外ヲ問ハズ本邦人ニ限リ契約ヲ爲スモノトス」ノ次ヘ「但本邦人ノ內舊韓國民ハ當分之ヲ除外ス」ノ追加ヲ爲シ東京府知事ヲ經由シテ其認可ヲ農商務大臣ニ申請シタリ

日清生命保險株式會社

【備考】明治四十三年十一月二十九日申請、同四十四年一月十三日追加申請、同年二月九日附農商務省指令商第七〇〇一號ヲ以テ認可

第二條　第二回以後ノ保險料拂込ニ就テハ拂込期日ヨリ起算シ六十日ヲ猶豫期間トス

前項ノ期間內ニ拂込ヲ爲ス場合ニ於テハ一日一萬分ノ三ノ利子ヲ拂込ムヘキモノトス

第三條　第二條ノ猶豫期間ノ終リニ於テ尙保險料ヲ拂込マサルモノニシテ第十四條ノ拂戻金アル場合ニハ當會社ハ請求ヲ俟タス保險契約者ニ貸付ヲ爲シ延滯保險料ノ拂込ニ充當ス但其貸付金ハ拂戻金カ一ケ年分若クハ半ケ年分保險料及ヒ其利子幷ニ貸付金ニ對スル利子ニ足ル場合ニ限ルモノトス

前項貸付金ノ期限ハ次回ノ保險料拂込期日迄トス

第六條　當會社ハ左ノ場合ニ於テハ保險金ヨリ其百分ノ十ヲ控除シタル金額ヲ支拂フ但重複シタル原因ニ就テハ各別ニ控除ヲ爲サヾルモノトス

一被保險者カ戰爭其ノ他ノ變亂ニ因リテ死亡シ又ハ其地ニ於テ受ケタル傷痍若クハ發シタル疾病ニ因リテ死亡シタルトキ

二被保險者カ熱帶又ハ寒帶地方及ヒ無條約國ニ於テ死亡シタルトキ

三被保險者カ左ノ業務ニ從事シ之カ原因トナリテ死亡シタルトキ

イ警察、司獄、消防ノ職務

ロ檢疫、防疫ノ事務

ハ航海、鐵道、漁獵、鑛山、潛水ノ業務

ニ機械、瓦斯、電力ヲ取扱フ業務

ホ劇毒藥又ハ爆發物ヲ取扱フ業務

第十三條　當會社ハ左ノ場合ニ於テハ保險金支拂ノ責ニ任セサルモノトス

一第一回保險料ノ拂込以前又ハ契約效力復活承諾ノ後延滯保險料及ヒ其利子拂込以前ニ於テ被保險者カ死亡シタルトキ

二第一回保險料拂込ノ後滿五ケ年以內ニ被保險者カ自殺シタルトキ又ハ自殺セントシタルコトカ原因トナリテ死亡シタルトキ

第十四條　保險契約ノ解除失效又ハ當會社カ保險金支拂ノ責ニ任セサル場合ニ於テハ當會社ハ左記ノ區別ニ從ヒ該保險契約ニ對スル責任準備金ヨリ其十分ノ一及ヒ保險金額ノ百分ノ一ニ當タル金額ヲ控除シ其殘額ヲ拂戻スモノトス但第十三條第四號ノ場合ハ責任準備金ヲ拂戻サヽルモノトス

一拾年滿期養老保險ニ在リテハ二ケ年以上ノ保險料ヲ拂込ミタル場合

二其他ノ保險ニアリテハ三ケ年以上ノ保險料ヲ拂込ミタル場合

第十七條　保險契約者ハ第十四條ノ拂戻金アル場合ニ於テ第二條ノ猶豫期間ヲ經過セサル內ニ保險金額ヲ變更シ將來ノ保險料拂込ノ免除ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

前項ノ場合ニ於テハ當會社ハ該拂戻金ニ其十分ノ一ヲ加ヘタル金額ヲ保險料トシテ之ニ相當スル保險金額ノ拂濟保險證券ヲ交付ス此場合ニ於テハ保險契約者被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ第二十三條ノ生存分配金及ヒ第二十四條ノ利益分配金ノ分配ニ與カル權利ヲ有セサルモノトス

前項拂濟保險證券ハ其金額壹百圓以上ノ場合ニ限ルモノトス

第二十三條　被保險者ハ次項ニ定ムル分配時期ニ於テ保險契約カ有效ニシテ且被保險者ノ生存シタトキニ別表ニ從ヒ當會社ノ生存分配金ヲ受クルモノトス分配時期ハ左記ノ二種トシ契約ノ當時其一ヲ定ムルモノトス

第一種

保險期間滿了ノトキ

第二種

拾年滿期保險ニアリテハ第一回保險料拂込ノトキヨリ

滿五年目、滿拾年目

拾五年滿期保險ニアリテハ第一回保險料拂込ノトキヨリ

滿五年目、滿十年目、滿十五年目

貳拾年滿期保險ニアリテハ第一回保險料拂込ノトキヨリ

滿五年目、滿十年目、滿十五年目、滿貳拾年目

貳拾五年滿期保險ニアリテハ第一回保險料拂込ノトキヨリ

滿拾年目、滿拾五年目、滿貳拾年目、滿貳拾五年目

參拾年滿期保險ニアリテハ第一回保險料拂込ノトキヨリ

滿拾年目、滿貳拾年目、滿貳拾五年目、滿參拾年目

第二十四條　保險契約者ハ其保險契約カ滿三ケ年有效ニ繼續シタル後當會社ノ利益分配ニ與カル權利ヲ有スルモノトス

利益分配金ハ每事業年度決算ニ於テ利益ノ百分ノ十以上ヲ積立テ該年度末ニ於ケル總有權者ニ對シ其年拂保險料ノ以例ヲ以テ分配ノ計算ヲ爲シ其內ヨリ本約款ニ依リ契約シタル有權者カ得タル分配金ノ總額ヲ更ニ其有權者ニ對シ年拂保險料ト經過年數（端數ハ算入セス）ニ比例シテ分配ノ計算ヲ爲シ置クモノトス

前項ノ利益分配金ハ第一回保險料領收ノ日ヨリ起算シ五ケ年目每ニ支拂フヘキモノトス

但支拂時期カ一月一日ヨリ定時株主總會終了マテノ間ニ到達シタル場合ニハ其總會終了後直チニ之ヲ支拂フモノトス

前項ノ五ケ年目以前ニ被保險者死亡シタル場合ト雖モ當會社ハ既ニ積立テタル利益分配金ヲ有權者ニ支拂フヘキモノトス

五ケ年目以前ニ保險契約者カ契約ヲ解除シ又ハ保險契約カ效力ヲ失ヒタル場合幷ニ第十三條第四號ノ場合ニアリテハ當會社ハ積立テタル利益分配金ヲ支拂ハサルモノトス

保險契約無效ノ場合ニアリテハ當會社ハ積立テタル利益分配金ヲ支拂ハス且既ニ支拂タル利益分配金ヲ返還セシムルモノトス

被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ當會社ノ利益分配ニ與カル權利ヲ有セサルモノトス

特殊養老保險約款（抄）

【備考】明治四十三年十一月二十九日申請、同四十四年一月十三日追加申請、同年二月九日農商務省指令商第七〇〇一號ヲ以テ認可

第五條　保險金ハ被保險者カ保險期間滿了ノトキ迄生存シタルトキ又ハ其以前ニ死亡シタルトキ之ヲ支拂フ但第一回保險料拂込ノ後滿三ケ年未滿ニアリテ被保險者カ死亡シタルトキハ左ノ割合ヲ以テ保險金ヲ支拂フモノトス

滿一ケ年未滿ハ保險金額ノ十分ノ一

滿二ケ年未滿ハ保險金額ノ十分ノ二

滿三ケ年未滿ハ保險金額ノ十分ノ三

第拾壹條　保險契約ハ左ノ場合ニ於テハ無效トス

一保險契約者又ハ被保險者カ保險契約申込ノ當時重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付不實ノ事ヲ告ケタルトキ

二保險契約申込ノ後第一回保險料拂込以前又ハ契約ノ效力復活請求ノ後延滯保險料及ヒ其利子拂込以前ニ被保險者カ疾病又ハ外傷ニ罹リタル場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ之ヲ當會社ニ通知セスシテ保險料ヲ拂込ミタルトキ

三被保險者ノ年齡カ保險契約ノ當時當會社ノ保險料表ニ揭ケタル年齡ノ範圍外ナリシトキ

第拾貳條　第壹回保險料拂込ノ日ヨリ起算シ滿二ケ年ヲ經過シタル契約ニ對シテハ當會社ハ第拾壹條第壹號及ヒ第貳號ノ場合ニ於ケル契約ノ無效ヲ主張セス但保險契約者又ハ被保險者ニ惡意アリタルトキハ此限リニアラス

契約ノ效力復活ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ最後ノ復活ニヨル延滯保險料ノ拂込ノ日ヨリ起算スルモノトス

横濱生命保險株式會社

〔四・七、官報〕横濱生命保險株式會社變更事項
一取締役及監査役改選
取締役　小野光景　大濱忠三郎　茂木保平　渡邊文七　中村房次郎　土子金四郎
監査役　若尾幾造　原富太郎　澁澤作太郎
右明治四十三年三月三日登記
【備考】取締役ノ互選ヲ以テ社長ニ小野光景、專務取締役ニ土子金四郎、大濱忠三郎當選就任ス――第四回事業報告ヨリ、尙同報告書ニハ本登記以外ニ取締役石川德右衞門ノ記載アリ

日之出生命保險株式會社

〔六・一一、官報〕日之出生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス
明治四十三年五月二十四日保險ノ種類及營業ノ範圍ヲ左ノ如ク變更ス
一日本帝國竝ニ外國ニ於テ保險契約締結ノ時年齡六十年六箇月以下ノ者ヲ被保險者トシテ生命保險事業ヲ營ム
ヲ以テ目的トス
右明治四十三年六月七日登記
東京區裁判所

神國生命保險株式會社

〔九・一一、報知〕神國生命の現狀　今回拘引せられたる千葉縣選出衆議院議員千葉禎太郎氏の元社長たりし
明治四十三年　横濱生命　日之出生命　神國生命

會社現狀改正條項(1029)

神國生命保險株式會社は明治四十一年天理教信徒を基礎とし資本金五十万圓を以て設立せられ、目下拂込額十二万五千圓、被保人約五千人、保險契約金額約二百萬圓なるが設立當初より會社内部紊亂し、近來は殆んど休業同樣なるより過般農商務省に於て臨時檢査を行ひ其結果整理命令を發したる程なるが、被保險者は天理教の最も盛んなる奈良縣丹波市及び磐城平地方に多く、僅少ながら責任積立金もあれば、萬一解散するが如き場合あるも被保險者の迷惑は割合に尠なかるべく、千葉氏及び同會社に對する處分は目下明言する能はずと當局者は語れり

福壽生命保險株式會社

定款中改正事項　明治四十三年三月二日申請
同　年五月九日認可

一定款第七條第五號ノ次ヘ左ノ二號ヲ追加スルコト

六府縣市町村其他ノ公共團體ニ貸付クルコト

七確實ナル不動産ヲ抵當トシテ貸付クルコト但其金額ハ拂込資本金ノ半額以内トス

二定款第二十六條ヲ左ノ如ク變更スルコト

取締役ハ七名以上九名以内監査役ハ二名以上三名以内トス

三定款附則第四十條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加スルコト

第四十一條　明治四十四年一月ノ株主總會ニ於テ選任シタル取締役並ニ監査役ハ其選任ノ日ヲ以テ定款第二十八條ニ據ル任期ノ起算日トス

朝鮮ニテ營業セズ(1030)

事業方法書中變更事項　明治四十三年十月二十日申請
同　年十一月八日認可

營業ノ目的及範圍ト題スル事項ニ左ノ但書ヲ追加ス

但シ朝鮮及朝鮮人ハ之ヲ除外ス

富士生命保險株式會社

社長更任(1031)

社長更任　（第二回事業報告書ヨリ）

明治四十三年五月十八日取締役社長男爵矢吹秀一氏同四十二年十二月十七日死亡ノ登記濟届書ヲ農商務大臣ニ

明治四十三年　神國生命　福壽生命　富士生命

提出ス

同年同月同日社長更任ノ届書ヲ農商務大臣ニ提出ス【社長ハ梨羽時起】

開業後ノ盛況 (1032)

太平生命保險株式會社

〔九・一八、二六新報〕太平生命保險の盛況　昨年五月開業の太平生命保險株式會社は開業後の成績頗る優秀にして毎月の新契約金額、明治、日本等の第一流保險會社に次ぐの盛況を呈し、既に七百萬圓の契約を有せり、毎年七八兩月は各會社とも財界の影響を受け各保險會社とも募集上多大の困難を感ずるを常とするにも拘はらず獨同社は八月中八十八萬餘圓の新契約あり而して同社の組織は全國著名の實業家、華族、多額納稅者等四十餘名を株主とし株式相互合資の特長を採り株主の利益を年六朱に止め殘餘の利益は契約者に配當すべく契約者に採り便利なる組織なりといふ

發起認可申請 (1033)

東海生命保險相互會社

東海生命保險相互會社發起認可申請書

私共儀今般東海生命保險相互會社設立致度候間發起御認可相成度保險業法施行規則第一條ノ規定ニヨリ別冊附屬書類相添ヘ此段及申請候也

追テ發起人中久保勇ヲ以テ發起人總代ニ選定シ必要ノ場合ニ於テハ發起申請ニ關スル追申又ハ主務省ノ下問ニ對スル答申其他申請書類ノ修正並ニ正誤等ニ關スル行爲ヲ委任致候

明治四十二年九月一日

右發企人

東京市赤坂臺町一番地　久保勇

東京市深川區常盤町一丁目七番地　藤田昆直

同　市赤坂區赤坂臺町七十八番地　田中喬樹

同　市日本橋區本町四丁目九番地　萩原彌吉

同　市麹町區下六番町二十五番地　棚橋友三郎

明治四十三年　富士生命　太平生命　東海生命

東京市深川區御船藏前町九番地　齋藤鐵太郎
茨城縣新治郡土浦町大町二百九番地　淺野彌右衞門
東京市芝區三田四國町七番地　酒井匡
右代理人　東京府南葛飾郡寺島村千九百三十五番地　池田勝三
京都市上京區下立賣通堀川西へ入ル西橋詰町廿五番戶　河原林義雄
同　市下京區堺町通三條下ル道祐町六番戶　片山茂三郎
同　市上京區御幸町通二條下ル山本町拾貳番戶　奥繁三郎
京都府北桑田郡山國村字大野廿九番戶　野尻岩次郎
右代理人　京都市上京區下立賣通堀川西へ入ル西橋詰町廿五番戶　河原林義雄
京都市上京區寺町通二條下ル妙滿寺前町五番戶　山田啓助
同　市下京區烏丸通七條上ル櫻木町六番戶　田中利七
右山田啓助・田中利七代理人　同市上京區下立賣通堀川西へ入ル西橋詰町廿五番戶　河原林義雄
京都府葛野郡桂村字下桂壹番戶　風間嘉一
右代理人　東京府南葛飾郡寺島村千九百三十五番地　池田勝三

農商務大臣　男爵　大浦兼武　殿

【備考】明治四十三年二月十八日附農商務省指令商第八二三七號ヲ以テ認可

東海生命保險相互會社定款（抄）

第一章　總則

第一條　當會社ハ生命保險事業ヲ營ムヲ以テ目的トス

第二條　當會社事業ノ範圍ハ日本帝國領內ニ於テ日本人及ヒ外國人ニ對シ保險契約ヲ締結スルモノニシテ其被保險者ハ保險契約締結ノ當時十年六ケ月以上六十年六ケ月未滿ノ者トス

第三條　當會社ハ相互組織ニシテ東海生命保險相互會社ト稱ス

第四條　當會社ハ主タル事務所ヲ東京市ニ支部ヲ大坂市ニ置キ尙事業ノ必要ニ應シ樞要ノ地ニ出張所又ハ代理店ヲ置クコトヲ得

第二章　基金

第六條　當會社ノ基金總額ハ五拾萬圓トス

基金ハ之ヲ五千口ニ分チ一口ノ金額ヲ壹百圓トス

第十一條　基金醵出者ハ當會社ノ承認ヲ得ルニ非ラサレハ他人ヲシテ其權利義務ヲ承繼セシムルコトヲ得ス但相續人又ハ遺贈ニヨリ承繼シタルトキハ其旨會社ヘ屆出テ名義ノ書替ヲ求ムヘシ

第十二條　第四十條ニ規定シタル基本積立金カ壹萬圓ニ達スル毎ニ抽籤ヲ以テ基金壹百口ヲ償却ス

第三章　社員

第十三條　當會社ト保險契約ヲ締結シタルモノヲ社員トス

第十四條　社員ハ當會社ノ債權者ニ對シ直接ニ義務ヲ負フコトナシ

當會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ハ保險契約ニヨリ既ニ拂込ミタル保險料及其年度ノ未拂込保險料ヲ限度トス

第四章　評議員會

第十八條　當會社ハ社員總會ニ代ハルヘキ機關トシテ評議員會ヲ置ク

評議員會ハ社員中ヨリ互選シタル評議員ヲ以テ組織ス

第二十六條　定時評議員會ハ毎年二月之ヲ開ク

第二十八條　評議員會ハ取締役、監査役ノ選任取締役ノ提出シタル書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ調査シ且基金ノ償却及ヒ其利子ノ支拂、準備金、積立金幷ニ剩餘金ノ配當、取締役、監査役ノ報酬其他定款及ヒ保險約款ノ變更ニ關スル事項ヲ決議ス

第五章　役員

第三十三條　當會社ニ取締役三名以上七名以下監査役一名以上三名以下ヲ置ク取締役中互選ヲ以テ社長一名ヲ置ク

第三十四條　取締役及ヒ監査役ハ評議員會ニ於テ之ヲ選擧ス

社員カ取締役及監査役ヲ不適任ト認メタルトキハ社員ノ十分ノ二以上ニシテ其保險金額カ當會社ノ保險金總額ノ十分ノ二以上ニ當ル者ノ同意ヲ得テ之カ改選ヲ評議員會ニ請求スルコトヲ得

第三十五條　取締役ノ任期ハ三ケ年監査役ノ任期ハ一ケ年トス但再選スルコトヲ妨ケス

取締役中缺員ヲ生スルモ法定ノ人員ヲ下ラサルトキハ其補缺選擧ヲ次期ノ定時評議員會迄延期ス

第六章　計　算

第三十九條　當會社ハ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日マテヲ一事業年度トシ其年度ノ末日ヲ以テ決算期トス

第四十條　決算ニ於テ剩餘金ヲ生シタルトキハ二十分ノ一ヲ法定準備金トシ未償却基金ニ對シテハ其拂込額ノ百分ノ六ノ利子ヲ支拂ヒ（若シ法定準備金ヲ控除シタル殘額カ百分ノ六ニ達セサルトキハ其殘額全部ニ止ム）其殘額ヨリ十分ノ一ノ基本積立金ト十分ノ一ノ役員賞與金ヲ控除シ最後ノ殘額ヲ左ノ比例ニヨリ基金醵出者及ヒ社員ニ配當ス

一基金ノ一部ヲモ償却セサル場合幷ニ基金ノ償却未タ其十分ノ一ニ達セサル場合

基金醵出者	百分ノ十
社　員	百分ノ九十

二基金ノ十分ノ一ヲ償却シタル場合

基金醵出者	百分ノ九
社　員	百分ノ九十一

三基金ノ十分ノ二ヲ償却シタル場合

基金醵出者	百分ノ八
社　員	百分ノ九十二

以下之ニ準ス

第四十一條　法定準備金カ基金ト同額ニ達シタルトキハ其積立ヲ廢シ又ハ積立ノ率ヲ減スルコトヲ得

基本積立金カ基金ト同額ニ達シタルトキハ其積立ヲ止ム

第四十二條　或ル年度ニ於テ拂込基金ニ對シ百分ノ六ノ利子ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハサリシトキハ之ヲ支拂フニ足ルヘキ剩餘金ヲ生シタル年度ニ於テ其未拂年度ノ順序ニ依リ之ヲ支拂フ

第四十三條　社員配當金ハ當會社ニ於テ之ヲ保管シ滿二年以上保險契約ヲ繼續シタル社員ニノミ之ヲ配當ス

前項ノ配當金ハ其年度末ニ於テ現存スル各保險契約ノ責任準備金ニ比例ス但拂濟保險ニ變更シタルモノハ其變更後ハ配當ニ與カルコトヲ得ス

第四十四條　社員配當金ノ配當時期ハ終身保險ニ在テハ毎五年度（事業年度末以下之ニ準ス）養老保險ニ在テハ毎五年度ト滿期トノ二種ニ分ツ

滿期配當金ハ年四朱ノ利息ヲ以テ重加シ契約滿期ノトキ之ヲ配當ス

滿期配當ノ保險契約ニ在テハ滿五年以上保險契約ヲ繼續シタルモノニ限リ被保險者カ滿期前ニ死亡シタルトキト雖其死亡ノ前年度末ニ於テ其契約ニ對シ積立テタル配當金ハ之ヲ支拂フモノトス

第四十七條　決算ニ於テ不足金ヲ生シタルトキハ社員配當金、法定準備金、基本積立金ノ順序ヲ以テ之ヲ塡補ス

前項ノ方法ニヨリ尚ホ不足金ヲ塡補スルコト能ハサルトキハ評議員會ノ決議ヲ以テ未タ保險金額支拂事由カ發生セサル保險契約ニ限リ一定ノ率ヲ以テ其保險金額ヲ減少スルコトヲ得但此場合ニ於テハ取締役ハ遲滯ナク之ヲ各社員ニ通知スルコトヲ要ス

第四十八條　會社ノ財產ハ左ノ方法ニヨリ利用ス

一國債證券地方債證券又ハ確實ナル會社ノ株券及ヒ債券ノ取得
二確實ナル銀行ヘノ預金
三第一號ニ揭ケタル有價證券又ハ不動產ヲ擔保トシテ貸付
四公共團體ヘノ貸付
五當會社ノ保險證券ヲ擔保トシテノ貸付
六當會社ノ事業上必要ナル不動產ノ取得

第四十九條　當會社ノ設立費用ハ金參千圓以內トシ初年度ニ於テ之ヲ償却ス

第七章　任意解散及合併

第五十條　當會社ノ任意解散及ヒ合併ハ社員ノ三分ノ二以上ニシテ其保險金額カ當會社ノ保險金總額ノ三分ノ二以上ニ當ル者ノ請求ニヨリ評議員會ニ於テ評議員ノ二分ノ一以上出席シ其出席員ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

普通保險約款（抄）

（創業當時ノモノ、昭和生命本社所藏書類）

第二條　保險金額ノ支拂ハ保險契約ノ種類ニ依リ左ノ如ク區別ス

一普通養老保險ニ在テハ【下略】

二普通終身保險ニ在テハ【下略】

三特別養老保險ニ在テハ保險期間ノ滿了シ被保險者カ生存シタルトキ又ハ保險期間中ニ被保險者カ死亡シタルトキ保險金額ヲ支拂フモノトス但被保險者カ保險期間ノ滿了マテ生存シタルトキニ限リ保險金額ト共ニ契約ヲ以テ定メタル生存保險金額ヲ支拂フモノトス

四特別終身保險ニ在テハ被保險者カ死亡シタルトキ保險金額ヲ支拂ヒ且左ノ三種ニ分チ生存保險金額ヲ支拂フモノトス

(甲)被保險者カ滿五十歲ノ契約相當日ニ生存スルトキ保險金額ノ二割滿六十歲ノ契約相當日ニ生存スルトキ尚同三割、滿七十歲ノ契約相當日ニ生存スルトキ更ニ同五割ニ相當スル金額

(乙)被保險者カ滿六十歲ノ契約相當日ニ生存スルトキ保險金額ノ五割、滿七十歲ノ契約相當日ニ生存スルトキ尚同五割ニ相當スル金額

(丙)被保險者カ滿七十歲ノ契約相當日ニ生存スルトキ保險金額ニ相當スル金額

第六條　保險料ノ拂込ニ付テハ期日後六十日ヲ猶豫期間トス但拂込期日ニ拂込ヲ怠リタルトキハ延滯シタル保險料ニ對シ其延滯日數ニ應シ金壹百圓ニ付壹日四錢ノ割合ヲ以テ延滯利子ヲ徵收ス

前項ノ猶豫期間ヲ經過シテ尚拂込ヲ爲サヽル場合ト雖モ其拂込ムヘキ保險料及ヒ利子カ第二十條ノ拂戻金ヲ超エサルトキハ其

中ヨリ保險料及ヒ利子ノ合計額ニ相當スル金額ヲ壹ケ年壹割以內ノ利息ヲ以テ貸付金ニ振替エ保險料ノ拂込ニ充ツ此場合ニ於テハ會社ハ遲滯ナク之ヲ保險契約者ニ通知シ貸付金ニ關スル證書ヲ提出セシムヘキモノトス

保險契約者カ前項ノ拂込後次期ノ保險料ヲ拂込マシテ保險契約ノ効力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ拂戻金ヨリ貸付金及ヒ其利子ヲ控除シ殘額アルトキハ之ヲ拂戻スヘシ

第七條　保險契約者カ猶豫期間中ニ保險料ノ拂込ヲ爲サスシテ保險契約ノ効力ヲ失ヒタル場合ニ於テ其失効ノ時ヨリ一ケ年間ニ當會社ノ定ムル書式ニ依ル健康證明書ヲ提出シ保險契約ノ復活ヲ請求スルトキハ當會社ハ被保險者ノ身體ニ異狀ナキコトヲ認メタルトキニ限リ其請求ヲ承諾スヘシ此場合ニ於テハ保險期間カ繼續シタルモノト看做シ不拂ニ屬スル保險料及ヒ之ニ對シ百圓ニ付一日金四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收スルモノトス

第八條　被保險者カ從軍スルカ又ハ戰爭其他變亂ノ地ニ赴クトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ豫メ之ヲ當會社ニ通知スヘキモノトス

當會社ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其戰爭又ハ變亂ノ事由ノ繼續スル間一箇年ニ對シ保險金額ノ十分ノ一ヲ超エサル限度ニ於テ特別保險料ヲ請求スルコトヲ得

第九條　當會社ハ被保險者カ旅行又ハ職業等ノ危險ニ因リ死亡シタル場合ト雖モ保險金支拂ノ責ニ任スヘシ

第十五條　左ノ場合ニ於テハ當會社ハ保險金支拂ノ責ニ任セス

【三、五、七ハ省略】

一第一回保險料拂込以前ニ被保險者カ死亡シタルトキ

二保險契約後滿五ケ年以內ニ被保險者カ自殺シタルトキ又ハ自殺セントシタルコトカ原因トナリテ死亡シタルトキ

四被保險者カ戰爭其他ノ變亂ニ因リテ死亡シタルトキ但豫メ特別保險料ヲ拂込ミタル者ハ此限ニ在ラス

六被保險者カ失踪ノ宣告ニヨリテ死亡シタルモノト見做サレタルトキ但當會社カ被保險者ノ死亡シタルコトヲ推定シ得ヘキトキハ此限ニ在ラス

第十八條　滿五ケ年以上繼續シタル契約ニ對シテハ當會社ハ第十三條條一號及ヒ第二號ノ場合ニ於ケル契約ノ無效ヲ主張スルコトナシ但保險契約者又ハ被保險者ガ惡意或ハ重大ナル過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

契約復活ノ事實アリタルトキハ此期間ハ最後ノ復活ノトキヨリ起算スルモノトス

第十九條　保險契約無效ノ場合ニ於テ保險契約者及ヒ被保險者カ善意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ當會社ハ既收保險料ヨリ其十分ノ二ト保險金額ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ控除シ其殘額ヲ拂戻スヘシ

第二十條　保險契約ノ解除失效又ハ保險金支拂ノ責ニ任セサル場合ニ於テハ十年滿期養老保險ニアリテハ二ケ年以上其他ノ保險ニ在リテハ三ケ年以上ノ保險料ヲ拂込ミタルモノニ限リ其保險契約ニ對スル責任準備金ノ十分ノ九ヲ拂戻スヘシ

第二十一條　保險契約締結後三年以上（十年滿期養老保險ニ在テハ二年以上）ヲ經過シタルトキハ保險契約者ハ當會社ノ承諾ヲ得テ拂濟保險ニ變更シ其後ノ保險料支拂ノ義務ヲ免ルコトヲ得

第二十二條　當會社ハ保險契約者ノ請求ニヨリ保險證券ヲ擔保トシ第二十條ノ拂戻金ヲ超過セサル金額ヲ貸付クヘシ但保險契約消滅ノ場合ニ於テハ貸付金カ未タ其返濟期限ニ到ラサルトキト雖契約消滅ノトキヲ以テ當會社ノ支拂フヘキ金額ヨリ貸付金及ヒ利子ヲ控除スヘキモノトス

第二十三條　保險契約者ハ當會社ノ社員トシテ定款ノ定ムル所ニ依リ剩餘金ノ分配ニ與カル權利ヲ有スルモ被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ其分配ニ與カル權利ヲ有セサルモノトス

保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類（抄）

死亡表ト豫定利率（1036）

死亡生殘表　英國十七會社表

豫定利率　年四朱

創立事情（1037）

創立事務（第一回明治四三・四・二四事業報告書ヨリ同一二・三一）

一明治四十二年七月二十二日在京發起人會ヲ芝浦ノ竹芝館ニ開キ創立事務進行上ノ打合ヲ爲ス

一同年七月二十七日東京市京橋區銀座一丁目十五番地ニ創立事務所ヲ設ク

一同年八月十日在關西發起人ト創立事務打合ノ爲メ發起人久保勇創立員池田勝三京都ニ出張同月十七日歸京ス

一同年九月一日發起認可申請書ヲ提出ス

發起人中久保勇ヲ發起人總代ニ選定シ發起認可申請ニ關スル事務ヲ委任ス

一同年同月四日基金醵出者豫約及ヒ事務打合ノ爲メ久保勇再ヒ京都ニ出張次テ六日池田勝三モ又同地ニ出張十

一日歸京ス

一明治四十二年九月三十日創立事務所ヲ京橋區銀座二丁目十五番地ニ移轉ス

一明治四十三年二月十八日付ヲ以テ主務省ヨリ發起認可ヲ受ク

一明治四十三年二月十八日第一回基金拂込ノ通知ヲ發シ同月二十六日其拂込ヲ完了ス

一保險業法ノ規定ニ依レハ相互會社ノ設立ニハ百名以上ノ社員ヲ要スヘキヲ以テ發起人ノ外ニ百五十名ノ社員ヲ募集シ其豫定數ニ達シタルヲ以テ明治四十三年二月二十日創立總會招集ノ通知ヲ發ス

一明治四十三年三月三日創立事務所ヲ京橋區銀座一丁目六番地ニ移轉ス

一同年同月六日創立總會ヲ京橋區銀座一丁目六番地創立事務所ニ開ク

當日出席シタル社員ハ本人貳拾貳名委任狀ヲ以テ代理ヲ委任シタルモノ百貳拾六名合計百四十八名ニシテ園田實德氏ヲ議長ニ推選シ全會一致ヲ以テ發起人總代久保勇ノナセル創立事務ノ報告並ニ創立費用金貳千九百七拾圓拾錢五厘ヲ承認シ取締役及ヒ監査役ノ報酬ヲ決議シ且取締役監査役及ヒ評議員ノ選擧ヲナセリ

當選者ハ左ノ如シ

取締役　谷謹一郎　久保勇　河原林義雄　藤田昆直　風間八左衞門

監査役　南條新六郎　田中喬樹

【評議員氏名省略】

一同年同月同日定款第三十三條第二項ノ規定ニヨリ取締役ノ互選ヲ以テ谷謹一郎ヲ社長ニ久保勇、河原林義雄ヲ專務取締役ニ推選セリ

一同年同月同日取締役會ニ於テ會社ノ主タル事務所ヲ東京市京橋區銀座一丁目六番地ニ置キ支部ヲ大阪市東區高麗橋一丁目二十三番地ニ設クヘキコトヲ決議シ且主タル事務所ニ充ツヘキ家屋購入ノ件ヲ決議セリ

一同年同月十五日事業免許ヲ申請シ四月十八日免許ヲ受ク

一明治四十三年四月二十三日當會社設立登記ノ申請ヲナシ同日結了ス

一明治四十三年四月二十四日事業ヲ開始ス

蓬萊生命保險相互會社

〔二・二六、東京日々〕**蓬萊生命認可**　高山長幸、粕谷義三、江原素六、永江純一、榊田清兵衞、鵜澤聰明氏等が基金五十万圓を以て發起を申請したる蓬萊生命保險相互會社は廿二日付を以て農商務省より發起を認可されしが醵金者は住友吉左衞門其他の富豪なりと

【備考】明治四十三年二月二十二日附農商務省指令商第一七五四號「明治四十二年三月二十七日附申請蓬萊生命保險相互會社發起ノ件認可ス」

明治四十三年　東海生命　蓬萊生命

事業免許申請(1039)

蓬萊生命保險相互會社事業免許申請書

本年二月二十二日付ヲ以テ發起認可相受候蓬萊生命保險相互會社ノ儀本月十五日創立總會終了會社成立致候條事業御免許被成下度別紙目錄ノ書類相添へ此段及申請候也

明治四十三年八月十五日

東京市京橋區新肴町拾番地　蓬萊生命保險相互會社

取締役　鶴原定吉
同上　高橋光威
同上　粕谷義三
同上　高山長幸
同上　樺山愛輔
監査役　室田義文
同上　浮田桂造
同上　小野慶藏

農商務大臣　小松原英太郎殿

【備考】明治四十三年八月三十一日附農商務省指令商第四九八五號ヲ以テ免許

(1040)

蓬萊生命保險相互會社定款（抄）

第一條　當會社ハ蓬萊生命保險相互會社ト稱シ本社ヲ東京市ニ置ク

第二條　當會社ハ保險業法ニ依リテ設立セル相互會社ニシテ帝國領土内ニ於テ生命保險業ヲ營ムモノトス

第六條　帝國臣民ニシテ當會社ト保險契約ヲ締結スルモノハ凡テ社員トス

第七條　當會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ハ保險契約ヲ以テ定メタル保險料ヲ限度トス

第十條　當會社ノ基金ハ五拾萬圓トシ創立總會前ニ其四分ノ一ヲ拂込マシメ殘額ハ取締役ニ於テ必要ト認メタルトキ二週間前ニ發信シタル豫告ヲ以テ之ヲ拂込マシムルモノトス基金ハ貳千五百口ニ分チ壹口ノ金額ヲ金貳百圓トス

第十一條　基金醵出者ノ責任ハ其引受又ハ承繼シタル金額ヲ以テ限度トス

第二十二條　基金ハ第四十三條ニ規定シタル蓄積基金カ五萬圓ニ達スル毎ニ抽籤ヲ以テ基金貳百五拾口ヲ償却ス

第二十三條　當會社ハ社員總會ニ代ルヘキ機關トシテ社員總代會ヲ設ク

第三十一條　定時社員總代會ハ毎年三月東京市ニ於テ之ヲ開キ財產目錄、貸借對照表、事業報告書、損益計算書並ニ取締役カ提出シタル書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ調査シ且ツ剩餘金ノ分配案ヲ議決ス

第三十二條　臨時社員總代會ハ取締役又ハ監査役ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ三分ノ一以上ノ社員總代カ其目的及ヒ事由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ開會ヲ請求シタルトキ之ヲ開ク

第三十七條　當會社ニ左ノ役員ヲ置ク

取締役五名、監査役三名、取締役中互選ヲ以テ社長一名、專務取締役二名ヲ置ク、取締役及ヒ監査役ハ社員總代會ニ於テ社員中ヨリ記名投票ヲ以テ之ヲ選擧ス但第一回ノ取締役及ヒ監査役ハ創立總會ニ於テ本文ノ例ニ依リ之ヲ選擧ス

第三十八條　取締役ノ任期ハ三ケ年、監査役ノ任期ハ一ケ年トス但重任ヲ妨ケス

第三十九條　取締役及監査役ニ缺員ヲ生スルモ法定ノ人員ヲ缺カス且ツ取締役ニ於テ業務施行上支障ナシト認メタルトキハ其選擧ヲ次期ノ社員總代會迄延期スルコトヲ得

第四十一條　當會社ノ決算期日ハ毎年十二月三十一日トス

第四十二條　當會社ノ設立費用ハ貳千圓以内トシ初年度ニ於テ之ヲ償却スヘシ

第四十三條　決算ニ於テ剩餘ヲ生シタルトキハ其百分ノ五以上ヲ法定準備金トシ百分ノ五以内ヲ役員賞與金トシ殘額中ヨリ未償却基金ニ對シ利息トシテ其拂込額ノ百分ノ六ヲ支拂ヒ（殘額百分ノ六ニ達セサルトキハ殘額全部ヲ以テ限度トス）更ニ其殘額中ヨリ殘額ノ百分ノ十二ヲ蓄積基金トシテ控除シ最後ノ殘額ヲ基金配當金及ヒ社員配當準備金トス其割合左ノ如シ但拂込基金ニ對スル配當金カ未償却基金ニ對シ其拂込額ノ百分ノ六ヲ超過シタルトキハ其超過部分ハ之ヲ社員配當準備金ニ繰入ル、モノトス

一基金ノ一部ヲモ償却セサル場合
基金醵出者　百分ノ十

社　員　百分ノ九十
二基金ノ十分ノ一ヲ償却シタル場合
基金醵出者　百分ノ九
社　員　百分ノ九十一
三基金ノ十分ノ二ヲ償却シタル場合
基金醵出者　百分ノ八
社　員　百分ノ九十二

以下基金ノ一部ヲ償却スル毎ニ右ノ割合ヲ以テ基金配當金ト社員配當準備金トヲ增減ス

第四十四條　蓄積基金カ五拾萬圓ニ達シタルトキハ其積立ヲ止ム

第四十五條　社員配當準備金ハ各事業年度ニ於テ收入シタル終身保險及ヒ六拾歲受取滿期保險並ニ十年、十五年、二十年、二十五年滿期保險ノ各保險料ニ比例シテ右各種保險ニ割當テ更ニ左ノ各號ニ從ヒ社員ニ配當シ其殘額ハ年四朱ニテ之ヲ利植ス

一終身保險及ヒ六十歲受取滿期保險ノ社員配當準備金ハ各事業年度末ニ於テ現在スル該社員中終身保險又ハ六十歲受取滿期保險ノ契約ヲ爲シタル後一年以上ヲ經タル者ニ對シ其年額保險料ヲ標準トシテ各個ニ割當テ該保險契約締結後十一年目ニ於ケル事業年度末ヲ以テ第一回ノ配當期トシ以後五年ヲ經ル毎ニ其事業年度末ニ於ケル該社員ノ配當準備金ニ左ノ率ヲ乘シ現金ヲ以テ配當シ其殘額ハ次ノ配當期ニ繰越ス

	十一年目	十二年目	十三年目	十四年目	十五年目	十六年目	十七年目	十八年目	十九年目	二十年目	二十一年目	二十二年目	二十三年目	二十四年目	二十五年保險期間滿了ノ際
十五年滿期	十八	三十六	五十四	七十二	九十										金額
二十年滿期	九	十八	二十七	三十六	四十五	五十四	六十三	七十二	八十一	九十					金額
二十五年期滿	六	十二	十八	二十四	三十	三十六	四十二	四十八	五十四	六十	六十六	七十二	七十八	八十四	九十	金額

(イ)終身保險ニ在リテハ其配當期ニ於ケル被保險者ノ現在年齡數ヲ百ニテ除シタルモノ但被保險者カ百歲以上ニ達シタル時ハ全額ヲ配當ス

(ロ)六十歲受取滿期保險ニ在テハ其配當期ニ於ケル被保險者ノ現在年齡數ヲ六十ニテ除シタルモノ但保險期間滿了ノ際ハ全額ヲ配當ス

二十年、十五年、二十年及ヒ二十五年ノ四種滿期保險ノ社員配當準備金ハ各事業年度ニ於テ現在スル該社員ノ年額保險料ヲ標準トシテ各個ニ割當テ十年滿期保險ニ在テハ保險期間滿了ノ際其配當準備金ノ全額ヲ配當シ十五年、二十年及ヒ二十五年ノ三種滿期保險ニ在テハ該保險契約締結後十一年目ニ於ケル事業年度末ヲ以テ第一回ノ配當期トシ以後每事業年度末ニ於ケル該社員ノ配當準備金ニ左表ノ百分率ヲ乘シ之ヲ其配當期ニ於ケル被保險者ノ現在年齡ニ對スル一時拂純保險料トシテ更ニ其一時拂純保險料ニ對スル保險金額ヲ算出シ之ヲ前保險金額ニ累加シ被保險者ノ死亡シタルトキ若クハ保險期間滿了ノ際之ヲ拂渡スモノトス但配當殘額ハ次ノ事業年度ニ繰越ス

社員配當金分配ノ場合ハ取締役ハ速ニ分配ヲ行ヒ本條第一項第二號ニ依リ保險金額ヲ累加シタル場合ハ取締役ハ速ニ之ヲ社員ニ通知スルモノトス

拂濟保險ニ對シテハ何等ノ剩餘金配當ヲ爲サス

第四十六條　前條第一項第二號ノ場合ニ於テ第一ノ配當期以前又ハ前配當期ヨリ次ノ配當期ニ達スル間ニ保險契約消滅シタルトキハ之ニ屬スル社員配當準備金ノ殘額ハ會社ノ收入トス

第四十七條　當會社ノ資產ヲ運轉利用スルハ左ノ方法ニ依ル

一國債證券、地方債證券又ハ確實ナル會社ノ社債又ハ株式ヲ取得スルコト

二確實ナル銀行ニ預金ヲ爲スコト

三當會社事業上必要ナル不動產ヲ取得スルコト

四第一號ノ有價證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

五府縣市町村等ノ公共團體又ハ擔保附ヲ以テ確實ナル會社ヘ貸付ヲ爲スコト

六當會社ノ保險契約者ニ限リ其保險證券ヲ預リ置キ普通保險約款第二十條ニ依リ返還金以內ニ相當スル金額ノ貸付ヲ爲スコト

第四十八條　年年積立ツヘキ社員配當準備金中ヨリ其百分ノ五ヲ超エサル金額ヲ限度トシテ不足金塡補ノ爲メ社員總代會ノ決議ヲ經テ特別積立金ト爲スコトヲ得

第四十九條　決算ニ不足ヲ生シタルトキハ特別積立金、死亡率超過準備金、社員配當準備金及ヒ法定準備金ノ順序ヲ以テ之ヲ塡補シ尙不足アル場合ニ當リ會社ノ狀態ニ照シテ容易ニ之ヲ塡補スルコト能ハサルモノト認メタルトキハ社員總代會ノ決議ヲ以テ保險金額支拂ノ事由未タ發生セサル契約ニ限リ一定ノ率ヲ以テ保險金額ヲ減少スルコトヲ得此場合ニ於テハ取締役ハ遲滯ナク之ヲ各社員ニ通知スルコトヲ要ス

第五十一條　普通保險約款ノ變更ハ社員總代會ノ決議ヲ以テ之ヲ爲ス

第五十三條　任意解散又ハ合併ノ決議ヲ爲スニハ總社員ノ二分ノ一以上ニシテ當會社ノ保險金額ノ二分ノ一以上ニ當ル者カ解散ヲ請求シテ開キタル社員總會ニ於テ二分ノ一以上社員出席シ其四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス

第二十九條第二項但書及ヒ第三十四條ノ規定ハ前項ノ出席社員ニ準用ス

第五十四條　會社解散ノ場合ニ於ケル殘餘財產ノ處分及ヒ其ノ方法ハ社員總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

間トス但此期間內ハ延滯シタル保險料ニ對シ其延滯日數ニ應シテ百圓ニ付キ一日金四錢ノ割合ヲ以テ利息ヲ徵收スルモノトス

第六條　前條ノ猶豫期間ヲ經過シタル場合ト雖モ延滯保險料及ヒ

普通保險約款（抄）

第五條　第二回以後ノ保險料拂込ニ付テハ期日後六十日ヲ猶豫期

明治四十三年　蓬萊生命

其利息カ第十八條ノ返還金ヲ超過セサル限リ當會社ハ保險契約者ヨリ證書ヲ徵シテ延滯保險料及ヒ其利息ト同額ノ貸付ヲ爲シ其拂込ニ充ツ此場合ニ於テハ其拂込日迄猶豫期間ノ延長アリタルモノト見做ス

第七條　戰爭其他ノ變亂ニ因リテ死亡シタル場合ニ於テ契約ノ保險金額ヲ受ケントスルトキハ保險契約者ハ危險事由ノ存續スル間一ケ年ニ付キ保險金額ノ百分ノ一以上百分ノ十以內ニ於テ當會社カ定メタル特別保險料ヲ拂込ムヘシ

第十三條　左ノ場合ニ於テハ當會社ハ保險金額支拂ノ責ニ任セス

三第七條ノ特別保險料ヲ拂込マスシテ被保險者カ戰爭其他ノ變亂ニ因リテ死亡シタルトキ

第十六條　第十二條第一號ノ場合ニ於テ保險契約者カ保險契約失効ノ後一年以內ニ契約復活ヲ請求スルトキハ醫師ノ健康證明書ヲ差出サシメ會社カ異狀ナキコトヲ認メタルトキニ限リ延滯保險料及ヒ一日一萬分ノ四ニ當ル利息ヲ徵收シ前保險契約ヲ繼續ス

第十七條　保險契約ノ無効ヲ會社カ認メタル場合ニ於テ保險契約者及ヒ被保險者カ善意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ既收保險料ヨリ其十分ノ一及ヒ保險金額ノ百分ノ三以內ニ當ル金額ヲ控除シ其殘額ヲ支拂フヘシ

第十八條　保險契約ノ失效、解除又ハ會社カ保險金額支拂ノ責ニ任セサル場合ニ於テハ左ノ各號ニ該當スルモノニ限リ其責任準備金ノ十分ノ九ヲ返還スヘシ

一十年及ヒ十五年滿期保險ニ在リテハ一ケ年以上ノ保險料ヲ拂込ミタルモノ

二二十年及ヒ二十五年滿期保險ニ在テハ二ケ年以上ノ保險料ヲ拂込ミタルモノ

三終身保險及ヒ六十歲受取滿期保險ニ在テハ三ケ年以上ノ保險料ヲ拂ヒ込ミタルモノ

第二十條　保險契約者ヨリ第十八條ノ返還金以內ニ相當スル金額ノ貸付ヲ請求スルトキハ會社ハ之ヲ貸付ルモノトス

第二十一條　保險契約者カ第十八條ノ返還金ヲ受取ル代リニ其金額ヲ以テ拂濟保險ニ變更セントスルトキハ新ニ保險金額ヲ定メ保險契約ヲ繼續スヘシ但新ニ定ムヘキ保險金額カ壹百圓以上ノ場合ニ限ルモノトス

第二十二條　保險契約者ハ社員トシテ當會社定款第四十三條第四十五條ニ規定シタル範圍ニ於テ社員配當金ノ分配ニ與カル權利ヲ有シ被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ此權利ヲ有セス但保險契約者ハ當會社ノ承諾ヲ得テ此利益分配ニ與カル權利ヲ被保險者又ハ保險金ヲ受取ルヘキ者ニ讓與スルコトヲ得

蓬萊生命創立當時ノ諸事項

（昭和生命本社書類ヨリ）

保險種類——尋常終身、六十歲受取、十年、十五年、二十年、二十五年滿期

被保險者ノ年齡——十五歲七ケ月以上六十歲六ケ月以下

保險金額ノ制限——五百圓以上壹萬圓以下

死亡表——十七會社表

利率——年四分

〔九・一〇、官報〕相互保險會社登記簿第一冊第七號

一商　號　蓬萊生命保險相互會社

一事務所　東京市京橋區新肴町十番地

一保險ノ種類　生命保險

一事業ノ範圍　日本帝國領土內ニ於テ日本人ニ對シ保險契約ヲ締結スルモノニシテ其被保險者ハ保險契約締結ノ當時年齡十五歲七箇月以上六十歲六箇月以下ノ者タルコトヲ要ス

一基金ノ總額　金五十万圓

一基金ノ醵出者カ有スヘキ權利　剩餘金分配ノ方法ニ依ル權利ヲ有ス

一基金償却ノ方法　蓄積基金ヲ五万圓ニ達スル毎ニ抽籤ヲ以テ二百五十口ヲ償却ス

一設立費用償却ノ方法　初年度ニ於テ之ヲ償却ス

一剩餘金分配ノ方法　【省略、定款第四十三條參照】

明治四十三年　蓬萊生命

一社員ノ責任ノ種類　【省略、定款第七條參照】
一公告ヲ爲ス方法　本店所在地ヲ管轄スル區裁判所カ商業登記事項ヲ揭載スル新聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス
一取締役ノ氏名住所
東京市赤坂區福吉町一番地　鶴原定吉
埼玉縣入間郡豐岡町大字扇町屋九十三番地　粕谷義三
東京市芝區芝公園第五號地十三番　高橋光威
東京市芝區三田綱町一番地　高山長幸
東京市麹町區永田町一丁目十七番地　樺山愛輔
一監査役ノ氏名住所
東京市芝區琴手町二十五番地　室田義文
大阪市南區安堂寺橋通四丁目二百四十五番屋敷　浮田桂造
岩手縣盛岡市呉服町四十二番戸　小野慶藏
一設立年月日　明治四十三年八月十五日
右明治四十三年九月二日登記

東京區裁判所

同胞生命保險株式會社

同胞生命保險株式會社創立趣意書

人生最大ノ事變ハ死亡ノ運命ニ在リ何人ト雖モ避ク可カラサルハ論ヲ俟タス故ニ壯年强健ノ日餘財ヲ蓄積シテ死後ノ備ヲ爲スハ其ノ一世ヲシテ安寧ナラシムルノミナラス子孫ヲシテ幸福ヲ受ケシムル所以ナリ

明治初年歐米ノ例ニ倣ヒ生命保險ノ事業モ亦我國ニ興ル現今ニテハ既ニ三十餘ノ會社ハ創立セラレ被保險者ノ募集ニ努力スト雖モ猶未ダ全國民一百ニ對シ二弱ヲ誘致スルニ過キス本業ノ發展ス可キ餘地綽々タルモノアリト云フヘシ

抑モ本業ノ經營ハ重キヲ其被保險者募集ノ成否如何ニ置ケリ然ルニ在來ノ會社營業案內ヲ見ルニ其保險金額ハ壹名凡參百圓以上二萬圓ヲ限度トシ此ノ掛金ニ應スルコトヲ得ル程度ノ國民ニ向テ競爭募集ヲナシツヽアルモノトス我輩モ亦其一部分ニ參加スルハ勿論ナリト雖モ更ニ一生面ヲ開キ小額保險ノ方法ヲ設ケテ凡金額五十圓ヲ最低度トシ專ラ薄給者及ヒ勞働者ヲシテ被保險者タラシメ死後埋葬ノ費ニ窮スルノ悲慘勿ラシメントス蓋シ未タ開拓セラレサル方面ニ鍬鋤ヲ入レンコトヲ期スルニ在リ從來此種ノ小額保險ニ注意ヲ拂ハサリシハ多クハ其募集費ニ對シ收支償ハスト云フニアリシト雖モ我輩ハ特ニ簡便ナル手段ヲ有スルヲ以テ其出費ヲ償ヒ得テ餘

明治四十三年　蓬萊生命　同胞生命

リアルコトヲ信ス此故ニ營業範圍ノ擴大ナル恰モ全國ヲ一手ニ收メタルカ如シ又何ソ募集ノ成否ヲ顧慮スルコトヲ要センヤ

茲ニ於テ我輩有志諸君ノ協贊ヲ仰キ資本金五拾萬圓ヲ以テ株式會社ヲ設立シ普通生命保險及養老保險ノ外薄給者ノ爲メ小額保險ノ方法ヲ設ケ在來ノ事業ヨリモ其範圍ヲ下層ニ向テ擴張スルヲ目的トシ以テ一般ノ利益ヲ謀ランコトヲ期セントス希クハ有志諸君前述ノ主旨ヲ諒トシ奮起提携セラレンコトヲ請フ

明治四十三年三月

首唱者　吉村鐵之助　小林富次郎　荒木眞弓
發起人　田中　遜　和田劍之助　東鄉昌武　長尾時春
福永文之助　石黒慶三郎　阿部政之　前田武四郎
村岡平吉　西村庄太郎　渡邊銀作　鈴木宗兵衞

同胞生命保險株式會社發起認可申請書

今般私共儀同胞生命保險株式會社設立發起致度ニ付御認可相成度別紙保險業法規定ノ書類相添此段申請候也

明治四拾參年六月參拾日

東京市　田中　遜　東京市　吉村鐵之助　東京市　小林富次郎　東京市　荒木眞弓
東京市　和田劍之助　東京市　東鄉昌武　京都市　長尾時春　東京府　福永文之助
東京市　石黒慶三郎　東京市　阿部政之　東京市　前田武四郎　橫濱市　村岡平吉
橫濱市　西村庄太郎　東京市　渡邊銀作　東京市　鈴木宗兵衞

農商務大臣　小松原英太郎　殿

【備考】明治四十四年六月十二日附農商務省指令商第四一一九號ヲ以テ認可

同胞生命保險株式會社定款（抄）

第一章　總則

第一條　當會社ハ生命保險事業ヲ營ミ其營業ノ範圍ハ日本帝國ノ內外ヲ問ハス一般公衆ニ對シ左ノ保險契約ヲ締結スルモノトス

一年齡九年六ヶ月一日以上六拾年六ヶ月以下ノ者ヲ被保險者トスル死亡生存混合保險

一年齡拾五年六ヶ月以下ノ幼者ヲ被保險者トスル生存保險

第二條　當會社ハ同胞生命保險株式會社ト稱ス

第三條　當會社ハ本店ヲ東京市京橋區弓町二十三番地ニ支店ヲ大阪市ニ置ク

當會社ハ樞要ノ地ニ出張所又ハ代理店ヲ設置ス

第二章　資本及ヒ株式

第五條　當會社ノ資本ノ總額ハ金五拾萬圓トス

第六條　當會社ノ資本金ハ之レヲ株式壹萬株ニ分チ一株ノ金額ヲ五拾圓トス

第九條　株金ノ拂込ハ第一回ヲ一株ニ付金拾貳圓五拾錢トシ其殘額ハ必要ニ應シ取締役會ノ決議ヲ以テ拂込ムヘキ金額及ヒ期日ヲ定メ二週間以前ニ各株主ニ通知シテ之レヲ拂込マシムルモノトス

第三章　株主總會

第二十條　株主總會ヲ別チテ定時株主總會臨時株主總會ノ二種トス

定時株主總會ハ每年一回トシ二月中ニ之レヲ招集シ又臨時株主總會ハ必要アル每ニ臨時之レヲ招集ス

第四章　役員

第二十八條　當會社ニ左ノ役員ヲ置ク

取締役　三名以上七名以內　監査役　三名以內

第二十九條　取締役ハ壹百株以上監査役ハ五拾株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ選任ス其任期ハ取締役ハ三年監査役ハ二年トス但再選スルコトヲ妨ケス

前項ノ任期カ其ノ任期中ノ最終配當期ニ關スル定時總會前ニ終了シタル場合ニ於テハ其ノ定時總會終了ノ日マテ其任期ヲ伸長ス

第三十二條　取締役ハ互選ヲ以テ社長、專務取締役並ニ常務取締役ヲ定ム

第三十四條　取締役會ハ取締役ヲ以テ組織ス取締役會ニ於テハ本定款ニ定メタルモノ、外左ノ事項ヲ決議ス

一保險契約ノ種類ノ增減及ヒ變更
一支店、出張所、代理店ノ設置及ヒ廢止
一保險契約以外ニ於テ會社カ權利ヲ收得シ義務ヲ負擔スヘキ事項

第四十一條　當會社ハ取締役會ノ決議ヲ以テ顧問又ハ相談役ヲ囑託スルコトヲ得

第五章　決　算

第四十三條　當會社ハ每年十二月三十一日ヲ以テ帳簿ヲ閉鎖シ事業年度ノ決算ヲ爲ス

第四十四條　當會社ハ每年事業年度ニ於ケル總收入金ヨリ總支出金ヲ控除シタル殘額ヲ其年度ノ利益金トス

第四十五條　當會社ハ前條ノ利益金ヨリ二十分ノ一以上二十分ノ三以內ノ法定準備金、二十分ノ一以內ノ特別準備金、十分ノ一以內ノ役員賞與金ヲ控除シ其殘額ヨリ拂込ミタル株金額ニ對シ株主配當金トシテ年六朱ヲ限度トスル金額ヲ充テ其殘額ノ十分ノ六ヲ保險契約者配當金ニ充テ尙ホ其殘額ヲ特別株主配當金ニ充ツルモノトス
但計算ノ都合ニ依リ利益金ノ全部又ハ一部ヲ次年度繰越金ト爲スコトヲ得

第四十六條　株主配當金ハ每事業年度末日現在ノ株主ニ配當ス

第六章　設立費用

第四十七條　當會社ノ設立費用ハ金貳千百圓以內トシ營業初年度ニ於テ償却スルモノトス

附　則

第四十八條　當分ノ內外國人ヲ被保險者トスル保險契約ヲ締結セサルモノトス

以上

明治四十三年六月三十日

發起人　東京市　田中　遜
【以下八名氏名省略】

〔七・二九、官報〕宇和生命保險合資會社ハ總社員ノ同意ニヨリ明治四十三年七月十五日解散ス

一清算人ノ氏名住所

北宇和郡宇和島町大字袋町四十番戶
福井春水

同　郡同　町大字本町百二十五番戶
藥師寺亦四郎

右明治四十三年七月二十二日登記

宇和島區裁判所

明治四十三年　同胞生命　其他ノ會社

イクイテーブル生命保險會社

【九・一四、官報】外國會社登記簿（株式會社ノ部）第一冊第一九號

一商　號　ゼ、イクイテーブル、ライフ、アツシユーランス、ソサイチー、オブ、ゼ、ユーナイテツドステーツ

一本　店　北亞米利加合衆國紐育州紐育市ブロードウエー街百二十番舘

一支　店　東京市麹町區有樂町一丁目一番地

一目　的　生命保險業

一設立年月日　西曆千八百五十九年（安政六年）七月二十五日

一資本總額　米國金貨十万弗

一一株ノ金額　一百弗

一各株ニ付拂込ミタル株金額　悉皆拂込濟

一公告ヲ爲ス方法　公告ハ紐育市發刊ゼ、イクイテーブル、レコード及他ノ紐育市發刊新聞紙及東京發刊ノ新聞紙ヲ以テス

一取締役ノ氏名住所　【省略、人員四十六名】

一監査役ノ氏名住所　【省略、人員一名】

一日本ニ於ケル支店代表者　横濱市山下町五十一番地　英國臣民　ウヰリヤム・ヘンリー・タルボツト

一明治四十三年九月一日東京市麹町區有樂町一丁目一番地ニ支店ヲ設置シタルニ因リ本號登記ヲ爲シタリ

右明治四十三年九月六日登記

東京區裁判所

明治四十四年

明治生命保険株式會社

普通保険約款、保険料及ヒ事業方法書改正ノ事（第三十一回明治四四・一一・一二・三一報告ヨリ同）

改正商法ノ實施ニ因リ當會社普通保険約款改正ノ必要ヲ生シタルヲ以テ同時ニ保険料及ヒ事業方法書ヲ改正シテ時運ノ趨勢ニ伴ハシメン爲メ利益分配無シ養老保険ノ保険料率改正ハ明治四十四年七月拾參日附ヲ以テ利益分配附養老保険及ヒ利益分配附有限掛金終身保険ノ新設ハ拾月參拾日附ヲ以テ事業方法書ノ改正ハ拾貳月貳拾五日附ヲ以テ認可申請書ヲ農商務省ニ提出シ左ノ通認可ヲ得タリ

農商務省指令商第四六九五號

東京府東京市麹町區八重洲町壹丁目壹番地　明治生命保険株式會社

明治四十四年七月十三日附申請保険料算出ノ基礎ニ關スル書類中變更ノ件認可ス

明治四十四年八月二日

農商務大臣　男爵　大浦兼武

農商務省指令商第六七八五號【會社名、所番地ハ省略】

明治四十四年　明治生命

明治四十四年十月三十日附申請保險料算出ノ基礎ニ關スル書類中變更ノ件認可ス
明治四十四年十二月二十七日
農商務省指令商第六七八六號【會社名、所番地ハ省略】
農商務大臣　男爵　牧野伸顯

明治四十四年十月三十日附申請普通保險約款變更ノ件認可ス
明治四十四年十二月二十七日
農商務大臣　男爵　牧野伸顯

【備考】變更約款ハ本編（1107）利益分配附終身保險約款ヲ參照

農商務省指令商第六七八六號【會社名、所番地ハ省略】
明治四十四年十二月二十五日附申請事業方法書ノ件認可ス
明治四十四年十二月二十七日
農商務大臣　男爵　牧野伸顯

右認可ヲ得タル事項ハ明治四十五年壹月壹日ヨリ實行スルコトト定メ同時ニ定期保險ヲ廢止シ又五百圓未滿ノ保險金ヲ契約セス保險料ノ月掛ヲモ廢止スルコトトセリ

帝國生命保險株式會社

【五・六、保險銀行時報】**帝國生命の最高限引上げ**　社長及顧問等の全國視察及社員一同の奮勵にて保險界の不作時季たる四月の成蹟も遙かに豫期のそれを超過したる帝國生命は曩きに其最低限を五百圓に引上げたるが今また最高限を引上げて利益配當付保險二萬圓無配當付保險は五萬圓まで契約する事にしたり

日本生命保險株式會社

明治四十四年ノ主要事項——（保險金最高額引上・契約年齡延長・約款改正（第二十三回明治四四・一二・三一事業報告ヨリ同））

一七月拾參日本社ニ於テ引受クル保險金額ノ最高限ヲ參萬圓トシ本月拾五日ヨリ實施ノ旨大阪府廳ヲ經テ農商務大臣ヘ屆出ツ

一八月拾壹日有限掛金終身生命保險養老生命保險及短期掛金養老生命保險ノ最高年齡延長ノ認可申請書ヲ大阪府廳ヲ經テ農商務大臣ヘ提出シ九月七日付ヲ以テ認可セラル

一拾壹月貳拾日改正商法ノ實施ニ付普通保險約款ヲ改正シ大阪府廳ヲ經由シテ農商務大臣ヘ認可申請書ヲ提出ス【本編（1113）參照】

一拾貳月參拾日豫テ農商務大臣ヘ認可申請中ノ改正普通保險約款中第拾五條ヲ更正シ大阪府廳ヲ經由シテ認可

ヲ申請ス

內國生命保險株式會社

(1052) 當期成績ト欠損

〔一・一八、保險銀行時報〕**內國生命總會**　內國生命は來三十一日總會を開き當期成績並に定款改正の承認を求むる筈にして營業費準備金を差引き約三萬圓餘の缺損は尙免れざる模樣なるも會社側に於ては此の際拂込みをなさずして營業繼續せんとの希望を有するもの、如く目下主務省との交涉中なりと云ふ

(1053) 整理成ル

〔五・一三、保險銀行時報〕**內國生命整理成る**　豫ねて主務省の命を受け內部の整理に餘念なかりし內國生命の整理は河村專務及村上支配人等の夜を日に次ける努力に依り整理略ぼ完了し昨今一件書類を主務省に差出し審査を乞ひ居る次第なれば其事業開始も近きにある可しと

(1054) 新任役員（西脇氏等就任）

太陽生命保險株式會社

〔一一・一〇、官報〕太陽生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一取締役桂二郎、榎本與八郎、渡邊榮次ハ明治四十四年十一月一日辭任シ左者同日取締役ニ就任ス

新潟縣北魚沼郡小千谷町九十六番地　西脇濟三郎

東京市牛込區市ヶ谷仲之町八番地　西脇健治

東京府豐多摩郡澁谷町大字下澁谷八百番地　清水文之輔

東京市牛込區市ヶ谷加賀町二丁目三番地　伴野乙彌

一監査役後藤哲次郎、早川昇策ハ同日辭任シ左者同日監査役ニ就任ス

東京市京橋區築地明石町三十一番地　柴田極人

右明治四十四年十一月六日登記　東京區裁判所

(1055) 社內更新

〔一二・一、大阪朝日〕**廣告**

本社は這回の改善を了て豐富なる資金と熱誠なる努力と賢實なる營業方法とに依り事業の大發展を期す

明治四十四年　日本生命　內國生命　太陽生命

ノ廣告

清算結了(1056)

大東生命保險株式會社

〔四・一四、官報〕一、大東生命保險株式會社
明治四十四年三月十二日清算結了
明治四十四年三月十四日登記

創立明治廿六年　　本社　東京京橋三十間堀　太陽生命保險株式會社

社　長　西脇濟三郎
專務取締役　清水文之輔
取締役　西脇健治
取締役　伴野乙彌
監査役　柴田極人

大阪市南區順慶町四丁目　太陽生命保險株式會社大阪支社

大阪區裁判所

本店移轉(1057)

國民生命保險株式會社

〔一〇・一八、官報〕國民生命保險株式會社登記事項中變更
本店ヲ廣島市猿樂町二十七番地ニ變更
右明治四十四年十月十日登記

廣島區裁判所

本店移轉(1058)

佛教生命保險株式會社

〔一二・一八、官報〕本店移店
佛教生命保險株式會社ハ本店ヲ京都市下京區裏寺町三番戸ニ移轉
明治四十四年　太陽生命　大東生命　國民生命　佛教生命

右明治四十四年十二月十二日登記

京都區裁判所

有隣生命保險株式會社

新種保險認可ノ報(1059)

〔六・一八、東京朝日〕**有隣生命の新種類保險認可**　同社に於て今回認可を得たる新種類保險の方法は從來行はるゝ普通保險又は配當附保險とは其性質を異にし同社獨特の保險法にして被保險者は契約成立と同時に一定の年限毎に確實に配當金を得るの特權を有する仕組にして契約後五ヶ年を經過したるものは如何なる場合に於ても些の障害なく保險金全額の支拂を受くることを得る方法なれば健康者の加入するには極めて有利の方法なりと云ふ

【備考】明治四十四年二月十五日保險種類改正認可申請、同年六月十二日認可――第十七回及第十八回報告書ヨリ

確定配當附ノ成績(1060)

〔九・二、報知〕**有隣生命新種類保險**　同社にては現代に適合する新種類生命保險（一）確定配當附積立保險（二）有限掛金終身保險（三）特別養老保險（四）普通養老保險の四種を案出し曩に主務省の認可を得て八月一日より募集に着手したるが成績頗る良好にして募集額約四十万に達せりと而して右四種類中最も契約者多きは確定配當附積立保險にして之に次くは特別養老保險の由なるが右二種は同社獨特の新々式保險種類なりと

高倉氏ニ引繼(1061)

〔一二・二八、大阪毎日〕**有隣生命業務引繼**　有隣生命保險會社は從來其經營宜しきを得ず爲に內部の紛擾絶ゑざりしが今回大阪の高倉藤平外兩三氏之を引受くることとなり缺損額全部を補塡すると同時に內情を公表し左の如く重役の變更を行ひ二十五日より業務を引繼ぎたり

社長高倉藤平　取締役兼支配人小川一重　取締役淺野陽吉　同磯野良吉　監査役高橋守太郎　同藤野正年

定款變更認可申請(1062)

日本共立生命保險合資會社

弊社定款別紙之通り變更仕度候間御認可被成下度決議書謄本相添へ此段申請候也

明治四十四年七月一日

日本共立生命保險合資會社
業務擔當社員　森田長治郎

農商務大臣　大浦兼武殿

【備考】明治四十四年七月三十一日附農商務省指令商第四四九一號ヲ以テ認可

明治四十四年　佛教生命　有隣生命　日本共立生命

(1063) 變更事項（出資者ノ變更）

變更事項

一定欵第六條中左ノ通リ變更ス

「金參萬圓藤川秀三郎」ヲ削除シ「金貳萬圓下村忠三郎」ヲ「金五萬圓下村忠三郎」トス

右變更ノ理由　藤川秀三郎死亡ニ付其出資額參萬圓ヲ下村忠三郎繼承シタルニヨル

(1064) 特別利益配當附保險認可申請

認可申請書

今般特別利益配當附生命保險營業開始仕度候ニ付御認可被下度別冊相添ヘ此段奉願上候也

明治四十四年十二月十八日　京都市上京區二條通新町東入大恩寺町六番戸

商法施行前設立　日本共立生命保險合資會社

業務擔當社員　社長　下村忠三郎

農商務大臣　男爵　牧野伸顯　殿

【備考】大正元年十二月二日付認可――第六回事業報告書ヨリ

(1065) 事業方法書

特別利益配當附保險事業方法書（抄）

一保險ノ名稱及方法　當會社ガ營業スル特別利益配當附生命保險ノ名稱及方法左ノ如シ

甲　終身保險　保險料拂込期間ヲ分チテ十年、十五年、二十年トス

乙　養老保險　保險契約滿了ノトキハ被保險者ノ年齡ニヨリテ分チ四十歲請取、四十五歲請取、五十歲請取、五十五歲請取、六十歲請取トス

三保險金額　當會社ガ締結スル保險金ハ共保險種類ノ何タルヲ問ハズ契約一件ニ付最低額ヲ參百圓トシ以上百圓ヲ單位トシ壹萬圓ヲ以テ最高限度トス

被保險者一人ニ對シ數件ノ保險契約ヲ締結スル場合ニ於テ其合計額ハ壹萬圓ヲ超エザルモノトス

但解約返還金ヲ以テ一時拂保險料ニ振替ヘ拂濟證券ヲ交付スル場合ニ於テハ保險金額ノ單位ヲ金壹圓トシ前記ノ限度ニ拘ハラザルモノトス

普通保險約欵（抄）

【備考】本約欵中明治四十四年改正模範約欵ト略同樣ノ規定ハ省略セリ

第三條　保險料ハ會社ノ本店代理店又ハ會社ノ指定スル場所ニ於テ拂込ムベシ但保險契約者ニ於テ保險料拂込場所ヲ變更セントスルトキハ豫メ之ヲ會社ニ通知スルコトヲ要ス

第五條　被保險者ガ戰亂地ニ赴キ又ハ第壹回保險料拂込ノ時ヨリ壹年內ニ被保險者ガ職業ヲ變更シ若クハ外國ニ赴クトキハ保險契約者及ビ被保險者ハ遲滯ナク之ヲ會社ニ通知スベシ

前項ノ場合ニ於テ危險ガ著シク增加スト認メタルトキハ會社ハ將來ニ向テ保險契約ヲ解除シ又ハ特別保險料ヲ請求シ若クハ危險ノ存續中ノ死亡ニ對シ保險削減ノ特別契約ヲ請求スルコトヲ得

保險契約者又ハ被保險者ガ第一項ノ通知ヲ爲サズ又ハ會社ガ特別保險料又ハ危險ノ存續中ノ死亡ニ對シ保險金削減ノ特別契約ヲ請求シタル場合ニ於テ貳週間內ニ之ニ應ゼザルトキハ保險契約ハ其効力ヲ失フ

第拾三條　左ノ場合ニ於テハ會社ハ保險金ヲ支拂フ責ニ任セズ

【一、四、五ハ省略】

一被保險者ガ自殺シタルトキ

三被保險者ガ決鬪其他ノ犯罪若クハ死刑ノ執行ニ因リ又ハ禁錮若クハ徵役ニ處セラレ其刑ノ執行中ニ死亡シタルトキ

六被保險者ガ戰爭其他ノ變亂ニ因リ死亡シタルトキ但豫メ特別保險料ヲ拂込ミ若クハ保險金削減ノ特別契約ヲナシタルトキハ此限リニ在ラズ

第拾四條　保險申込書ニ記載シタル被保險者ノ年齡ニ錯誤アリタル場合ニハ左ノ方法ニヨリ處分ス【一、二ハ省略】

三錯誤ノ年齡ガ實際ノ年齡ヨリ少カリシトキハ保險料ノ不足額ニ壹個年百分ノ六ノ複利ヲ付加シテ領收シ且將來ノ保險料ヲ更正スベシ保險金支拂ノ時期到達以前ニ此手續ヲ爲サヾリシトキハ保險料不足額ノ割合ヲ以テ保險金額ヲ削減シ且保險金ノ百分ノ五ヲ控除スベシ

第拾八條　保險契約ノ解除失効又ハ會社ガ保險金ヲ支拂フ責ニ任ゼザル場合ニハ當該年度末ニ於ケル責任準備金ヨリ費用ノ賠償トシテ保險金額ノ百分ノ三ト責任準備金ノ拾分ノ二トヲ控除シ其殘額ヲ保險契約者ニ拂戻スベシ但第拾三條第五號ノ場合ハ此限リニアラズ

第二拾一條　保險契約者又ハ其承繼人ハ左ノ規定ニヨリテ當會社ノ特別配當及滿期配當ヲ受ク

一特別配當　當會社ノ利益ト損失トニ拘ハラズ一定ノ計算ニヨリ年々特別配當基金ヲ積立テ第壹回保險料拂込ノトキヨリ參年以上間繼續シタル保險契約ニ對シ當會社ノ決算期ニ於テ現在セル契約ノ保險金ニ割當テ三年以前ニ積立タル部分ヲ配當スルモノニシテ其配當ハ終身保險ニ在テハ保險料拂込期間及ビ其終了後參個年間養老保險ニ在テハ保險期間及滿了後參個年毎年之ヲ配當スルモノトス被保險者死亡シ保險金ヲ拂渡シタル場合ニ於テハ其保險年度後尚參年間毎年保險契約者ニ配當ス

二滿期配當　會社ノ決算ニ於テ利益アリタルトキ特別利益配當付保險契約ヨリ得タル利益ヲ別個ニ計算シテ其十分ノ八ヲ積立テ之ヲ當會社ガ收入スル利息ノ平均率ヲ以テ利殖シ終身保險ハ保險料拂込滿期ノトキ養老保險ハ契約滿期ノトキ責任準備金ヲ標準トシテ配當スルモノトス

第二拾二條　保險契約ガ失効シタル後第拾五條ニヨリ復活シタルモノハ復活以前ノ契約ニ對シ特別配當ノ分配ニ與ルコトナシ

第貳拾三條　會社ガ配當ノ通知ヲ發シタル後ニ非ザレバ配當ヲ受クルモノハ其配當ヲ請求スルヲ得ザルモノトス

會社ガ配當ノ通知ヲナシタル後貳個年以內ニ之ヲ請求セザルトキハ請求ノ權ヲ失フモノトス

移轉届(1067)

大阪生命保險株式會社

御届書

當會社今般大阪市東區瓦町壹丁目十六番屋敷へ移轉致候ニ付テハ三月九日登記申請濟ニ付別紙抄本相添へ此段御届申上候也【別紙抄本省略】

明治四十四年四月一日　　大阪市東區瓦町壹丁目拾六番屋敷　大阪生命保險株式會社

清算人　東　良三郎

農商務大臣　男爵　大浦兼武　殿

明治四十四年　日本共立生命　大阪生命

仁壽生命保險合資會社

對日倉事件和解ノ廣告(1068)　右ノ事情概略(1069)

〔五・二四、大阪毎日〕**廣　告**

仁壽生命保險合資會社と日本倉庫株式會社との間に於ける金錢取引事件今般和解結了相濟みたることを廣告す

麹町區內幸町　仁壽生命保險合資會社　社　長　下鄉傳平

京橋區月島西河岸通九丁目　日本倉庫株式會社　常務取締役　藤崎三郎

〔五・二六、東京日々〕**仁壽、日倉事件落着**　一時世上の一問題たりし、仁壽生命保險會社對日本倉庫會社問題は其後仁壽の前社長長鄉泰輔氏は出資金を受取りて退社し、同專務東條一郎氏は退社と同時に監督不届の廉を以て若干の賠償金を提供し辯護士川島龜夫氏は報酬契約全部を抛棄し又問題の燒點たりし松谷元三郎は仁壽の出資權讓受（東條、長鄉、西村の三名分）契約を破棄し同時に日本倉庫會社の株式名義を他に讓り渡し、尙從來の金錢取引關係を一掃し一方舊日本倉庫社員上野豐太郎が仁壽より詐取したる十三万餘圓の金額は全部日倉に於て引受け、倉庫敷地四千二百餘坪の借地權及び建物全部を抵當として十ヶ年賦を以て返濟することとし一切法廷沙汰を止め圓滿の解決を告げて兩社當事者の調印を終りたる由

其他ノ事項(1070)　詐僞破產判決(1071)

其他ノ事項——事業方法書中變更・約款變更（第十七回明治四四・一一・一報告ヨリ同同一二・三一認可）

一明治四十四年一月十四日事業方法書營業ノ範圍中朝鮮ヲ除ク件ニ關シ農商務大臣ニ認可ヲ申請シ同年同月二十四日認可ヲ得タリ

一明治四十四年十一月十七日普通保險約款及事業方法書中申込書變更ノ件ニ關シ農商務大臣ニ認可ヲ申請シ同年十二月二十六日認可ヲ得タリ

【改正普通保險約款ハ明治四十二年一月實施ノ約款及ヒ明治四十四年改正模範約款ニ比スレバ殆ト異ナル規定ナシ、之ヲ省略セリ】

九州生命保險株式會社

〔二・一一、福岡日々〕**詐欺破產判決**　元九州生命保險事件

福岡地方裁判所に於て昨年十一月より本年一月に掛け前後七回の公判を重ねたる九州生命保險會社詐僞破產事件は去月十三日を以て審理終結し河村隆實以外の被告は夫れと同時に保釋出獄を許され居たるか昨十日午後一時半福岡地方裁判所に於て判決言渡しありたり定刻に先立ち保釋出獄を許されたる吉田健藏、林詮吾の兩人は

明治四十四年　仁壽生命　九州生命

被告中山直方、朝倉要之助の代理人及び辯護士と共に出廷し高らかに笑聲を發して打語らひなどして勉めて平氣を裝ひ居たるところに只一人保釋出獄を許されざりし河村隆實は警官に護衛され縞笠姿にて入廷し着席すると同時に被告三名五に挨拶を取交はしたり、斯くて大野裁判長以下出場書記の呼上ぐる聲に應じて被告一同起立するや大野裁判長は判決申渡す旨を宣して左記の如く申渡し次で判決理由は頗る複雜なれば何れ謄本を渡すことゝし此處にては大要を述ぶべしとて可なり長時間に亘りて其大要を述べ尚本裁判に對しては五日以内に控訴するを得る旨を宣して閉廷したるが被告吉田、林の兩人は遺に始の元氣に引變へ悄然と打萎れたれと河村のみは平氣を裝ひ傍聽席を睥睨して退席し聊か自棄氣味に見受られたり

懲役六年　河村隆實　　懲役三年　吉田健藏
懲役一年六月　林詮吾　　懲役一年六月　淺倉要之助

公訴費用は被告五名の連帶負擔とす

六條生命保險株式會社

農商務省商務局長ヨリ京都府知事へ照會　明治四十四年五月三十一日

清算速了方ニ關シ照會

商第七五九五號　客年十二月廿七日付第七五九五號ヲ以テ貴管下六條生命保險株式會社ニ對シ清算速了方ニ關シ及御通牒置候處未タ何等ノ答申ニ接セス右ニ付テハ今後採ルヘキ措置方針ニ付清算人ヨリ詳細具申候樣御示達相成度
右照會ス

日宗生命保險株式會社

〔九・四、官報〕日宗生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス
一明治四十四年八月十七日本店ヲ左ノ所ニ移轉ス
一本店　東京市芝區芝公園第五號地三番
右明治四十四年八月二十五日登記

東京區裁判所

明治四十四年　九州生命　六條生命　日宗生命

日本教育生命保險株式會社

(1074)

〔一・九、大阪毎日〕**教育生命保險總會**　同社は七日午後一時臨時株主總會を開き取締役松平正直男辭任に對する補欠選擧を行ひしに伯爵柳原義光氏當選引續き重役會の互撰を以て同伯を社長に推撰することに決定し二時半散會せり

柳原伯社長ニ就任

(1075)

徵兵保險株式會社

徵兵保險約款（抄）（明治四十四年一月一日改正保險規則ヨリ）

【備考】明治四十三年四月一日徵兵保險約款變更認可申請、同年十一月二十九日認可（第十三回報告ヨリ）尙本約款ハ明治四十一年一月ノ約款（本編896）ニ比シ變更アリタル規定ヲ抄錄セリ

第四條　第二種徵兵保險ノ被保險者ニシテ一年志願兵志願者ニ限リ其合格入營ノ時期カ滿二十歲以前ナルトキハ滿二十歲ニ達シタルトキニ於テ若又以後ナルトキハ其志願有效年限中保險契約ヲ存續シ合格入營シタルトキニ於テ第三條ノ保險金額ヲ支拂フベシ

但被保險者カ滿二十歲ニ達シタル後保險契約者カ保險金額ヲ受取ルベキ者ノ同意ヲ經テ契約ノ解除ヲ請求スルトキハ本會社ハ之レニ應シ既拂込保險料ヲ拂戻スヘシ

第五條　被保險者カ補充兵ニ當籤シタルトキハ保險契約者ノ希望ニ由リ補充兵ニ當籤シタルトキヨリ一箇年間第三條ノ拂戻ヲ猶豫スルコトアルヘシ

前項猶豫期間中ニ於テ補闕ノ爲メ現役ニ徵集セラレタルトキ及戰時若クハ變亂ニ際シ入營シタル補充兵ニシテ教育期間ヲ經過スルモ猶在營シ且現役ニ轉換セル證明アルモノニハ契約ノ保險金額ヲ支拂フヘシ

第六條　被保險者カ入營シタルトキニ於テ保險金額ヲ受取ラスシテ現役服務中若クハ滿期ノ後受取ルコトヲ望ムトキハ本會社ハ之レニ應シ保管シ置キ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ請求スルトキニ於テ支拂フヘシ

但保管中ハ年五朱ノ割ヲ以テ利子ヲ附スヘシ

第十六條　保險申込書ニ記載シタル被保險者ノ年齡ニ錯誤アリタル場合ニ於テ第十三條第二號ニ該當セサルモノハ左ノ方法ニ據テ處理スベシ

一錯誤ノ年齡カ實際ノ年齡ヨリ多カリシトキハ契約ノ當初ニ溯リ保險料ヲ削減スヘシ

明治四十四年　日本教育生命　徵兵保險

タルトキニ於テ若又以後ナルトキハ其志願有效年限中保險契約ヲ存續シ合格入營シタルトキニ於テ第三條ノ保險金額ヲ支拂フベシ

但被保險者カ滿二十歲ニ達シタル後保險契約者カ保險金額ヲ受取ルベキ者ノ同意ヲ經テ契約ノ解除ヲ請求スルトキハ本會社ハ之レニ應シ既拂込保險料ヲ拂戻スヘシ

第五條　被保險者カ補充兵ニ當籤シタルトキハ保險契約者ノ希望ニ由リ補充兵ニ當籤シタルトキヨリ一箇年間第三條ノ拂戻ヲ猶豫スルコトアルヘシ

前項猶豫期間中ニ於テ補闕ノ爲メ現役ニ徵集セラレタルトキ及戰時若クハ變亂ニ際シ入營シタル補充兵ニシテ教育期間ヲ經過スルモ猶在營シ且現役ニ轉換セル證明アルモノニハ契約ノ保險金額ヲ支拂フヘシ

第六條　被保險者カ入營シタルトキニ於テ保險金額ヲ受取ラスシテ現役服務中若クハ滿期ノ後受取ルコトヲ望ムトキハ本會社ハ之レニ應シ保管シ置キ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ請求スルトキニ於テ支拂フヘシ

但保管中ハ年五朱ノ割ヲ以テ利子ヲ附スヘシ

第十六條　保險申込書ニ記載シタル被保險者ノ年齡ニ錯誤アリタル場合ニ於テ第十三條第二號ニ該當セサルモノハ左ノ方法ニ據テ處理スベシ

一錯誤ノ年齡カ實際ノ年齡ヨリ多カリシトキハ契約ノ當初ニ溯リ保險料ヲ削減スヘシ

但拂戻スベキ保險料中ヨリ其十分ノ二ヲ控除スルモノトス

二錯誤ノ年齡カ實際ノ年齡ヨリ少カリシトキハ契約ノ當初ニ溯リ保險料ノ不足額ニ一箇年百分ノ六ノ複利ヲ附加シテ領收スベシ

第二十條　入營率カ增加シ保險料算出ノ基礎ニ著シク影響ヲ及ホシタルトキハ本會社ハ遲滯ナク主務官廳ノ認可ヲ得テ之カ基礎ヲ變更シ保險金額又ハ第六號表及第七號表ノ拂戻金ヲ適當ナル額ニ變更スルコトヲ得此場合ニ於テハ本會社ハ遲滯ナク保險契約者ニ之カ通知ヲ發スヘシ若シ本會社カ其通知ヲ發セサルトキハ前記金額ノ變更ヲナスコトヲ得ス但本文ノ變更ハ通知ノ日ヨリ其效力ヲ生スルモノトス

前項ノ通知ヲ受ケタル保險契約者カ本會社ノ指定スル保險料ノ增拂ヲ爲シ保險金額ノ變更ニ代ヘンコトヲ請求スルトキハ其時ニ於ケル被保險者ノ年齡カ滿十五歲ヲ超エサル場合ニ限リ本會社ハ之ニ應スヘシ但本文ノ請求ハ前項ノ通知ヲ發シタル日ヨリ三十日間ニ其請求書ヲ發スルコトヲ要ス

第一項ノ通知ヲ受ケタル保險契約者カ契約ノ解除ヲ請求スル場合ニ於テハ既拂込保險料中ヨリ其十分ノ二及契約時ノ保險金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額ヲ控除シ其殘額ヲ拂戻スベシ

但本文ノ請求ハ第一項ノ通知ヲ發シタル日ヨリ三十日間ニ其請求書ヲ發スルコトヲ要ス

新築落成移轉廣告 (1076)

〔四・三、東京日々〕稟　告

業務擴張の爲前年來東京市京橋區新肴町十九番地に新築中の本社營業所今般落成に付移轉仕候

四月三日　　徵兵保險株式會社

諸積立金　貳百六十二万五千百九十三圓（四十三年四月末）

契約保險金　二千三百七万九千六百圓（四十四年二月末）

約款改正 (1077)

〔一一・二七、保險銀行時報〕徵兵保險會社改正約款

商法の改正に伴ふ約款改正に就ては過般徵兵保險會社は其申請を爲したる處去る十八日附を以て主務省より其認可を得たりしと云ふ、同社此度の改正は徵兵保險本來の性質よりして普通生命保險のそれに於ける如く比較的複雜ならず只單に告知義務に關するものゝみにして卽ちそれに關する條項第十三條の改正を見たる外第十六條に於て一部字句の改正をなしたるのみなり尙參考として改正せる第十三條を揭示すれば左の如し

第十三條　保險契約の當時保險契約者又は被保險者か故意又は重大なる過失に因り重要なる事實を告げず又は重要なる事項に就き不實の事を告げたる時は本會社は契約の解除を爲すことを得

但し本會社が其事實を知り又は過失に因り之を知らざりし時は此限りに在らず

前項の解除權は本會社が解除の原因を知りたる時より一ケ月間之を行はざる時は消滅す

契約の時より五ケ年を經過したる時亦同じ

因みに右改正要點は印刷物として目下各出張所、代理店、外勤員等に發送中の由なるが諸般の都合等もあるに依り實施期は明年一月一日よりなりと

改正條項

【備考】明治四十四年十月十日徵兵保險約款變更認可申請書ヲ農商務省ヘ提出シ同年十一月十八日之レガ認可ヲ得タリ―第十四回報告ヨリ

(1078)

保險約款（抄）

愛國生命保險株式會社

【備考】明治四十四年十一月二十四日改正商法實施ノ結果ニ基キ保險約款變更認可申請書ヲ農商務大臣ニ提出シ十二月二十七日其認可ヲ得タリ、尙本約款中明治四十四年改正模範約款及ヒ明治三十五年十二月認可ノ約款（本編230）ニ比シ相違ナキ規定ハ省略セリ

第一章　通則（壽常終身保險、有期拂込終身保險、養老保險、短期拂込養老保險、利益配當附養老保險、營業資金保險、教育結婚資金保險に共通の事項を規定す）

第二章　終身及養老保險（壽常終身保險、有期拂込終身保險、養老保險、短期拂込養老保險、利益配當附養老保險に特殊の事項を規定す）

第三章　資金保險（營業資金保險、教育結婚資金保險に特殊の事項を規定す）

第一章　通則

第四條　保險料拂込期日後二箇月ヲ猶豫期間トス此期間內ハ延滯保險料ニ一日一萬分ノ四ノ利子ヲ附加シテ拂込ムヘシ

保險料ヲ拂込マスシテ前項ノ期間ヲ經過シタルトキハ保險契約

此約款は明治四十五年一月一日以後の契約に適用するものにして明治三十六年一月一日以後明治四十四年十二月末日迄の契約に對しては舊終身及養老保險約款、利益配當附養老保險約款、資金保險約款を適用し明治三十六年以前の契約は保險規則に據るものとす

明治四十四年　徵兵保險　愛國生命

ハ其効力ヲ失フ

第六條　被保險者カ戰爭其他ノ變亂地ニ赴クトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ豫メ之ヲ會社ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ特別保險料ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ資金保險ニ適用セス

第十二條　保險契約申込書ニ記載シタル被保險者ノ年齡ニ錯誤アリタル場合ニハ左ノ方法ニ依リ處分ス

一實際ノ年齡カ保險契約ノ當時會社ノ保險料表ニ揭ケタル年齡ノ範圍外ナリシトキハ保險契約ハ無効トシ既ニ拂込ミタル保險料ハ其ノ十分ノ二ト保險金額ノ百分ノ二ニ當ル金額トヲ控除シ其殘額ヲ拂戻スヘシ

二錯誤ノ年齡カ實際ノ年齡ヨリ多カリシトキハ既ニ拂込ミタル保險料ノ差額ヲ拂戻シ且將來ノ保險料ヲ更正スヘシ保險契約消滅ノ事由發生後ニ此錯誤ヲ發見シタル場合ニ於テモ既ニ拂込ミタル保險料ノ差額ハ之ヲ返還ス

三錯誤ノ年齡カ實際ノ年齡ヨリ少ナカリシトキハ既ニ拂込ミタル保險料ノ不足額ニ一箇年百分ノ六ノ複利ヲ附加シテ領收シ且將來ノ保險料ヲ更正スヘシ此手續ヲ爲サスシテ保險金支拂ノ事由發生シタルトキハ保險料ノ不足額及之ニ對スル利子ハ支拂フヘキ保險金額ヨリ控除スヘシ

第十五條　利益配當附養老保險ニ於ケル保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ除キ保險契約者、被保險者及保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社ノ利益ノ分配ニ與カル權利ヲ有セス

第二章　終身及養老保險

第二十二條　左ノ場合ニ於テハ會社ハ保險金ヲ支拂フ責ニ任セス

一被保險者カ自殺シタルトキ

第二十五條　利益配當附養老保險ニ在リテハ契約ノ時ヨリ起算シ滿十年、十五年、二十年、二十五年目毎ニ保險契約カ有效ナルトキニ限リ配當金ヲ保險期間滿了ノ場合ニ於ケル保險金額ヲ受取ルヘキ者ニ支拂フモノトス但二十五年滿期ノ契約ニ在リテハ滿十年目ノ配當ヲ爲サス

前項配當金支拂ノ時期ニ達シタルトキハ會社ハ其配當金額ヲ通知シ之カ請求ヲ待テ拂渡ヲ爲スヘシ

第二十六條　前條ノ配當金ハ別表ノ確定配當金ニ會社カ定歩ニ依リ決算期毎ニ利益金ノ百分ノ五以上百分ノ十以下ニ於テ積立テタル利益配當準備金ノ分配額ヲ加ヘタルモノトス

利益配當準備金ノ分配額ハ配當ヲ爲スヘキ年ノ前年度末ニ於ケル確定配當準備金總額ヲ以テ利益配當準備金總額ヲ除シ之ニ配當期ニ達シタル契約ノ確定配當金額ヲ乘シタルモノトス

第三章　資金保險

第二十七條　資金保險ニ在リテハ被保險者カ保險期間滿了ノ日マテ生存シタルトキハ保險金ヲ支拂フモノトス

第二十九條　被保險者カ保險期間滿了前ニ死亡シタルトキハ既ニ拂込ミタル保險料ノ全部ヲ保險契約者ニ拂戻スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ保險契約者ハ被保險者ノ戸籍謄本ヲ提出シテ保險料ノ拂戻ヲ請求スヘシ

利益配當附養老保險確定配當金表

契約時ニ於ケル被保險者ノ年齡	十年滿期	十五年滿期			二十年滿期			二十五年滿期		
	滿期當額	十年目第一回	十五年滿期第二回	十年目第一回	十五年目第二回	二十年滿期第三回	十五年目第一回	二十年目第二回	廿五年滿期第三回	十年目第一回
一五	一九六円	五〇円	一六一円	三〇円	五〇円	一四七円	四〇円	六〇円	一六八円	一
二〇	一九七	五〇	一六三	三〇	五〇	一五一	四〇	六〇	一七五	一
二五	一九九	五〇	一六六	三〇	五〇	一五七	四〇	六〇	一八六	一
三〇	二〇一	五〇	一七〇	三〇	五〇	一六五	四〇	六〇	二〇五	一
三五	二〇四	五〇	一七六	三〇	五〇	一七九	四〇	六〇	二三七	一
四〇	二〇八	五〇	一八八	三〇	五〇	二〇四	四〇	六〇	二九八	一
四五	二一七	五〇	二〇八	三〇	五〇	二五一	四〇	六〇	三四九	一
五〇	二三二	五〇	二四四	三〇	五〇	二五一	四〇	六〇	三四九	一

東洋生命保險株式會社

〔一〇・二九、時事新報〕東洋生命の招待會　昨年七月澁澤男を始め第一銀行の佐々木勇之助氏、第百銀行の

明治四十四年　愛國生命　東洋生命

發展祝賀招待會

高田小次郎氏等數十名新に株主となりて全然組織の更革を爲したる東洋生命保險會社は爾來内外各地に營業を勵みたる結果、既に一千万圓以上の契約を得たるに依り更に第二の行程に上らんとするを機會に祝意を表するため二十八日夜精養軒に朝野知名の人々百五十余名を招待したり、各種の余興あり食後社長尾高次郎氏の挨拶に次き澁澤男及び其他の演説あり、岡部子爵の發聲にて同社萬歲を三唱し午後九時隨時散會せり

大同生命保險株式會社

事業方法書變更認可申請書

當會社事業方法書中左之通り變更致度候間御認可相成度別紙理由書相添へ此段申請候也

一「當會社營業ノ範圍」ト題スル事項中「保險金額」ニ關スル項下ニ「最高壹萬圓」トアルヲ「最高貳万圓」ニ變更ス

明治四十四年五月廿五日　大阪市西區江戸堀上通壹丁目九番地　大同生命保險株式會社

取締役　廣田惠三

【以下取締及監査役四名省略】

農商務大臣　男爵大浦兼武殿

【備考】明治四十四年五月三十一日認可――第九回報告ニ依ル

事業方法書變更理由書

當會社保險金額最高限度變更理由左之如シ

一當會社現時ノ被保險者數及ヒ契約保險金額對一人平均保險金額並ニ所有資產ハ被保險者壹人ニ對スル保險金最高額ヲ貳萬圓ニ上進セシムルハ優ニ之レカ危險負擔ニ堪ヘ且ツ輓今保險思想益々富裕者間ニ普及シ加ヘテ一般富力ノ增進ニ伴ヒ高額保險契約ノ需要逐日增加ヲ認メタルニ由ル

第一生命保險相互會社

〔二・二一、報知〕矢野恒太氏の受賞　第一生命保險相互會社重役正七位矢野恒太氏は内閣統計局の囑託に依り死亡表の調査に從事し盡力勘からざりし廉を以て今般賞勳局を經て銀杯一組を賜はりたり

其他ノ事項——約款改正・事業方法書其他基礎書類變更（第十回明治四四・九・一事業報告書ヨリ）

商法改正ノ結果普通保險約款中改正ヲ要スル點少カラザルヲ以テ此機會ニ於テ一層社員（保險契約者）ノ利益ヲ圖ルノ目的ヲ以テ普通保險約款ヲ改正シ且從來ノ約款ニ由ル契約ニ在リテモ當事者ノ希望ニ依リテハ改正約款ヲ適用スルヲ得ルコトヲ決議シ之ト同時ニ其認可ヲ得ルニ必要ナル修正施行期日ノ決定ヲ取締役ニ一任スルコトヲ決議ス

明治四十四年十一月十五日第十回定時社員總代會ニ於テ決議シタル普通保險約款ノ改正ハ十一月十七日主務官廳ヘ認可ヲ申請シ十二月二十七日其認可ヲ得タリ依テ明治四十五年二月一日之ヲ實施セリ

保險契約ノ種類ニ新ニ二十五年滿期ヲ加ヘ十年滿期ヨリ三十年滿期マデ五年毎ニ契約種類ヲ設クルハ事業上便宜少カラザルヲ以テ之ガ增設ニ關シ主務官廳ニ申請シ明治四十四年十月二十日其認可ヲ得タルニ依リ同年十二月一日ヨリ之ヲ實施セリ

千代田生命保險相互會社

普通保險約款ノ變更（抄）

明治四十四年十一月六日申請
同　年十二月二十六日認可

【備考】本變更條項中明治四十四年改正模範約款ト略同樣ノ規定ハ省略セリ

第九條ノ變更　被保險者ノ年齡カ保險契約ノ當時會社ノ保險料表ニ揭ケタル年齡ノ範圍外ナリシトキハ其保險契約ヲ無效トス

前項ノ場合ニ於テ保險契約者及ヒ被保險者カ善意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ會社ハ既收保險料ヨリ其十分ノ一及ヒ其保險金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額ヲ控除シ其殘額ヲ返還ス

萬歲生命保險株式會社

事業方法書、約款ノ變更（第六回明治四四・一二・三一事業報告書ヨリ）

三月二十七日　養老保險普通保險約款（第一類）及（第二類）並ニ教育保險普通保險約款中ヘ保險金及返還金支拂場所ニ關スル件追加ノ義東京府知事ヲ經由シテ農商務大臣ニ申請シ五月十日其認可ヲ得タリ

十二月廿八日　商法改正ニ伴ヒ必要ナル事業方法書及養老保險普通保險約款（第一類）及（第二類）幷ニ教育保險普通保險約款中變更ノ必要ヲ生シタルニ付其訂正及變更ノ認可ヲ東京府知事ヲ經由シテ農商務大臣ニ申請シタリ

明治四十四年　第一生命　千代田生命　萬歲生命

日清生命保險株式會社

〔三・六、大阪毎日〕清人生命保險の募集難　清國には保險業古來より存在せしことは疑を容れざる所なるがソハ運送保險にして長江筋に於て發達したる水上保險業は著明なるものなり、然れども生命保險に至つては何等史上見るべきものなし、由來清國には戸籍法の確然たるものなく、爲に保險契約上不便多く越人と吳人との區別さへ難く被保險者死亡したりといふも果して其本人なるや否やを識別するに種々煩雜なる手段を要するが故に清國における生命保險業は今日に至るも未だ發達せざるなり且清人の衞生思想甚た幼稚にして而かも中流以下にありては利殖のために危險なる所業をも敢てして爲めに生命を賭するを惜まざる有樣なれば保險業者の地位としても到底其危險を冒し得ざる所なりされば從來我國保險業者に在りても火災運送等の比較的確實なるものゝ保險は之を引受け居り且彼等清國人も直接利殖に關係ある自己商品の運送乃至火災の保險は進んで之を附し此種保險は年々發達しつゝあれど、去四十年創立せられたる日清生命保險會社にては清國人の生命保險をも取扱ふの目的を以て一定の條件則ち素性居所等の判明せる者、又は領事の證明ある者の外契約をなさず或は年齡に制限を加へ又は料率を高くする等の消極的手段を採りつゝあるも創立以來四年を經るの今日未た契約微々として見るべきものなきより他會社にありては進んで此危險に手を染むるものなき有樣にて清國人に對する

生命保險が發展の曙光を見るに至るは近き將來にあらざるべしと

横濱生命保險株式會社

約款改正（第五回明治四四・一一・一二・三一事業報告書ヨリ同）

明治四十四年十二月二十五日改正商法實施ノ爲メ普通保險約款改正認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出シタリ

國光生命保險相互會社

〔五・一一、官報〕國光生命保險相互會社登記事項中左ノ如ク變更ス

明治四十四年　日清生命　横濱生命　國光生命

本社移轉

一明治四十四年四月二十九日事務所ヲ左ノ所ニ移轉ス
一事務所　東京市京橋區尾張町新地十八番地
右明治四十四年五月一日登記

神國生命保險株式會社

東京區裁判所

（一・一八、官報）神國生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス
一明治四十四年一月六日本店ヲ左ノ所ニ移轉ス
東京市麹町區内幸町一丁目三番地
右明治四十四年一月十二日登記

東京區裁判所

（一・一八、保險銀行時報）神國生命と其改革　紛擾に紛擾を重ね一時は主務省の檢査を受けたる程の同會社も近來其組織並に幹部連の更迭と共に漸次改善の策を講じ光明の域に進捗しつゝあるは斯界にとり慶賀すべき現象なりと謂ふ可し今其改革内容の一般を聞くに昨年十二月二十九日臨時株主總會を開き取締役社長たりし内

藤魯一氏を初め外三名監査役たりし金原明德氏外一名の辭職を視定欵改正と同時に補缺並に重役增員の選擧に出でたり其結果として取締役飯田延太郎、長松篤棐、飯降政甚の三氏（補缺）平野仁右衞門、杉本卯吉の二氏（增員當選）したり監査役としては森岡京次郎、若王子文健二氏補缺、結城虎五郎、平野長祥、谷口仁太郎の三氏（增員新任）したり而て更に互選の結果取締役兼支配人として杉本卯吉氏常務取締役としては飯田延太郎氏支配人としては宇井孝三氏擧げられたり又同社大株主飯田延太郎、三浦泰輔、長松篤棐、平沼專藏、田口菊太郎、平野仁右衞門、宇井孝三、加治嘉太郎等の諸氏なりと謂ふ、思ふに同社今回の大決斷は從來の紛擾に對する反動として今後幹部連の活動並に内勤外交員等の奮起は斯界の活動場裏に猛進する動機ともなる可きものにして殊に重役連は業務經營に關しては皆愼重なる態度を有し營業費の節約並に業務の發展と謂ふ點より各自募集員の一人として或は九州に或は四國と謂ふが如き活動範圍を一定し部下外交員を指揮督勵して以て大成績を擧ぐる計畫なりと謂ふ又同社支配人宇井孝三氏は高商出身の俊才にして簿記計算等に熟達の士なれば今後の神國生命は從來のものとは著しき相違を生じ保險界に於ける確實なる一大飛躍を試むるに至らん乎

福壽生命保險株式會社

定款中變更事項　明治四十四年二月四日申請
同　年四月一日認可

明治四十四年　國光生命　神國生命　福壽生命

變更事項

定款第七條第七號中「但其金額ハ拂込資本金ノ半額以内トス」ト「但其金額ハ拂込資本金ノ半額以内及責任準備金ノ十分ノ三以内トス」ト變更

變更事項(1091)

明治四十四年三月三日申請
同　四年四月一日認可

變更事項

責任準備金利用方法書第壹項第四號ノ次ニ左ノ二號ヲ追加スルコト

五府縣市町村其他ノ公共團體ニ貸付クルコト

六確實ナル不動產ヲ抵當トシテ貸付クルコト但其金額ハ責任準備金ノ十分ノ三以内トス

本店移轉(1092)

富士生命保險株式會社

〔三・三〇、官報〕富士生命保險株式會社登記事項中變更

一明治四十四年二月二十三日本店ヲ左ノ所ニ移轉ス

一本店　東京市麹町區有樂町一丁目一番地

右明治四十四年三月一日登記

東京區裁判所

太平生命保險株式會社

明治四十四年ノ主要事項　（太平生命本社書類ヨリ）

保險料及ひ責任準備金算出の基礎に關する書類中の變更（明治四四・一・一三申請、同四五・四・二認可）前事業年度の缺損塡補を終るまで各決算期に於ける未經過保險料は各當該事業年度の收入保險料の四分の一とせり

普通保險約款の變更（明治四四・一〇・二〇申請　同四五・七・二九認可）明治四十四年商法の改正を機とし普通保險約款中二、三の條項に修正を加へたり

明治四十四年　福壽生命　富士生命　太平生命

蓬萊生命保險相互會社

鮮人契約(1094)

鮮人ノ契約（第一回明治四三・八・一五事業報告ヨリ　同　四四・六・三〇事業報告ヨリ）

明治四十四年四月十九日朝鮮人ヲ被保險者トナスコトニ關シ事業方法書中ニ追加ノ件ヲ申請シ五月十八日認可セラレタリ

設立ノ趣(1095)

日本徵兵保險株式會社

日本徵兵保險株式會社設立ノ趣意

兵役ニ從事スヘキ者ハ正ニ働キ盛リノ年齡ニ於ケル强健活潑ノ青年ニシテ且ツ中產以下ノ階級ニ屬スル者多數

ヲ占ムルカ故ニ一朝徵サレテ兵トナルヤ家族ノ生計上ニ一頓挫ヲ來スノミナラス入營中ハ官ヨリ支給セラルヽ衣食以外ニ要スル所ノ費用ヲモ負擔セサル可ラス爲ニ父兄ノ困難一層其度ヲ加フルノ常ナリ徵兵保險ハ能ク此等ノ困難ヲ救治シ得ヘキ最モ適當ノ方法ナルカ故ニ我國ト同シク嚴正ナル徵兵制度ヲ採用スル獨逸、墺太利、匈牙利諸國ニ於テハ夙ニ該事業ノ實現ヲ見ルニ至リタリ

我國ニ於ケル徵兵保險事業ハ之ヲ經營スルモノ僅カニ一會社アルノミ而シテ其成績ヲ見ルニ日露戰爭以來加入者激增シテ現在契約貳千萬圓ニ達シタリト雖モ一件ノ平均ヲ見ルトキハ僅カニ壹百參拾餘圓ニシテ獨逸ニ於ケル徵兵保險ノ平均金額壹千參百萬克ニ比スレハ恰モ五分一ニ過キス勿論彼我富力ノ相違ニ伴ヒ生命保險ノ平均金額ノ如キモ亦著シキ懸隔アリト雖モ殊ニ徵兵保險ニ於テ此ノ如ク甚シキ差違ヲ見ルハ畢竟スルニ從來我國ニ於テハ下層社會ニノミ行ハルヽカ故ニシテ若シモ更ニ進ンテ中流以上ノ階級ニ開拓ヲ試ムルトキハ尙綽々トシテ發展ノ餘地アルヘシ況ヤ十五歲以下即チ徵兵保險ニ加入シ得ヘキ男子約八百萬人中被保險者ハ僅カニ拾五萬人ニ過キサルヲヤ茲ニ新ニ一會社ヲ起シテ此種ノ事業ヲ營ムハ前途甚タ有望ナルヲ見ル可シ是レ日本徵兵保險株式會社ヲ發起スル所以ナリ

明治四拾參年

發起人　東京市麹町區中六番町五十四番地　村井貞之助
同　麻布區三河臺町拾四番地　武智直道
同　芝區高輪南町五十三番地　宮崎一
同　芝區三田綱町一番地　北川禮弼
同　芝區金杉新濱町一番地　村上定
同　麹町區永田町二丁目貳拾八番地　倉知誠夫

事業免許申請書

明治四拾四年七月拾八日附ヲ以テ發起認可相成候當會社同年九月貳拾日創立總會結了致候ニ付キ事業開始ノ免許相成度左記ノ書類相添ヘ此段申請候也

一定　欵
二事業方法書
三普通保險約欵
四保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類
五責任準備金利用ノ方法ヲ記載シタル書類
六株主名簿
七株式申込證
八取締役及ヒ監査役ノ調査書及ヒ其附屬書類
九創立總會ノ決議錄

明治四十四年九月二十二日

東京市京橋區南鞘町四番地　日本徵兵保險株式會社
取締役　門野幾之進
同　足立荘
同　岩崎一
同　倉知誠夫
同　麻生義一郎
監査役　武智直道
同　北川禮弼
同　綾井忠彦

定　欵（抄）

第一章　總　則

第一條　當會社ハ日本徵兵保險株式會社ト稱シ本店ヲ東京市ニ置ク

第三條　當會社ノ資本金額ハ五拾萬圓トス

第二章　株　式

第五條　當會社ノ株式ハ壹萬株ニ分チ壹株ノ金額ヲ五拾圓トス

第七條　株金ハ第一回ニ其四分一ヲ拂込マシメ殘額ハ取締役ニ於テ必要ト認メタルトキ二週間前ノ豫告ヲ以テ之ヲ拂込マシム

第三章　役　員

第十五條　當會社ニ左ノ役員ヲ置キ尚取締役中互選ヲ以テ社長及ヒ專務取締役各壹名ヲ置ク

取締役　五名　監査役　三名

第十七條　取締役ノ任期ハ三年、監査役ノ任期ハ一年トス

第四章　株主總會

第二十一條　定時株主總會ハ每年二月之ヲ召集ス

第二十三條　株主ノ議決權ハ壹株ニ付キ壹個トス

第五章　計　算

第二十七條　當會社ハ每年十二月三十一日ヲ以テ決算締切ノ日トス

第二十八條　當會社ノ設立費用ハ貳千圓以內トシ初年度ニ於テ之ヲ

農商務大臣　男爵　牧野伸顯　殿

【備考】明治四十四年十月二十一日附農商務省指令商第六〇九五號ヲ以テ免許、同年同月二十五日營業開始

明治四十四年　日本徵兵保險

ヲ償却ス

第二十九條　當會社ノ利益金ハ左ノ通リ處分ス但其幾分ヲ後年度繰越金ト爲スコトアルヘシ

一法定準備金　利益金ノ百分五乃至百分六
二別途準備金　同　上ノ百分拾乃至百分拾貳
三役員賞與金　同　上ノ百分五以內
四保險契約配當金　同　上ノ百分拾乃至百分貳拾
五株主配當金

明治四拾三年三月一日作成　　發起人【氏名ハ省略】

(1098)　事業方法書（抄）

第一事業ノ範圍及ヒ營業地域　當會社ハ兵役ニ服スルノ義務アルヘキ日本帝國臣民ニシテ保險契約締結ノ當時十五歲迄ノ男子ヲ被保險者ト爲シ帝國領土內（臺灣朝鮮ヲ除ク）ニ於テ徵兵保險ノ業ヲ營ムモノトス

第三保險金額　被保險者一人ニ付キ契約スヘキ保險金額ハ壹百圓以上壹萬圓以下トス

第四保險料拂込方法　一時拂五年拂及ヒ每年拂ノ三種トス但一時拂ノ場合ヲ除キ一年分ノ保險料ヲ每半年拂又ハ每三月拂ト爲スコトヲ得每半年拂ノ保險料ハ一年分ノ保險料ニ其百分四ヲ加ヘテ二分シ每三月拂ノ保險料ハ同上百分七ヲ加ヘテ四分シタルモノトス

(1099)　普通保險約款（抄）

第二條　當會社ハ被保險者カ徵兵適齡ニ達シテ徵兵檢查ヲ受ケタル結果ニ依リ左ノ規定ニ從テ保險金ノ拂渡又ハ保險料ノ拂戻ヲ爲スモノトス

一實役在營期間二年未滿ノ現役入營者　保險金ノ拾分八
二同上二年以上ノ現役入營者　保險金ノ全額
三一年志願兵入營者　既拂保險料全額
四普通現役兵志願入營者　同　上
五六週間現役兵入營者　同　上
六補充兵（教育召集ノ爲メ入營シタル者ヲ含ム）　同　上

七不當錢、不合格其他ノ理由ニ依リ現役ニ徵集セラレサル者　同　上
八一年志願兵不合格者　同　上

徵兵適齡前ニ徵兵檢查ヲ受ケ若クハ徵兵適齡ニ達スルモ徵兵檢查ヲ受ケサル者ニシテ前項各號ノ一ニ該當スル場合ニハ既拂保險料全額ノ拂戻ヲ爲スモノトス

第三條　被保險者補充兵ニ當選シタルトキハ保險契約者ノ希望ニ依リ一年間前條ノ拂戻ヲ猶豫

前項猶豫期間內ニ於テ補欠ノ爲メ現役ニ徵集セラレ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ入營シタル補充兵ニシテ教育期間ヲ過クルモ尙在營シ且ツ現役ニ轉換シタル證明アルトキハ前條ノ規定ニ準シ保險金ヲ拂渡スヘシ

第四條　此約款ニ於テ現役ト稱スルハ抽籤ニ依テ入營スルモノニ限ル但補充兵ヲ含マス

第六條　保險料ヲ每年拂ト爲シタル場合ニ於テ被保險者カ徵兵適齡前ニ志願入營ヲ爲シタルトキハ爾後ノ保險料ヲ徵收セス

第十一條　被保險者カ契約期間中ニ死亡シタルトキハ其死亡ヲ知リタル時ヨリ二十日以內ニ死亡證明書及ヒ被保險者ノ戶籍謄本ヲ差出スヘシ然ルトキハ當會社ハ十日以內ニ既拂保險料ノ全額ヲ拂戻スヘシ

第十八條　被保險者カ兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡潛匿若クハ正當ノ事故ナクシテ徵兵檢查ヲ受ケサルトキハ當會社ハ保險金拂渡ノ責任ナキモノトス

第十九條　保險契約ノ無效失効又ハ解除ノ場合ニ於テハ左ノ金額ヲ拂戻スヘシ

一每年拂ノ保險料三年以上五年未滿ニ　既拂保險料ノ三分一
相當スル保險料ヲ拂込ミタルモノ
二同上ノ保險料五年以上ニ相當スル　同上ノ三分二
保險料ヲ拂込ミタルモノ

第二十條　保險金拂渡ノ責任ナキ場合ニ於テハ既拂保險料ノ三分一ヲ拂戻スヘシ

第二十一條　保險契約失效ノ場合ニ當リ其失效後六十日以內ニ保險契約者カ第十九條ノ拂戻金ヲ受取ラスシテ之ヲ拂濟保險ニ變更センコトヲ請求スルトキハ拂戻スヘキ金額ヲ其當時ノ被保險者年齡ニ相當スル一時拂保險料ニ振替ヘ新ニ拂濟保險證券ヲ交附スヘシ但被保險者ノ年齡カ其當時十五歲五ケ月以內ノ場合ニ限ル

第二十二條　入營率カ豫定以上ニ增加シタルカ爲メ責任準備金ニ不足ヲ生シ特別責任準備金別途準備金及ヒ法定準備金ヲ以テスルモ容易ニ之ヲ塡補シ難キモノト認メタルトキハ主務官廳ノ認可ヲ得テ保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類ヲ變更シ之ニ基キ一定ノ率ヲ以テ各契約ノ保險金額ヲ減少スルコトヲ得但此場合ニハ遲滯ナク保險契約者ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

前項保險金額減少ノ代リニ若シ保險契約者カ會社ノ指定スル保

險料ノ增拂ヲ爲サンコトヲ申出ツルトキハ會社ハ之ヲ承諾スヘシ但前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ申出ツルコトヲ要ス

第二十四條　每事業年度ノ決算ニ於テ生シタル純利益金ノ百分十乃至百分二十ヲ保險契約配當金トシテ積立テ之ヲ保險契約者ニ配當ス

第二十五條　保險契約配當金ハ既拂保險料ニ比例シ（一時拂又ハ五年拂ノ場合ト雖モ每年拂ノ保險料ヲ拂込ミタルモノト看做シテ計算ス）前事業年度末迄ニ每年拂ノ保險料三年分以上ニ相當スル額ヲ拂込ミタル各契約ニ對シ每年定時總會ノ終結後ニ之ヲ配當ス

第二十六條　前條ノ配當金ハ次ニ拂込ムヘキ保險料ト相殺ス但已ニ保險料ノ拂濟後ナルトキハ現金ヲ以テ之ヲ配當ス

第二十七條　拂濟保險ニ變更シタルトキハ之ニ對シテ其變更後ノ利益配當ヲ爲サヽルモノトス

第二十八條　被保險者及ヒ保險金ヲ受取ルヘキ者ハ利益配當ニ與ル權利ナキモノトス

保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎及ヒ方法（抄）(1100)

死亡表ト豫定利率

第一　基礎

一死亡生殘表ハ「フハール」氏英國第三死亡生殘表（男子）ヲ用ユ別表ノ如シ

一豫定利率ハ年四分トス

一現役入營者ノ割合ハ徵兵檢查ヲ受ケタル者ノ十分三ト豫定ス

書類變更ノ認可申請書(1101)

約款事業

當會社ノ普通保險約款並ニ事業方法書ヲ別紙ノ通リ變更仕度候間御認可被成下度理由書相添ヘ此段申請候也

明治四十四年十一月二十一日　　東京市京橋區桶町十八番地　日本徵兵保險株式會社

取締役社長　門野幾之進

農商務大臣　男爵　牧野伸顯　殿

【備考】明治四十五年七月十六日認可、尙事業方法書ノ變更ニ關スル書類ハ省略セリ

普通保險約款ノ變更（抄）(1102)

方法書變更認可申請

約款變更條項

一第二條ヲ左ノ通リ變更ス

當會社ハ被保險者カ徵兵適齡ニ達シテ徵兵檢查ヲ受ケタル結果ニ依リ左ノ規定ニ從ツテ保險金ノ拂渡又ハ保險料ノ拂戾ヲ爲スモノトス

一　實役在營期間二年以上ノ現役入營者　　保險金ノ全額

二　一年志願兵入營者　　保險金ノ拾分九

三　實役在營期間二年未滿ノ現役入營者　　保險金ノ拾分八

四　普通現役兵入營者　　既拂保險料全額

五　六週間現役兵入營者　　同　上

六　補充兵（教育召集ノ爲メ入營シタル者ヲ含ム）　　同　上

七　不當簸不合格其他ノ理由ニ依リ現役ニ徵集セラレサル者　　同　上

八　一年志願兵不合格者　　同　上

一年志願兵ノ入營日カ徵兵適齡前ナルトキハ既拂保險料全額ヲ拂戾シ其以後ナルトキハ契約期間滿了ノ時ヨ

リ入營日迄年四分ノ割合ニ當ル利息ヲ附加シテ入營ノ時之ヲ拂渡スヘク若シ其保險金ヲ受取ラサル內ニ保險契約者カ契約ノ解除ヲ求ムルトキハ既拂保險料全額ヲ拂戻スモノトス

徵兵適齡前ニ徵兵檢查ヲ受ケ若クハ徵兵適齡ニ達スルモ徵兵檢查ヲ受ケサル者ニシテ第一項第二號ヲ除キタル各號ノ一ニ該當スル場合ニハ既拂保險料全額ノ拂戻ヲ爲スモノトス

普通保險約款變更ノ理由書（抄）

當會社ノ現行普通保險約款ノ規定ニ依ルニ一年志願兵ハ入營者モ不合格モ均シク既拂保險料全額ノ拂戻ヲ受クルニ止マルノミ然ルニ中流以上ノ階級ニ在テハ子弟ヲシテ他日一年志願兵タラシメントスルモノ割合ニ多キカ故ニ徵兵保險ヲ一般ニ廣ク擴張セントスルニハ前記約款ノ規定ヲ變更スルノ必要アリ依テ一年志願兵ニ就テ取調ヲ爲シタルニ最近數年間ニ於ケル毎年ノ入營者三千人內外ニ過キス故ニ二年以上ノ普通現役兵入營者ト同シク入營ノ際保險金ノ全額ヲ拂渡スコトニスルモ當會社ノ保險料計算基礎ニ影響ヲ及ホス程ニアラス只其間ニ何等ノ差異ヲ設ケスシテ全然同樣ト爲スハ少シク穩當ヲ欠クノ嫌アルニ付キ別紙ノ如ク此點ニ變更ヲ加ヘ尙之ニ關聯スル箇所ヲ變更セントスル所以ナリ

同胞生命保險株式會社

〔二一・一三、保險銀行時報〕**同胞生命の發起人會**　曩者發起認可を得たる同胞生命は其後株式引受も全部完了し去る六日委員會を開催しほゞ諸般の決議をなしたるが更に去る十一日午後三時より京橋弓町の同事務所に於て發起人會を開催し株金四分の一の拂込を本月三十一日迄に完了すべく決議したり、かくて目下拂込通知の發送中なる由なるか何れ月末迄に順調を以て拂込完了に至るべく然る上は早速創立總會を開いて營業認可の申請をなす筈なり

旭日生命保險株式會社

〔三・二、報知〕**旭日生命發起認可**　男爵千家尊福、伯爵大木遠吉、西達文仲、古賀廉造、安樂兼道、津村重舍、田中經一郎、長谷川壽太郎氏より去る四十二年十月中發起認可の申請をなしたる旭日生命保險株式會社（資本金五十万圓）に對し今回農商務大臣より認可の指令ありたりと

明治四十四年　日本徵兵保險　同胞生命　旭日生命

チヤイナ・ミユチアル生命保險會社

【九・二、官報】商號　ゼ、チヤイナ・ミユチアル・ライフ、インシユアランス、リミツテツト
一本　店　清國上海廣東街十番地
一支　店　横濱市山下町五十番地
一目　的　生命保險事業營業
一設立年月日　西曆千八百九十八年（明治三十一年）七月二十一日
一資本總額　上海紋銀五十万兩
一一株金額　上海紋銀一百兩
一各株式拂込高額　總株數五千株内五百株は全部拂込濟其他四千五百株は未拂込
一公告方法　別段ノ定メナシ
一取締役　五名　内一名清國臣民【省略】
一支店代表者　横濱市山下町五十番地英國臣民　アーチボルド、ミルン、カーリー
一監査役　二名英國臣民【省略】
右西曆千九百十一年（明治四十四年）八月十七日横濱支店設立
右明治四十四年八月二十四日登記

横濱區裁判所

明治四十五・大正元年

明治生命保險株式會社

保險金額ノ制限　（明治生命五十年史ヨリ）
被保險者一人又は保險契約一件に對する保險金額の制限に就き
明治四十五年一月　五百圓——參萬圓

利益分配附終身保險約款

（明治四十五年創設保險ノ約款）

【備考】明治四十四年十月三十日申請、同年十二月二十七日認可、同四十五年一月一日實施（第三十一回報告及明治生命五十年史三八六頁參照）而シテ同五十年史三七七頁ニハ「明治四十四年商法ノ改正ヲ機トシテ新種保險ヲ創設シ同年ニ作成サレタ模範約款ノ條文ヲ採用ス」尙同史三五一頁ニハ「利附保險の需要は益々盛んになつたゝめ、明治四十五年一月死亡保險の全般に亘り、利益分配附保險を創設して普く世人の要求に合致するに至つた、これは明治四十五年創設保險と稱する種類である」

第一條　會社ノ保險契約上ノ責任ハ保險契約人カ會社ノ通知ニヨリ第一回保險料ヲ拂込ミタル時ニ始マル

第二條　保險料ハ保險期間中若シ特ニ保險料拂込期間ヲ定メタルトキハ其期間中第一回保險料拂込ノ時ヨリ起算シ一箇年度分ヲ

明治四十四年　外國會社　明治四十五・大正元年　明治生命

各年度ノ始マテニ拂込ムヘシ但被保人カ死亡シタルトキハ次年度以後ハ之ヲ拂込ムコトヲ要セス一箇年度分ノ保險料ヲ分割シテ拂込ム場合ニハ其分割期間ノ保險料ヲ各期間ノ始マテニ拂込ムヘシ但被保人カ死亡シタル場合ニ於テ其保險年度ノ保險料ニ未拂込分アルトキハ一時ニ之ヲ拂込ムヘシ

第三條　保險料ハ會社ノ本店、支店、又ハ會社ノ指定スル場所ニ於テ拂込ムヘシ

第四條　保險料拂込期日後六十日ヲ猶豫期間トス此期間内ニ保險料ヲ拂込ムトキハ期日後三十日マテハ百分ノ一、三十日ヲ超ユレハ百分ノ二ノ利子ヲ附加スヘシ保險料ヲ拂込マスシテ前項ノ期間ヲ經過シタルトキハ保險契約ハ其効力ヲ失フ

第五條　第一回保險料拂込ノ時ヨリ一年内ニ被保人カ危險ノ著シク增加スル職業ニ轉シ又ハ外國ニ赴クトキハ保險契約人又ハ被保人ハ遲滯ナク之ヲ會社ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ將來ニ向テ保險契約ヲ解除シ又ハ特別保險料ヲ請求スルコトヲ得

保險契約人又ハ被保人カ第一項ノ通知ヲナサス又ハ會社カ特別保險料ヲ請求シタル場合ニ於テ二週間内ニ之ヲ拂込マサルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第六條　第一回保險料拂込ノ時ヨリ三年内ニ被保人カ戰爭其他ノ變亂地ニ赴クトキハ保險契約人又ハ被保人ハ遲滯ナク之ヲ會社ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ特別保險料ヲ請求スルコトヲ得

第七條　保險金ハ被保人カ死亡シタルトキハ之ヲ支拂フヘシ

第八條　被保人カ死亡シタルトキハ保險金受取人ハ遲滯ナク之ヲ會社ノ本店ニ通知シ且被保人ノ死亡後三箇月内ニ左ノ書類ヲ提出シテ保險金ヲ請求スヘシ但正當ノ事由アルトキハ此限ニ在ラス

一醫師ノ診斷書又ハ檢案書

二被保人ノ戸籍謄本

前項第一號書類ニハ會社ノ定メタル事項ヲ記載スヘシ但之ヲ記載スルコト能ハサル正當ノ理由アル場合ハ此限ニ在ラス

會社ハ第一項ノ書類ノ外特ニ必要アリト認メタル書類ヲ請求スルコトヲ得

第九條　保險金ハ前條ノ書類カ會社ノ本店ニ到達シタル後一箇月内ニ之ヲ支拂フヘシ但會社ニ於テ調査ノ爲メ特ニ時日ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第十條　會社ニ於テ保險金ヲ支拂フヘキモノト認メタルトキハ第八條ノ規定ニ拘ハラス之ヲ支拂フヘシ

第十一條　保險契約ニ關シ保險契約人又ハ被保人ニ詐欺ノ行爲アリタルトキハ保險契約ハ無效トシ既ニ拂込ミタル保險料ヲ返還セス

第十二條　保險契約ノ當時保險契約人又ハ被保人カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ會社カ其事實ヲ知リ又ハ過失ニヨリテ之ヲ知ラサリシトキノ外會社ハ契約ノ解除ヲナスコトヲ得但

契約ノ時ヨリ五年又ハ會社カ解除ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一箇月ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス

保險申込ノ後第一回保險料拂込以前ニ被保人ノ身體ニ異常ヲ生シ其他重要ナル事項ニ付異動ヲ生シタルモ之ニ關シ會社ノ承諾ヲ得スシテ第一回保險料ヲ拂込ミタルトキハ此限ニ在ラス

第十三條　左ノ場合ニ於テハ會社ハ保險金ヲ支拂フ責ニ任セス

一被保人カ自殺シタルトキ但第一回保險料拂込ノ時又ハ保險契約復活ノ時ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス

二被保人カ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキ但會社ニ於テ保險金ヲ支拂フヘキモノト認メタルトキハ此限ニ在ラス

三被保人カ決鬪其他ノ犯罪若クハ死刑ノ執行ニ因リ又ハ一年以上ノ禁錮若クハ懲役ニ處セラレ其刑ノ執行中ニ死亡シタルトキ

四保險金受取人カ故意ニテ被保人ヲ死ニ致シタルトキ但其者カ保險金額ノ一部ヲ受取ルヘキ場合ニハ會社ハ其殘額ヲ支拂フヘシ

五保險契約人カ故意ニテ被保人ヲ死ニ致シタルトキ

六被保人カ戰爭其他ノ變亂ニヨリテ死亡シタルトキ但豫メ特別保險料ヲ拂込ミタルトキ又ハ第一回保險料拂込ノ時ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス

第十四條　保險申込書ニ記載シタル被保人ノ年齡ニ錯誤アリタル場合ニハ左ノ方法ニヨリ處分ス

一實際ノ年齡カ保險契約ノ當時會社ノ保險料表ニ揭ケタル年齡ノ範圍外ナリシトキハ保險契約ハ無效トシ既ニ拂込ミタル保險料ヲ保險契約人ニ拂戻スヘシ

二錯誤ノ年齡カ實際ノ年齡ヨリ多カリシトキハ保險料ノ差額ヲ保險契約人ニ拂戻シ且將來ノ保險料ヲ更正スヘシ錯誤カ保險契約消滅ノ事由發生後發見セラレタル場合ニ於テモ保險料ノ差額ヲ保險契約人ニ拂戻スヘシ

三錯誤ノ年齡カ實際ノ年齡ヨリ少カリシトキハ保險料ノ不足額ニ一箇年百分ノ六ノ複利ヲ附加シテ領收シ且將來ノ保險料ヲ更正スヘシ保險金支拂ノ事由發生以前ニ此手續ヲナササリシトキハ保險料不足額ノ割合ヲ以テ保險金額ヲ削減スヘシ

第十五條　第四條第二項ニヨリ保險契約カ效力ヲ失ヒタル後一年内ハ被保人ノ身體ニ異常ナキコトヲ證明スル書類ヲ提出シテ契約ノ復活ヲ請求スルトキハ會社ハ延滯保險料ヲ領收シテ之ヲ承諾スヘシ

第十一條及ヒ第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條　保險契約人ハ何時ニテモ將來ニ向テ保險契約ヲ解除シ保險金受取人ヲ指定若クハ變更シ又ハ第十七條ニ定ムル貸金ヲ受クル權利ヲ有ス

第十七條　保險契約人ノ請求アルトキハ會社ハ保險契約ニ對シ第十八條ニ定ムル拂戻金額ノ十分ノ九ノ範圍内ニ於テ貸金ヲナスヘシ但一口壹百圓ニ滿タサルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ貸金アル場合ニ於テ保險契約消滅ノ事由發生シタルトキハ會社ハ支拂フヘキ金額ノ内ヲ以テ貸金及ヒ利息ノ辨濟ニ充當

シ其殘額ヲ支拂ヘシ

第十八條　保險契約ノ解除失效又ハ會社カ保險金ヲ支拂フ責ニ任セサル場合ニハ責任準備金ヨリ費用ノ賠償トシテ保險金額ノ百分ノ五ヲ超過セサル金額ヲ控除シ其殘額ヲ保險契約人ニ拂戻スヘシ但第十三條第五號ノ場合ハ此限ニ在ラス

拂戻金額ノ例左表ノ如シ

尋常終身保險解約價格表　保險金壹千圓ニ付

經過年數	契約締結ノ時ニ於ケル被保人ノ年齡						
	一五	二〇	二五	三〇	三五	四〇	四五	五〇	五五	六〇
二	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
四	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
五	五一・九	三一・九	八・〇四	三・七一	九一・六	一六・五一	五・四〇	九・〇三	一五・四七	一・九七
一〇	三七・九七	一〇・四〇	一六・七九	一四・八八	二一・九九	二四・一九	一四・九九	一五・四九	一四・五九	一〇・九九
一五	七二・九七	五〇・〇九	六五・〇〇	八三・七九	三五・二四	三三・八四	二四・八四	二五・〇九	二四・七四	二一・九四
二〇	一二一・七九	一五一・二四	一七七・五三	二三九・三七	三七五・〇〇	三七・九一	三三・七三	三四・〇五	三三・七三	三一・七三
二五	二三五・七四	二八五・八四	三二九・二四	三五五・四三	四五二・八八	四五・八二	四二・九八	四四・〇〇	四二・九八	四一・八八
三〇	三七八・九一	四三九・一九	四九八・五三	五六〇・三五	六五〇・三五	六六・〇五	五六・〇五	五七・〇五	五六・〇五	五五・〇五
三五	五三八・八三	五七〇・〇九	六六八・四四	七七一・三四	八九五・五六	九〇・五六	八四・三六	八五・三六	八四・三六	八三・三六
四〇	六五八・四三	七一〇・六八	八二一・三四	九二・三三	一〇二・三三	一〇三・三三	九五・三三	九六・三三	九五・三三	九四・三三
四五	七七三・八〇	八二・三三	九六五・七四	一〇七・七四	一一九・七四	一二〇・七四	一一一・七四	一一二・七四	一一一・七四	一一〇・七四
五〇	八七〇・七七									

第十九條　保險金又ハ拂戻金ハ會社ノ本店又ハ支店ニ於テ保險證券ト引換ニテ之ヲ支拂フヘシ但正當ノ理由アルトキハ保險證券ヲ提出スルコトヲ要セス

第二十條　保險料拂込猶豫期間內ニ被保人カ死亡シタルトキハ延滯保險料及ヒ遲延利子ヲ保險金ヨリ控除シ其殘額ヲ支拂フヘシ

保險料分割拂ノ場合ニ於テ其年度ノ未拂保險料ニ付テ亦同シ

第二十一條　保險契約ニヨル權利ノ讓渡保險金受取人ノ指定又ハ變更ハ被保人ノ同意書ヲ添ヘテ之ヲ會社ニ通知シ保險證券ニ承認ノ裏書ヲ受クルコトヲ要ス

第二十二條　保險證券ノ書換又ハ再交付ハ金參拾錢裏書ハ金拾錢ノ手數料ヲ領收スヘシ

第二十三條　利益分配附保險契約ニ對シテハ契約繼續中第一回保險料拂込ノ時ヨリ起算シ五年毎ニ保險金增額ノ方法ニ依リ利益分配ヲ行フヘシ但保險契約人ノ請求アルトキハ現金ヲ以テ之ヲ

保險契約人ニ支拂フヘシ

第二十四條　會社ハ各營業年度ノ終ニ其年度ニ於テ明治四十五年一月一日以後ノ契約ニ係ル會社ノ各種ノ利益分配附保險契約ヨリ生スル利益ノ十分ノ九ヲ下ラサル金額ヲ利益分配準備金トシテ積立ツヘシ

利益分配期ニ達シタル各保險契約ニ對シ利益分配トシテ行フ保險金增加額ノ元保險金ニ對スル割合ハ前營業年度末ニ於ケル利益分配準備金ト同年度末現在前記各種ノ利益分配附保險契約トヲ對照シテ契約當時ニ於テ會社ノ定ムル方法ニ從ヒ之ヲ定ム

臺灣ニ於ケル生命保險事業免許ノ事（第三十二回明治四五・一・一―大正元・一二・三一報告ヨリ）

大正元年臺灣總督府令第貳拾號ニ依リ大正元年拾月貳拾參日附ヲ以テ生命保險事業免許申請書ヲ臺灣總督ニ提出シ左ノ通リ免許ヲ得タリ但シ命令條件ハ略ス

指令第三三七七號　東京市麹町區八重洲町壹丁目壹番地　明治生命保險株式會社

大正元年十月二十三日附申請生命保險事業經營ノ件免許ス但シ別紙命令條件ヲ遵守スヘシ

臺灣總督　伯爵　佐久間　左馬太

大正元年十一月二十七日

帝國生命保險株式會社

(1109)

無配當普通保險約款（抄）

明治四十五年三月一日實施

【備考】一月二十九日無配當普通保險約款及利益配當附普通保險約款變更ノ件農商務大臣ノ認可ヲ得タリ（第二十七回事業報告ヨリ）尙本約款中明治四十四年改正模範約款ト略同樣ノ規定ハ省略セリ

第四條　保險料拂込期日後二箇月ヲ猶豫期間トス此期間內ハ保險料ニ一日一萬分ノ四ノ利子ヲ附加シテ拂込ムヘシ

保險料ヲ拂込マスシテ前項ノ期間ヲ經過シタルトキハ保險契約ハ其効力ヲ失フ

第五條　前條ノ猶豫期間內ニ保險契約者カ保險料ヲ拂込マサルトキハ會社ハ第二十一條ノ拂戻金アル場合ニ於テ之ヲ貸金ニ振替ヘ延滯保險料及ヒ遲延利子ノ拂込ニ充當スヘシ

但保險契約者カ豫メ反對ノ意志ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ第二十一條ノ拂戻金（第十九條ノ貸金アルトキハ之ヲ控除シタル殘額）カ延滯保險料及遲延利子（本條ノ規定ニ依ル貸金アルトキハ之ヲ合計シタルモノ）ト之ニ對シ次ノ猶豫期間滿了ノ日ニ至ル迄一箇年百分ノ六ノ割合ヲ以テ計算シタル利子トノ合計ニ滿タサルトキハ之ヲ適用セス

第十五條　保險申込書ニ記載シタル被保險者ノ年齡ニ錯誤アリタル場合ニハ左ノ方法ニ依リ處分ス【一、三ハ省略】

(二)錯誤ノ年齡カ實際ノ年齡ヨリ多カリシトキハ保險料ノ差額ヲ保險契約者ニ拂戻シ且將來ノ保險料ヲ更正スヘシ保險金支拂ノ事由發生以前ニ此手續ヲ爲ササリシトキハ保險料過剩額ノ割合ヲ以テ保險金額ヲ增加スヘシ

第二十三條　保險契約者ノ請求アルトキハ會社ハ第二十一條ノ拂戻金アル場合ニ於テ之ニ相當スル保險金額ノ拂濟保險證券ヲ交付スヘシ但新タニ定ムヘキ保險金額ハ壹百圓以上ニシテ五拾圓ヲ單位トス拂濟保險證券保險金額ノ例別表ノ如シ

(1110)

利益配當附普通保險約款（抄）

明治四十五年三月一日實施

【備考】認可月日ハ前資料ノ備考ヲ參照、十月十六日從來營業シタル利益配當附保險ハ大正元年十二月卅一日限リ新契約ヲ締結セサルノ件農商務大臣ニ届出タリ（第二十七回事業報告ヨリ）

第二十三條　保險契約者ノ請求アルトキハ會社ハ第二十一條ノ拂戻金アル場合ニ於テ之ニ相當スル保險金額ノ無配當拂濟保險證券ヲ交付スヘシ但新タニ定ムヘキ保險金額ハ壹百圓以上ニシテ五拾圓ヲ單位トス

拂濟保險證券保險金額ノ例別表ノ如シ

(1111)

【一二・三一、大阪朝日】三社共同利付保險　帝國生命保險會社にては明治、帝國、日本三生命保險會社の經驗材料に依り三社共同して一昨年調製せる所謂三會社生命表を基礎として明年一月一日より最新式の利益配當付保險と引受くることゝなりたるが、同保險に加入する契約者は之を別箇の一團體とし別に收支を計算し、其の利益金の十分の八以上を利益配當準備金として積立て置き契約者に分配するものなりと

明治四十五・大正元年　帝國生命

日本生命保險株式會社

申請書

當會社ヨリ明治四拾四年拾壹月貳拾日附及ヒ明治四拾四年拾貳月參拾日附ヲ以テ申請致候普通保險約款變更ノ儀更ニ左ノ通リ修正ノ上來ル參月拾日ヨリ實施致度候間至急御認可相成度此段申請候也

明治四拾五年貳月貳拾七日　　大阪市東區今橋四丁目七番地　日本生命保險株式會社

取締役社長　片岡直溫

農商務大臣　男爵牧野伸顯殿

【備考】明治四十五年三月二十八日認可、同年四月一日實施（第二十四回事業報告書ヨリ）

尙日本生命本社資料調査課文書ニ依レバ「商法ノ改正ニ伴ヒ模範約款ヲ改正スルコトヽナリタリ、我社ハ明治四十四年十一月二十日改正約款ノ認可ヲ申請、認可ニ先チ、同年十二月三十日第十五條ノ修正ヲ申請、更ニ翌明治四十五年二月二十七日稍大部ノ修正ヲ申請、更ニ同年三月十八日二ケ條ノ修正ヲ申請シタリ、卽チ第十七、十八條ノ兩條ニシテ、之ヲ最後トシテ同年三月二十八日認可、商法改正ニ伴フ普通保險約款ガ完成シタ譯ナリ」

日本生命保險株式會社普通保險約款（抄）

【備考】本約款ハ明治四十五年三月十八日申請ノ修正ヲ經タルモノニシテ各條項中明治四十四年改正模範約款ト略同樣ノ規定ハ省略セリ

第四條　保險料ノ拂込ニ付テハ拂込期日後六拾日ヲ猶豫期間トス但拂込期日後參拾日ヲ超ユルトキハ延滯保險料ニ其百分ノ一ノ利子ヲ付加スルモノトス若シ此ノ期間內ニ被保險者死亡シタルトキハ延滯保險料及ヒ利子ヲ保險金ヨリ控除スベシ保險料ヲ拂込マズシテ前項ノ期間ヲ經過シタルトキハ保險契約ハ其効力ヲ失フ

（改正ノ理由）保險料ノ不拂ニ因ル保險契約失効後復活期間ヲ失効後拾ケ月ニ延長シタルハ被保險者ノ利便ヲ圖リタルモノニテ延滯保險料ノ計算方ハ第四條ノ規定ニ準シタルモノナリ第二項ノ新設ハ保險契約ノ復活ハ被保險者ノ身體ニ異常ナキコトヲ條件トスルモノナルヲ以テ若シ此場合ニ於テ被保險者ガ虛僞ノ陳述ヲナシタルトキハ新契約ノ時ニ於ケルト同樣ニ會社ハ復活後ノ保險契約ヲ解除スルノ權利ヲ留保シ置クノ要アルヲ以テナリ

第拾六條　第壹回保險料拂込後滿三年以上保險契約ヲ繼續シタル後保險料ノ拂込ヲ停止シタルモノニ對シテハ第四條ノ保險料拂込猶豫期間內ニ保險契約者ノ請求アルトキハ會社ハ保險料拂濟保險證券ヲ交付シ又ハ第拾五條ノ償還價格ヲ以テ一時拂定期純保險料ニ充當シ一定ノ期間ヲ限リ保險契約ノ効力ヲ延長スルコトアルベシ

（改正ノ理由）本條ノ新設ハ拂濟保險ノ方法ハ從來既ニ實行セル所ナルモ更ニ延長保險ノ制ヲ加ヘテ一面解約ノ防止ヲ希圖シ一面被保險者ヲシテ可成ク保險ノ惠澤ニ浴セシメントスルノ趣旨ニ出テタルモノナリ

第十七條　保險契約者ハ何時ニテモ將來ニ向ッテ保險契約ヲ解除シ保險金ヲ受取ルベキモノヲ指定又ハ變更シ若クハ會社ノ同意ニ依リ保險種類ヲ變更スルノ權利ヲ有スルモノトス

（改正ノ理由）本條ノ新設ハ改正商法ニ於テ保險契約者ガ別段ノ意思ヲ表示セサル限リ保險金受取人ノ權利ヲ確定ノモノトセ

明治四十五・大正元年　日本生命

ル原則ハ斯業營業ノ實際ニ於テ不便ヲ感スルコト尠カラサルヲ以テ約款ニ豫メ契約者ヲシテ別段ノ意思ヲ表示セシメ置クノ必要ヲ認メタレバナリ

第貳拾壹條　保險契約者被保險者及ヒ保險金ヲ受取ルヘキ者ハ會社ノ利益分配ニ與カル權利ナキモ會社ハ明治貳拾貳年末ヨリ起算シ八年毎ニ損益ノ大決算ヲ行ヒ若シ利益アラハ保險金一口五百圓以上（累加終身保險ハ初年契約高百參拾圓以上）ニシテ滿七年以上契約ヲ繼續セル保險契約者ニ其一部ヲ分配スルコトアルベシ

延長保險（1114）

事業方法書ノ變更　明治四十五年二月二十七日申請　同年三月二十八日認可　（日本生命本社統計課文書ニ依ル）

保險料ノ拂込猶豫期間ヲ經過シタル場合ニ於テ會社カ被保險者ノ健康ニ異狀ナシト認メタルトキハ保險契約者ノ請求ニ依リ其時ノ解約拂戻金ヲ一時拂定期保險ノ保險料ニ充當シ之ニ相當スル期間ノ效力ヲ延長シ又養老保險ノ場合ニ於テ其期間ガ殘餘保險期間ヲ超過スルトキハ定期保險ヲ其期間ニ止メ解約拂戻金ノ殘額ヲ以テ原契約ト滿期日ヲ同クスル生存保險ノ保險料ニ充當セントスル所謂延長保險ニ關スル事項ニ付事業方法書ヲ變更シタルモノナリ

一億圓ヲ超過ス（1115）

【六・一、大阪毎日】日本生命の發達　同社は去二十二年九月の開業にて昨年末の諸準備金一千六百五十余万圓に達し去月末日の決算にて保險契約高は一億圓を超過して斯界空前の記錄を作るに至れるが同社の特色は八年毎に大決算をなし剩余金の一部を保險契約者に配當するにありて三十八年第二回の決算にて三十万圓を配當し之を拂濟保險料に充當し保險金五十万圓を增額してその最高增加額七百五十六圓に及へり而して來四十六年の第三決算には昨年來の剩余金二百五十余万圓に達しあれば從來よりも割合よき配當をなし得るは明かにして株式と相互と兩組織の長所を併有せるは同社の特長とする處なりと

沒落後ノ會社狀態（1116）

大日本生命保險株式會社

【三・一〇、東京日々】失踪せる保險會社

衆議院の保險業法中、改正法律案委員會に於て加瀬禧逸氏の主務官廳の會社監督方針に關する質問中の一節上略　大日本生命保險會社は京橋區木挽町と登記しあれども、實際は神田小川町の見苦き一陋屋に看板を掛け居たるを發見したり、刺を通して代表者石川仁三郎氏に面會を求むれば一書生出で來りて代表者は旅行中なりと云ふ、依つて室内の模樣を檢分したるに財產と見るべきは僅に柳行李二個ありしのみなり、之にて余は同會社の内情を知り得たれば、二三日を經て更に代表者に逢はんとし尋ねたるに、早々移轉して牛込神樂坂邊の下宿屋の二階に看板を揭げ居たるを發見したり、斯の如く轉々その行衞を晦ます會社あり、ために余と卜部君とは同會社について非常に迷惑したる事あり、生命あるものゝ失踪はあれども法人の失踪はこれが始めてなり

【以下省略】

內國生命保險株式會社

〔四・一九、中外商業〕內國生命の整理　主務省より整理受命中なる內國生命保險會社は過般會社の根本的整理に對する第一次の整理案を具し、農商務大臣に認可を申請し目下其筋に於て詮議中なれば近日中何等かの指令あるべく、又最近同社の大株主たる川村寬裕氏の後楯は神戸の鈴木商店なれば同商店一派の申請せし報國生命の創立は其事業免許を得たる曉、內國生命の有する保險契約を新法の規定に依り包括移轉するの下準備なるべしと說くものあり

太陽生命保險株式會社

新種保險ヲ增加（第二十回明治四五・一・一大正元・一二・三一報告ヨリ）

有隣生命保險株式會社

明治四十五年ノ主要事項——新任重役・保險種類追加・約款改正・臺灣營業認可・朝鮮出張所開設

明治四十五年六月十五日　保險新種類ヲ創定シ其事業方法書普通保險約款並保險料及責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類ノ認可申請ヲ爲セリ

明治四十五年　大正元年ノ主要事項——新任重役・保險種類追加・約款改正・臺灣營業認可・朝鮮出張所開設

一一月六日　高倉藤平、磯野良吉、淺野陽吉、小川一重ノ四名取締役ニ並ニ高橋守太郎、藤野正年ノ二名監査役ニ及小川一重支配人ニ就任同時ニ取締役蟹江次郎辭任ノ登記ヲ了シ同月十九日農商務大臣ヘ届出ツ

一二月二十八日　保險種類追加及保險約款改正認可申請書ヲ農商務大臣ヘ提出ス（以上第十八回明治四四・四・一報告書ヨリ）

一六月二十一日　前年度中申請ニ係ル保險種類追加ノ件認可セラル（同四四五・三・三一報告書ヨリ）

一十一月二十二日　生命保險事業經營ノ件ヲ臺灣總督ニ申請シ十二月二十七日付認可セラル

共濟生命保險株式會社

明治四十五・大正元年ノ主要事項（1120）

明治四十五
大正元　年ノ主要事項――定款ノ變更・臺灣ニ於ケル事業免許（第十九回明治四五・大正元・一二・三一營業報告ヨリ）

定款ノ變更　一月十七日株主定時總會ニ於テ當會社定款第二十五條中「監査役ノ任期ハ二年トス但滿期再選スルコトヲ妨ケス」トアルヲ「監査役ノ任期ヲ一年トス但滿期再選ス」ト變更スルコトニ議決シタルヲ以テ二月二日付ヲ以テ農商務大臣ニ定款變更ノ件ヲ申請シ同月十九日付ヲ以テ認可ノ指令アリタリ

事業經營地域ノ擴張　九月七日臺灣總督府令第二十號ヲ以テ改正セランタル臺灣保險業法施行規則ニ基キ十月二日付ヲ以テ、臺灣總督ニ事業免許ヲ申請シ十一月二十七日付ヲ以テ認可ノ指令アリタリ

（以上第十九回明治四五・四・一報告書ヨリ）

保險金額制限ヲ訂正認可申請（1121）

日本共立生命保險合資會社

申請書

四月二十日付ヲ以テ事業方法書中保險金額變更認可申請書提出仕候處更ニ別紙ノ通變更仕度何卒御認可被成下度此段申請仕候

明治四十五年五月二日

京都市上京區二條通新町東入大恩寺町六番戶
商法施行前設立　日本共立生命保險合資會社
業務擔當社員　下村忠三郎

農商務大臣　男爵牧野伸顯殿

【備考】明治四十五年五月十一日認可

訂正事項（1122）

變更事項

一事業方法書第四、保險金額ノ項

【四月二十日附申請ニハ「被保險者一人ノ保險金額ハ貳百圓乃至五千圓ノ範圍トス」トアリ】

明治四十五・大正元年　有隣生命　共濟生命　日本共立生命

定款中變更認可申請（1123）

被保險者一人ノ保險金額ハ最低額ヲ參百圓トシ最高額ヲ壹萬圓トシ保險金額ノ單位ヲ壹百圓トス但解約返還金ヲ以テ一時拂保險料ニ振替ヘ拂濟證券ヲ交附スル場合ハ保險金額ノ單位ヲ壹圓トシ保險金額ノ是低額ハ前記ノ限度ニ不拘ザルモノトスト改ム

定款變更之件申請

弊社定款第二拾三條、第三拾九條及第四拾貳條中別紙ノ通リ變更致度候間御認可相成度此段及申請候也

明治四拾五年六月廿一日

京都市上京區二條通新町東大入大恩寺町六番戸
商法施行前設立
日本共立生命保險合資會社
業務擔當社員　藤井善助

農商務大臣　男爵牧野伸顯殿

變更條項（決算、社員變更等）（1124）

變更條項

第二十三條　社長專務取締役ノ職業上ノ權利義務ハ取締役會ニ於テ之ヲ定ム

第三拾九條　當會社ノ決算ハ前年度ヨリ繰越シタル利益金責任準備金支拂備金諸收入金諸益金ヲ合計シタル內ヨリ支拂保險金解約返戻金其他ノ返戻金營業費諸損金前期繰越損失特別配當基金支拂諸利息次年度繰越責任準備金支拂備金ヲ引去リタルモノヲ益金トシ其拾分ノ一以上ヲ法定準備金トシ貳拾分ノ一以上ヲ別段積立金トシ尙保險契約ニヨル利益配當準備金及滿期配當基金ヲ積立タル殘額ヲ以テ出資社員ノ配當金トス但計算ノ都合ニ依リ全部又ハ一部ヲ次期ヘ繰越スコトヲ得

第四拾二條ヲ出資讓渡讓受及社員入退社ニ依リ左ノ如ク改ム

第四拾二條　出資社員氏名住所及其持分責任左ノ如シ【住所省略】

一金五千圓	有限	京都市	初田甚吉	
一金壹萬五千圓	有限	東京市	前川太兵衞	
一金壹萬五千圓	有限	京都市	藤井善助	
一金貳千圓	有限	京都府	相原信太郎	
一金五千圓	有限	京都市	森田長次郎	
一金五千圓	有限	京都市	田中安七	
一金五千圓	有限	大阪市	西尾宗七	
一金貳千圓	有限	滋賀縣	土田藤助	
一金壹萬五千圓	有限	東京市	西村與兵衞	
一金四萬參千圓	有限	滋賀縣	外村宇兵衞	
一金壹萬參千圓	有限	京都市	松村甚右衞門	
一金壹萬圓	有限	神戸市	小寺謙吉	
一金參萬圓	有限	京郡市	下村忠三郎	
一金壹萬五千圓	有限	大阪市	瀨尾喜次郎	
一金五千圓	有限	大阪市	山口仁兵衞	
一金五千圓	有限	滋賀縣	小梶九郎兵衞	
一金五千圓	有限	滋賀縣	村田孫左衞門	
一金五千圓	有限	東京市	野本傳七	

變更理由

定款變更理由書

一定款第二十三條中「權義」トアルヲ「權利義務」ト改メタルハ字義ヲ明確ニナラシメ且ツ他ノ條項ノ用字例ト一致セシメタルナリ

一定款第三拾九條ヲ更メタルハ列記ノ順序妥當ナラサルモノアルニヨリ之ヲ更メタルト「保險契約ニヨリ積立テタル配當準備金利息」ヲ「支拂諸利息」ニ包括シ特別配當基金滿期配當基金（目下御認可申請中ノ特別利益配當附保險ガ御認可ヲ受ケタル後ヲ豫想シ）等ノ科目ヲ加ヘ條文ヲ明確ナラシメタルナリ

一定款第四拾貳條ノ變更ハ出資ノ讓渡及讓受及社員ノ入退社ニヨリ變更ヲ要スル爲メナリ

組織及資本金變更認可申請ニ付伺(1125)

御　届

今般弊社ノ組織及資本金ヲ變更致度其御認可申請ニ對シテ左記ノ内何レノ方法ニ就キ申請可仕哉御指示ヲ仰度此段御伺申上候也

一資本金貳拾萬圓ノ合資會社ヲ變更シテ資本金壹百萬圓ノ株式會社トナスコトヲ總會ニ於テ決議シ申請ノ手續ヲナシテ差支ナキ哉

二資本金貳拾萬圓ノ合資會社ニ於テ資本金壹百萬圓ニ增資スルコトヽナシ其定款變更ノ申請ト共ニ合資會社ヲ株式組織ニ變更ノ決議ヲナシ申請ノ手續ヲナシテ差支ナキ哉

三現資本金貳拾萬圓ノ合資會社ヲ株式會社ニ變更ノ決議ヲナシ同時ニ株式會社ノ資本金ヲ壹百萬圓ニ增資ノ決議ヲナシ申請ノ手續ヲナシテ差支ナキ哉

追テ株式會社ノ取締役及監査役ハ右組織變更決議ト同時ニ總會ニ於テ選擧差支ナキヤ又ハ組織變更ノ認可ヲ受ケタル上總會ヲ開キ選擧スベキヤ併テ御指示被成下度候

大正元年拾月廿九日

日本共立生命保險合資會社
業務擔當社員　藤井善助

農商務大臣　男爵　牧野伸顯　殿

新經營者(1126)

整理並ニ增資ニ付督促(1127)

博愛生命保險株式會社

〔四・五、大阪朝日〕博愛生命保險の新發展　守山又三氏に據りて經營せられつゝありし同社は、今回其の持株を田附政次郎、北川與平、阿部房次郎、藤井善助氏に讓りたれは今後は田附氏等江州派に依りて經營せらるゝ事となり其新發展方法に就ては社長小原元美氏東上畫策中なりと

農商務省商務局長ヨリ京都府知事ヘ照會　明治四十五年五月二十日

商第三〇〇三號　貴管下博愛生命保險株式會社ニ對シテハ去ル四十二年七月ヲ以テ未拂込株金ノ拂込其他財産ノ整理ニ關シ命令相成居候次第モ有之候處爾來數回ノ檢査執行ノ結果ニヨレハ命令各項中未タ遂行セラレサルモノ多々有之然ルニ該會社ハ命令後役員ノ更迭及ヒ前社長守山又三ニ係ル預金及ヒ有價証券ノ流通事件等豫期以外ノ事件ヲ惹起シ爲ニ整理進行ヲ遲滯セシメタル事情モ可有之候得共該事件モ既ニ一段落ヲ告ケタル今日ニ於テハ急速命令各項特ニ株金ノ拂込、欠損金塡補ノ方法確立等ニ付遂行ヲ期スルノ必要アルニ拘ハラス今以テ何等申出無之右ハ不都合ノ次第ニ付命令各項ニ對スル經過並ニ其完成ニ付キ見込ヲ立テ急速答申候樣嚴重ニ御示達相成度尙該會社ハ去ル四十二年中資本增加ヲ企テ定款變更ノ義認可相成居候次第モ有之候處增資問題モ殆ント放任ノ姿ヲ以テ今日ニ及ヒ居是亦不都合ノ義ト被認候條實行ノ見込相立難キニ於テハ速カニ定款變更ノ手續ヲ履ムヘキ旨併テ御示達相度

明治四十五・大正元年　日本共立生命　博愛生命

右照會ス

新出資者ト役員ノ更迭 (1128)

〔一一・一、京都日出〕博愛生命保險株式會社は曩に四十万圓の增資を決議し、同引受者に就ては古川家の主宰者中島久滿吉男に交渉中の處、新株全部は中島男の手許にて引受け、今後の重役選任其他營業方針に就ても一切同男の指揮を待つことに協商纏り既に新株の拂込を終了せしかは三十日午後三時より二條東洞院東入る同社内に臨時株主總會を開き重役改選を行ひ舊重役小原元美、田附政次郎、安部房次郎、北川與兵衞、內田益三の五氏辭任し代るに中島男の推薦に係る紀俊秀、小原元美、岩倉具明の三氏を取締役に尙監査役として北川與兵衞氏を臨席の鍋島男爵より指名して就任せしむることゝなり、且つ新任重役に取締役二名、監査役一名物色選任補充することを囑托し、舊重役一同は同社の相談役となりて業務發展を期することゝし散會したり因に社長は紀俊秀氏就任したり

約款、基礎書類變更認可申請 (1129)

普通保險約款幷ニ事業方法書等ノ變更認可申請書

當會社從來ノ普通保險約款幷ニ事業方法書、保險料算出ノ基礎及方法、責任準備金算出ノ基礎及方法別紙ノ通リ變更仕度候間特ニ至急御認可相願度此段申請仕候也

大正元年拾壹月拾四日

京都市上京區二條通東洞院東入松屋町第參拾參番戶　博愛生命保險株式會社

取締役社長　男爵　紀　俊　秀

農商務大臣　男爵　牧　野　伸　顯　殿

理由書

改正商法實施ニ伴ヒ普通保險約款ノ變更ヲ要シ且現行ノ保險約款、事業方法書、保險料算出ノ基礎及方法幷ニ責任準備金算出ノ基礎及方法ニ變更ヲ要スル所以ニ有之候

【備考】約款、基礎書類ハ省略セリ

定款變更（本店移轉其他）認可申請 (1130)

定款變更認可申請書

當會社現行定款ハ改正ヲ要スル點尠カラズ候ニ付今回別紙ノ通リ變更致度候間至急御認可被成下度理由書幷ニ株主總會決議錄謄本相添へ此段申請候也

大正元年十一月二十日

京都市上京區二條通東洞院東入松屋町第參拾參番戶　博愛生命保險株式會社

取締役社長　男爵　紀　俊　秀

農商務大臣　男爵　牧　野　伸　顯　殿

理由書

一本店ノ移轉及支店ノ設置　會社ノ信用ヲ厚カラシメ募集上及資金運用ノ關係上本店ヲ東京市ニ移スノ必要ヲ認メ又關西方面ニ於ケル募集事務ノ統一ヲ計リ其監督指導ノ機關トシテ大阪市ニ支店ヲ設置スルノ必要ヲ認メ申候次第ニ有之候

一營業範圍ノ擴張　社業ノ發展上汎ク日本帝國臣民ニ對シ保險契約ヲ爲スノ要ヲ認メ滿洲帝國租借地ニ於ケル帝國臣民及朝鮮國幷ニ朝鮮國民ヲモ營業ノ範圍ニ加ヘタル義ニ有之候

以上ハ定款變更中ノ重ナル條項ニ有之其ノ他ハ商法ノ改正ニ伴ヒ當然之ガ變更ヲ要スルモノ及不用條項ノ削除若クハ事務取扱上ノ便利ヲ期スルモノニシテ有之候

【備考】變更定款ハ省略セリ

明治四十五・大正元年　博愛生命

監査役選任登記濟報告(1131)

大阪生命保險株式會社

報告書

當會社監査役本月拾壹日任期滿了ニ付本月拾四日臨時株主總會ニ於テ左記ノ通當選就任本月拾七日登記濟ニ有之候間別紙登記抄本相添ヘ此段報告候也

大阪市東區高麗橋壹丁目八番地　木水奥兵衛

大阪市北區曾根崎上壹丁目參拾五番地　藤井恒太郎

東京市京橋區三十間堀三丁目三番地　穗積猛

明治四拾五年壹月貳拾日　大阪市東區瓦町壹丁目拾六番屋敷　大阪生命保險株式會社

清算人　横山鑛太郎

農商務大臣　男爵牧野伸顯殿

約款、事業方法書其他變更認可申請(1132)

眞宗信徒生命保險株式會社

通常生命普通保險約款並ニ通常生命事業方法書其他ノ變更認可申請書

當會社通常生命普通保險約款ヲ變更シ通常生命事業方法書竝ニ責任準備金ノ算出ノ基礎及方法等ノ中別紙ノ事項ヲ變更シ且通常生命保險規則ヲ廢止仕度理由書相添此段認可申請仕候也

京都市下京區下寺町通五條南入本鹽竈町五百五十七番戸　眞宗信徒生命保險株式會社

取締役社長　木村省吾

明治四十五年三月十二日

農商務大臣　男爵牧野伸顯殿

【備考】明治四十五年六月二十六日附農商務省指令商第一七三〇號ヲ以テ認可

變更理由

理由書

一商法改正ノ結果竝ニ當會社營業上保險約款及ビ事業方法書等ヲ變更スルノ必要ヲ認メタルタメ

一新契約費未償却高計算方式ヲ計算上簡易ナル方式ニ改ムルタメ

一事業方法書ヲ變更シテ保險規則ヲ廢止スルヲ取扱上便利ト認メタルタメ

明治四十五・大正元年　大阪生命　眞宗信徒生命

本社移轉(1133)

本社移轉（第十八回明治四四・一〇・一事業報告幷諸計算書ヨリ）

明治四十五年四月一日本社營業所ヲ京都市下京區油小路御前通下ル玉本町百九十七番地ニ移轉ス

業法第十一條ニ依ル命令ヲ通牒(1134)

農商務省商工局長ヨリ京都府知事ヘ通牒　大正元年八月三十日

商第六八二號　貴管下眞宗信徒生命保險株式會社ニ對シテハ今回局員派遣檢査執行次第モ有之候處會社ノ現況ニ照シ財産保全上一定ノ手段ヲ採ラシメ且財産ノ處分ニ制限ヲ加フルノ必要アルモノト被認不取敢別紙ノ通命令相成候ニ付テハ御一覽ノ上會社ヘ交付受書ヲ徵シ御回送相成度尚命令第八號ニ於ケル有價證券ノ寄託並ニ金錢ノ預ケ入レヲ爲スヘキ銀行ニ關シテハ速ニ認可ヲ受クルコトヲ要シ候條至急申請書提出候樣御示達相成度又起業銀行關係ニ付テハ命令第一項ニ示セル如ク遲滯ナタ之ガ回收ヲ困難トスル樣ノ義有之候得共同銀行ノ現狀ニ於テ急速回收ヲ爲スヘキハ勿論ノ義ニ有之候ハバ此際該預金ニ對シテ擔保ノ契約アル不動産ニ對シ權利保全ニ必要ナル手段ヲ履行スヘキ旨御示達相成度此段及通牒候也

役員更迭(1135)

〔八・三一、京都日出〕**眞宗信徒重役選擧**　京都眞宗信徒生命保險株式會社は從來、京都起業銀行と密接の關係を有し、同銀行の振出し手形に裏書せし金額も少なからざりし由にて、曩に起業の破綻を暴露するや重役一同辭任し眞宗信徒の取締役なりし木村省吾、上原芳太郎兩氏代りて就職して整理の任に當りしも諸事意の如くならずして內部益々紛糾を重ぬるに至りしが之より先き眞宗信徒の大株主なる大谷尊由師は木村、上原兩氏が眞宗信徒の重役として尙ほ起業の重役を兼ぬるを快からずとし、暗に眞宗信徒の重役を辭任すべき旨勸告せしに由にて木村、上原兩氏並に兩氏と行動を共にし來りたる村岡角太郎氏も辭表を提出し、八日三十日を以て斷然

其職を去ることゝなりしに付、三十日午前十時より同社內に臨時株主總會を開きて補缺選擧を行ひしが出席株主二十八名（委任狀共）此の權利個數八千七百七十三株にして開會に先だち監査役大塚彥太郎氏議長席に着かんとせしに株主三田某、前取締役の出席を迫りて議長席に着かしむべしと主張せしも、他の株主の容るる處とならず多數決にて大塚監査役を議長に推薦し議事に入りしが木村、上原、村岡三取締役補缺選擧は記名投票と開票の結果、大多數を以て堀貞、伊藤忠三、龜岡德太郎の三氏當撰し次に木村、上原、村岡三氏辭任に付在職中の慰勞金として金四万圓以內の贈與の件は株主三幣保氏近々定時株主總會開會せらるれば今日は其時機にあらざるを以て撤回すべしとの動議を提出し一同之に贊同散會せり

日本教育生命保險株式會社

〔三・二二、官報〕日本教育生命保險株式會社
本店ヲ大阪市東區高麗橋三丁目二十番地ノ一、二十一番合併地ニ移轉
右明治四十五年二月二十日登記

【備考】第十七回事業報告ヨリ「本社新營業所ハ去ル明治四十三年七月ヨリ起工シ明治四十五年二月竣工セシヲ以テ同年二月二十日新築營業所ニ移轉セリ」

明治四十五・大正元年　眞宗信徒生命　日本教育生命

新任社長(1137)

新任社長（第十七回明治四五・一・一事業報告ヨリ　大正元・一二・三一事業報告ヨリ）

明治四十五年一月三十日社長ニ柳原取締役、常務取締役ニ瀧山取締役就任セリ

愛國生命保險株式會社

新築落成移轉(1138)

〔一二・一三、報知〕愛國生命新築落成　日比谷原頭に設立中なりし宏壯なる愛國生命保險株式會社の新建築は既に竣成したるを以て來る十四日を以て移轉する由なるが、本年は恰も諒闇中なれば明年中時期を見て盛大なる移轉式を擧行すべしと

二千萬圓(1139)

東洋生命保險株式會社

〔一一・二三、時事新報〕東洋生命祝賀會　一昨年組織改善後昨秋一千萬圓の契約高を得て祝賀會を催せる東洋生命保險會社は今度二千万圓の契約高に達するの盛況を見るに至れるなり、二十二日午後四時朝野知名の士二百餘名を築地精養軒に招待して再ひ祝賀會を開き社長尾高次郎氏來賓に對する謝辭並に將來に對する抱負を陳へ來賓の健康を祝して乾盃をなし、次に澁澤男爵及び岡工務局長の演說あり、十時頃歡を盡して散會したり當日の來賓の主なる諸氏は澁澤男爵、阪谷市長、大久保商務局長、岡工務局長、美濃部拓殖頭取、松尾勸銀監査役等なりき

達成祝賀

大同生命保險株式會社

役員任期變更(1140)

定款中變更　大正元年九月四日申請　同　十八日認可

第二十七條中監査役ノ任期ハ「壹年トス」トアルヲ「貳年トス」ト改メ左ノ但書ヲ加フ

但任期中ノ最終ノ配當期ニ關スル定時總會ノ終了シタル日ヲ以テ其任期ヲ終ルモノトス

其他ノ事項(1141)

其他ノ事項——契約者配當・創立十周年記念（第十一回明治四五・七・一事業報告書ヨリ　大正二・六・三〇事業報告書ヨリ）

利益ノ分配　當會社ノ保險契約ハ所謂利益配當付ニアラサルモ各年度ニ於ケル利益計算ノ狀態ニヨリ純益ノ一部ヲ積立テ五ケ年以上繼續シタル契約ニ限リ保險金拂渡ノ際保險金ニ加ヘテ之ヲ配當スル事アルヘシトノ保險

約款ノ旨趣ニ基キ大正元年八月十五日定時株主總會ニ於テ創業十周年ノ決算ヲ機トシ先ツ以テ明治四十五年七月一日ヨリ同年度内ニ於テ保險期間ノ滿了スル契約ニ對シ當該年度利益金中ヨリ別段準備金ヲ積立テ其一部ヲ割キ利益ノ配當ヲナス事又其配當ノ標準及金額ハ之ヲ取締役會ニ一任スル事並ニ此ノ利益配當ハ當會社ノ締結シタル契約ト保險約款其他ヲ同シクスル舊朝日生命保險株式會社ノ締結シタルモノニモ之ヲ均霑セシムル事ニ議決シ爾來當會社ハ滿期保險金支拂ノ際各其ノ壹割ニ相當スル金額ヲ配當シツヽアリ

創業十周年記念會　大正二年一月十日本社ニ於テ創業十周年並ニ五千萬圓到達記念會ヲ開催ス時偶々諒闇中ニ屬セシヲ以テ設備頗ル質素ヲ極メ唯成績優秀若クハ創業以來勤續シタル社員並ニ代理店ニ對シ其功勞ヲ犒ヒ且嚮後ノ精勵ヲ勸奬スルノ趣意ヲ以テ相當金品ヲ贈與シタリ

第一生命保險相互會社

【九・二四、時事新報】第一生命基金償却　第一生命保險相互會社當年度の營業成績は頗る良好にして十四万餘圓の剩餘金を生じ社員及び基金出資者に十分の配當を爲し猶ほ多大の剩餘を生ずるを以て基金二万圓を償却し其代りとして同じく二万圓の基金積立を爲す由なるが同社にては定款に基き漸次基金を償却し之に代るに積立金を以てすることゝし今度基金殘額十六万圓を償却し盡すに於ては剩餘金の全部は社員即ち被保險人に配當せらるゝことゝなるべしと

千代田生命保險相互會社

明治四十五大正元年ノ主要事項――第二回基金償却・契約者配當・臺灣ニテ事業免許（第九回明治四五・一・一告知ヨリ　大正元・一二・三一事業報）

第八回定時評議委員會　明治四十五年二月二十七日東京市京橋區南鍋町二丁目十二番地交詢社ニ於テ第八回定時評議委員會ヲ開ク【下略】

四第一回基金償却後更ニ基金償却準備金參萬六千圓以上ニ達シタルニ付キ第二回分基金參百六拾口償却ノ件ヲ決議ス

五明治四十三年度ノ乙種滿期保險契約ニ對シ年額保險料ノ百分ノ四ヲ配當スルコトヲ決議ス

事業免許ノ申請　大正元年十一月七日臺灣總督府ニ對シ臺灣ニ於ケル事業ノ免許ヲ申請セリ

萬歲生命保險株式會社

明治四十五年ノ主要事項——定款中變更・約款其他變更・臺灣ニ營業免許(第七回明治四五・一・一・大正元・一二・三一事業報告書ヨリ)

○株主總會ノ事

二月二十四日午後一時當會社本店ニ於テ第六回定時株主總會ヲ開キ左ノ各件ヲ決議シタリ

二定款第二十一條ヲ左ノ通改正

取締役ノ任期ハ三年監査役ノ任期ハ二年トス

但任期中ノ最終ノ配當期ニ關スル定時總會ノ終結ニ至ル迄其任期ヲ伸長スルモノトス

右終テ取締役會ヲ開キ社長、專務取締役ノ互選ヲ行ヒタル處藤村義苗社長、專務取締役ニ當選就任シタリ

十二月三日午後一時本店ニ於テ臨時株主總會ヲ開キ定款第四條ヲ左ノ通改正ノ決議ヲ爲シタリ

一當會社營業ノ範圍ハ日本國ノ內國ヲ問ハス一般公衆ニ對シ生命保險契約ヲ締結スルニ在リ

○庶務ノ事

四月十二日　定款第二十一條改正ヲ東京府知事ヲ經由シ農商務大臣ニ申請シ同月二十五日其認可ヲ得タリ

五月十六日　商法ノ改正ニ伴ヒ明治四十四年十二月二十八日農商務大臣ニ申請シタル事業方法書及養老保險普

通保險約款第一類、第二類並ニ教育保險普通保險約款中變更追加訂正ノ件ハ尙變更追加訂正ヲ加ヘ本年五月十五日更ニ東京府知事ヲ經由シテ申請ヲ爲シ本年八月三十一日其認可ヲ得タリ

七月二十六日　事業方法書中變更追加及養老保險普通保險約款(第二類乙)ノ認許ヲ東京府知事ヲ經由シ農商務大臣ニ申請シタリ

十一月四日　本年九月發臺灣總督府令第二十號ニ基キ同地ニ於テ當會社保險營業ノ儀免許申請ヲ爲シタリ

十二月三日　定款第四條改正認許ヲ東京府知事ヲ經由シテ農商務大臣ニ申請シ同月十八日認可ヲ得タリ

日淸生命保險株式會社

〔三・一六、報知〕日淸生命の發展　同保險會社は明治四十年の創設にして今日五ヶ年を經過し被保險者二万餘人契約高一千五百万圓餘となりしが今回重役任期滿了に際し社長前島男爵には高齡に達したるを以て辭退中野東京商業會議所會頭新に社長となりたる由

明治四十五・大正元年　萬歲生命　日淸生命

配當附養老保險約款變更（抄）

【備考】明治四十五年四月二十三日及ヒ大正元年八月一日變更認可申請、同年九月二十六日追加申請、同年十月八日農商務省指令商第二六六一號ヲ以テ認可、尙特種養老保險約款變更ハ省略ス

第三條　第二條ノ猶豫期間ノ終リニ於テ猶保險料ヲ拂込マサルモノニシテ第十六條ノ拂戻金アル場合ニハ當會社ハ請求ヲ俟タス保險契約者ニ貸付ヲ爲シ延滯保險料及ヒ延滯利子ノ拂込ニ充當ス但其貸付金ハ拂戻金（他ニ貸付金アルトキハ之ヲ控除シタル殘額）カ一ケ年分若シクハ半ケ年分保險料及ヒ延滯利子（本條ノ規定ニ依ル貸付金アルトキハ之ヲ合計シタルモノ）幷ニ貸付金ニ對スル次ノ猶豫期間ノ終リ迄一ケ年百分ノ六ノ利子ニ足ル場合ニ限ルモノトス

前項ノ貸付金ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク之ヲ保險契約者ニ通知スルモノトス

（1146）　約款變更

（1147）　移轉登記

【九・一九、官報】日清生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一大正元年九月一日本店ヲ左ノ所ニ移轉セリ

一本店　東京市麹町區有樂町一丁目一番地

右大正元年九月十二日登記

東京區裁判所

第三類普通保險約款

（大正元年八月二十六日制定
大正二年一月一日實施）

【備考】本約款中明治四十四年改正模範約款ト略同樣ノ規定ハ省略ス、尙第六回報告ヨリ「改正商法ノ實施ニ伴ヒ普通保險約款ノ改正ヲ必要トシ大正元年八月廿六日評議員會ノ決議ヲ經テ同月三十日普通保險約款變更認可申請書ヲ主務省ニ提出シ十二月十日認可ノ指令ヲ受ク」

第四條　保險料ノ拂込ニ付テハ拂込期日後六十日ヲ猶豫期間トス此期間内ハ保險料百圓ニ付一日金四錢ノ延滯利子ヲ附加シテ拂込ムヘシ

前項ノ期間内ニ保險料及ヒ其利子ヲ拂込マサルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第五條　保險契約者カ前條第一項ノ猶豫期間ヲ經過シテ保險料ノ拂込ヲ爲サヽル場合ト雖トモ第二十二條ニ定メタル返還金カ其拂込ムヘキ保險料及ヒ其利子ヲ支辨スルニ足ルトキハ會社ハ之ヲ貸付金ニ振替保險料及ヒ其利子ノ拂込ニ充當ス

前條ニ定メタル貸付金ヲ以テ保險料ノ拂込ニ充當シタル後次回ノ拂込期日ニ至リ尙ホ其保險料ノ拂込ナキトキハ其年度ノ返還金ニ相當スル金額ヨリ貸付金ト其利子トヲ控除シタル殘額カ三箇月拂ノ保險料ニ不足ヲ生スルマテ同一ノ方法ニ依リ保險契約ノ效力ヲ持續スルモノトス但最後ニ貸付金ヲ以テ保險料ニ振替タル場合ヲ除キ前條第一項ノ猶豫期間ヲ適用セス

前項ノ貸付金ニ對シテハ年七分ヲ超サル利子ヲ附加シ該利子ハ一箇年毎ニ貸付元金ニ組入ルヽモノトス

第一項及ヒ第二項ノ規定ニ依リ貸付金ヲ以テ保險料及ヒ其利子ノ拂込ニ充當シタルトキハ會社ハ遲滯ナク之ヲ保險契約者ニ通知スヘシ

第六條　被保險者カ從軍スルカ又ハ戰爭其他ノ變亂ノ地ニ赴クトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ遲滯ナク其旨ヲ會社ニ通知スル

國光生命保險相互會社

モノトス此場合ニ於テハ會社ハ其事由ノ繼續スル期間ニ對スル特別保險料トシテ普通保險料ノ外ニ保險金額ノ百分ノ二乃至十五ニ相當スル金額ヲ請求スルコトヲ得

保險契約者又ハ被保險者カ前項ノ通知ヲ爲サス又ハ會社カ特別保險料ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ二週間内ニ之ヲ拂込マサルトキハ保險契約ハ其効力ヲ失フ

第十二條　被保險者カ外國ニ赴キ又ハ職業ヲ變更シ若シクハ危險ナル行爲ヲ爲サントスルトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ遲滯ナク其旨ヲ會社ニ通知スルモノトス此場合ニ於テ其危險カ著シク增加スト認メタルトキハ會社ハ將來ニ向テ保險契約ヲ解除シ又ハ其事由ノ繼續スル間特別保險料トシテ普通保險料ノ外ニ每年其十分ノ三以内ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

保險契約者又ハ被保險者カ前項ノ通知ヲ爲サス又ハ會社カ特別保險料ヲ請求シタル場合ニ於テ二週間内ニ之ヲ拂込マサルトキハ保險契約ハ其効力ヲ失フ

第十五條　保險申込書ニ記載シタル被保險者ノ年齡ニ錯誤アリタル場合ニ於テハ左ノ方法ニ依リ處分スルモノトス【三ハ省略】

一實際ノ年齡カ保險契約ノ當時會社ノ保險料表ニ揭ケタル年齡ノ範圍外ナリシトキハ保險契約ハ無效トス但既ニ拂込ミタル保險料ヨリ其十分ノ一ト保險金額ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額ヲ保險契約者ニ返還スヘシ

二實際ノ年齡カ錯誤ノ年齡ヨリ少カリシトキハ更ニ被保險者ノ身體ヲ診査シテ年齡相當ト認メタルトキニ限リ將來ニ向テ保險料ヲ減少シ既ニ拂込ミタル保險料ノ差額ノ十分ノ九ヲ返還スヘシ但保險契約消滅ノ事由發生後ニ發見シタルトキハ其差額ノ十分ノ八ヲ返還ス

第二十條　保險契約者ハ保險期間ノ五分ノ一以上保險料ノ拂込ヲ爲シ保險契約ノ繼續シタルトキハ會社ノ承諾ヲ得テ保險金額ヲ變更シ將來ノ保險料ノ拂込ヲ免ルヽコトヲ得

第二十二條　保險契約ノ解除、失効又ハ會社カ保險金支拂ノ責ニセサル場合ニ於テモ三ケ年以上（十年滿期保險ニ在リテハ二ケ年以上）保險料ノ拂込ミヲ爲シ保險契約ノ繼續シタルモノニ限リ其保險年度末ニ於ケル責任準備金ノ全額ヲ保險契約者ニ返還スヘシ但第十四條第二號ノ場合ハ此限ニ在ラス

其他ノ事項　(1149)

其他ノ事項——定款變更・事業方法書變更・保險料及責任準備金算出基礎書類變更（報告書ヨリ）

定款ノ變更

大正元年八月二十六日評議員會ニ於テ定款變更ノ件ヲ議決シ同月三十日定款變更認可申請書ヲ主務省ニ提出シ同年十二月十日右認可ノ指令アリ其要領左ノ如シ

一定款第一章總則ニ於テ被保險者保險契約年齡ノ範圍ヲ擴張シテ「十五年七ケ月以上六十年六ケ月以下」トアルヲ「九年七ケ月以上六十年六ケ月以下」ニ變更セリ

二第五章役員ニ於テ取締役中社長及專務取締役ノ他ニ更ニ副社長ヲ互選スルノ規定ヲ設ケタリ

三第六章計算ニ於テ社員配當金ノ配當實施期ヲ早メ配當金ハ決算期後二年以上引續キ社員タルモノニ配當スルノ規定ナリシヲ「決算期後四ケ月」ニ短縮シタリ

事業方法書ノ變更

定款ノ改正ニ伴ヒ幼年者ノ保險料表ヲ追加シ併セテ社員配當金ニ關スル事項ヲ改正シテ定款ニ一致セシメ大正元年八月三十日變更認可申請書ヲ主務省ニ提出シ十二月十日認可ノ指令ヲ受ク

保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類ノ變更

定款ノ改正ニ伴ヒ幼年者ニ關スル計算基數表ヲ追加シ大正元年八月三十日變更認可申請書ヲ主務省ニ提出シ十二月十日認可ノ指令アリ

福壽生命保險株式會社

普通保險約款（抄）大正元年九月一日改正

【備考】商法改正ノ趣旨ニ適應セシムルト保險料一時拂ノ法ヲ設ケ尙契約者ノ便宜ノ爲メニ一二事項ヲ修正シタルニヨリ保險約款變更ノ必要ヲ生ジタルヲ以テ全條文ノ組立ヲ換ヘ改正ヲナシタルニ依リ明治四十五年二月九日付ニテ主務大臣ヘ變更認可ヲ申請シ七月十六日付ヲ以テ認可ヲ得大正元年九月一日ヨリ施行セリ―第五回事業報告書ヨリ

第四條　保險拂込期日後二箇月ヲ猶豫期間トス

此期間ハ保險料ニ一日一萬分ノ四ノ利子ヲ附加シテ拂込ムヘシ

保險料ヲ拂込マスシテ前項ノ期間ヲ經過シタルトキハ保險契約ハ其効力ヲ失フモノトス

第五條　被保險者カ從軍スルカ又ハ戰爭其他ノ變亂地ニ赴クトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ遲滯ナク之ヲ會社ニ通知スヘシ

會社カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ニ對シテ一箇年ニツキ保險金額ノ百分ノ十ヲ超エサル特別保險料ヲ請求スルコトアルヘシ保險契約者又ハ被保險者カ第一項ノ通知ヲ爲サス又ハ會社カ特別保險料ヲ請求シタル場合ニ於テ二週間内ニ之レヲ拂込マサルトキハ保險契約ハ其効力ヲ失フモノトス

第十三條　左ノ場合ニ於テハ會社ハ保險金ヲ支拂フ責ニ任セス

【一、三、四、五ハ省略】

一被保險者カ自殺シタルトキ但第一回保險料拂込ノ時又ハ保險契約復活ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス

第十六條　保險契約ノ解除失効又ハ會社ガ保險金ヲ支拂フ責ニ任セサル場合ニハ會社ハ當該保險年度末ニ於ケル責任準備金ノ十分ノ七ヲ拂戻スヘシ但第十三條第五號ノ場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ拂戻金ハ保險料ヲ一時ニ拂込タルモノヽ外拾年拂込ニ在テハ滿二年其他ハ滿三年以上保險料ヲ拂込タルモノニ限リ拂戻スヘキモノトス

拂戻金ノ例別表ノ如シ

第十七條　第四條ノ猶豫期間内ニ保險料ノ拂込ヲ爲サヽル場合ニ於テ前條拂戻金額カ其延滯保險料及利子ヲ支辨スルニ足ルトキハ會社ハ保險契約者ニ對シ貸付金ニ振替ヘ保險料ノ拂込ニ充當スル此貸付金ニ對スル利息ハ百圓ニ付一日金貳錢トス若シ既ニ貸付金アル場合ハ其債權全額ヲ前條拂戻金額ヨリ控除シタル殘額ヲ以テ延滯保險料及利子ヲ支辨シ得ルトキニ限リ同一ノ取扱ヲナスモノトス

前項ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テハ會社ハ遲滯ナク其旨保險契約者ニ通知スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ保險契約消滅ノ事由發生シタルトキハ會社ハ支拂フヘキ金額ノ内ヲ以テ債權全額ヲ控除シ其殘額ヲ支拂フヘシ

第十八條　會社ハ保險契約解除ノ場合ニ於テ保險契約者ノ請求ニヨリ第十六條拂戻金ヲ拂濟保險料ニ換ヘ之ニ相當スル保險金額ノ拂濟保險證券ヲ交付スベシ

拂濟保險金額ノ例別表ノ如シ

第十九條　會社ハ保險契約者及保險金ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニヨリ第十六條ニ定ムル拂戻金額カ貳拾圓以上ナル場合ニ限リ會社

基礎書類中變更（第五回明治四五・一・一―大正元・一二・三一事業報告書ヨリ）

事業方法書變更

事業方法書中從來ノ保險料拂込方法ニ更ニ一時拂ヲ加ヘタルヲ以テ明治四十五年二月九日付ニテ之レガ變更認ノ定メタル手續ヲ履行シ拂戻金ノ十分ノ九ノ範圍内ニ於テ貸金ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第十七條第三項ヲ準用ス

第二十三條　會社ハ每年事業年度決算ニ於テ利益金ノ十分ノ一以上ヲ積立テ置キ五年目每ニ取纏メ保險契約締結後保險料一時拂ノモノハ滿二年其他ハ滿三年以上ヲ經過シタル現在契約ニ對シ一時拂ニ在ッテハ其額其他ハ年額保險料ニ經過年數（端數及拂濟額ノ年數ヲ除ク）ヲ乘シタルモノニ比例シ分配スルモノトス

前項ノ分配金ハ之ヲ拂濟保險料ニ換ヘ之ニ相當スル保險金ヲ計算シ契約ノ保險金額ヲ增加スヘシ利益分配期以前ニ被保險者カ死亡スルカ又ハ保險期間カ滿了スル場合ニ於テハ其前事業年度末マデニ保險料一時拂ノモノハ滿二年其他ハ滿三年以上ヲ經過シタル契約ニ對シ前事業年度末ニ於ケル第一項ノ分配金ヲ計算シ之ヲ保險金額ニ附加シ保險金ヲ受取ルヘキ者ニ交付スルモノトス

明治四十五・大正元年　福壽生命

可申請書ヲ主務大臣ニ提出シ七月十六日付ヲ以テ認可ヲ得タリ
同方法書中營業ノ目的及範圍ヲ從來ハ朝鮮及同國人ヲ除外シアリタルヲ今回之レヲモ包含セシムベク大正元年八月三十日付ニテ主務大臣ニ申請シ九月十八日付ヲ以テ認可ヲ得タリ
保險料及責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類ノ變更
保險料拂込方法中ニ一時拂ヲ加ヘタルニヨリ保險料及責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類ノ變更ヲ要シタルヲ以テ之レガ變更認可ヲ明治四十五年二月九日付ニテ主務大臣ニ申請シ明治四十五年七月十六日付ヲ以テ認可ヲ得タリ

太平生命保險株式會社

明治四十五年
大正元年ノ主要事項　（太平生命本社書類ヨリ）

定款中の變更（明治四五・三・五申請、同四五・七・二九認可）第二十三條中の監査役の任期一年とあるを二年と變更、第四十二條中の保險契約者配當準備金とあるを保險契約配當準備金と變更せり
事業方法書中の變更（明治四五・六・二四申請、大正一・八・二四認可）半年拂、三月拂以外に毎月拂を追加す
保險料及責任準備金算出の基礎に關する書類中の變更（明治四五・六・二四申請、大正元・一〇・三認可）豫定利率三分五厘を四分と變更せり

東海生命保險相互會社

普通保險約款（抄）

【備考】明治四十五年一月三十一日農商務省令商第六七五二號ヲ以テ認可、本約款中明治四十四年改正模範約款ト略同樣ノ規定ハ省略セリ

第六條　保險料ノ拂込ニ付テハ期日後六十日ヲ猶豫期間トス但拂込期日ニ拂込ヲ怠リタルトキハ延滯シタル保險料ニ對シ其延滯日數ニ應シ金壹百圓ニ付一日四錢ノ割合ヲ以テ延滯利子ヲ徵收ス
前項ノ猶豫期間ヲ經過シテ尙拂込ヲ爲サヽル場合ト雖モ其拂込ムヘキ保險料及ヒ利子カ第二十一條ノ拂戻金ヲ超エサルトキハ其中ヨリ保險料及ヒ利子ノ合計額ニ相當スル金額ヲ一ケ年一割以内ノ利息ヲ以テ貸付金ニ振替ヘ保險料ノ拂込ニ充ツ
此場合ニ於テハ會社ハ遲滯ナク之ヲ保險契約者ニ通知シ貸付金ニ關スル證書ヲ提出セシムヘキモノトス
保險契約者カ前項ノ拂込後次期ノ保險料ヲ拂込マスシテ保險契約ノ効力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ拂戻金ヨリ貸付金及其利子ヲ控除シ殘額アルトキハ之ヲ拂戻スヘシ
第八條　被保險者カ從軍スルカ又ハ戰爭其他變亂ノ地ニ赴クトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ豫メ之ヲ當會社ニ通知スヘキモノトス

當會社ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其戰爭又ハ變亂ノ事由ノ繼續スル間一箇年ニ對シ保險金額ノ十分ノ一ヲ超エサル限度ニ於テ特別保險料ヲ請求スルコトヲ得

第九條　當會社ハ被保險者カ旅行又ハ職業等ノ危險ニ因リ死亡シタル場合ト雖モ保險金支拂ノ責ニ任スヘシ

第十七條　被保險者カ第八條ノ規定ニヨリ特別保險料ヲ拂込ミテ從軍又ハ戰爭其他變亂ノ地ニ赴キタルトキ若クハ沈沒シタル船舶中ニアリタルトキニ於テ其生死カ戰爭又ハ變亂ノ止ミタル後或ハ船舶ノ沈沒シタル後一ケ年間分明ナラサルトキハ當會社ハ之ヲ死亡シタルモノト見做シ保險金額ヲ支拂フヘシ

第二十條　保險契約無效ノ場合ニ於テハ既收保險料ハ之ヲ反還セス但保險契約者及ヒ被保險者カ善意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ當會社ハ既收保險料ヨリ其十分ノ二ト保險金額百分ノ二ニ相當スル金額ヲ控除シ其殘額ヲ拂戻スヘシ

第二十一條　保險契約ノ解除失效又ハ保險金支拂ノ責ニ任セサル場合ニ於テハ十年滿期養老保險ニ在テハ二ケ年以上其他ノ保險ニ在リテハ三年以上ノ保險料ヲ拂込ミタルモノニ限リ其保險契約ニ對スル責任準備金ノ十分ノ九ヲ拂戻スヘシ但第十六條第六號ノ場合ハ此限ニアラス

第二十二條　保險契約締結後三年以上（十年滿期養老保險ニ在テハ二年以上）ヲ經過シタルトキハ保險契約者ハ當會社ノ承諾ヲ得テ拂濟保險ニ變更シ其後ノ保險料支拂ノ義務ヲ免ルヽコトヲ得

第二十三條　當會社ハ保險契約者ノ請求ニヨリ保險證券ヲ擔保トシ第二十一條ノ拂戻金ヲ超過セサル金額ヲ貸付クヘシ但保險契約消滅ノ場合ニ於テハ貸付金カ未タ其返濟期限ニ到ラサルトキト雖モ契約消滅ノトキヲ以テ當會社ノ支拂フヘキ金額ヨリ貸付金及ヒ利子ヲ控除スヘキモノトス

蓬萊生命保險相互會社

事業方法書、約款ノ變更（第三回明治四五・七・一事業報告書ヨリ）
大正二・六・三〇

事業方法書ノ變更

一第一、保險種類（十五年拂、二十年拂ノ終身保險ヲ追加ス）

一第二、保險契約手續（保險申込書中ニ保險金ヲ受取ルヘキ者ヲ指定若シクハ變更スル權利ヲ保留スルヤ否ヤヲ明記セシムルノ項ヲ加フ）

一第七、貸附金（十五年拂、二十年拂ノ終身保險追加ノ結果之ニ對スル貸附金ノ事項ヲ定ム）

一第十二、社員配當（十五年拂、二十年拂ノ終身保險契約ヲ爲セル社員ニ對スル配當方法ヲ定ム）

右明治四十五年六月十二日付申請大正元年八月二日認可

一第八ヲ追加シ現行第八以下順次繰下ク

一追加第八、（定款第四十七條變更ノ結果東京市内ニ在ル宅地ノ擔保貸付及取得ノ規程ヲ定ム）

右明治四十五年六月十三日申請大正元年八月二日認可

普通保險約款ノ變更

一第十八條ノ變更（保險種類追加ノ結果ニヨリ返還金ニ關スル事項ヲ改ム）

明治四十五・大正元年　東海生命　蓬萊生命

右明治四十四年九月五日臨時社員總代會ニ於テ決議同年十月二十日申請大正元年八月二日認可
一全部改正（商法改正ノ結果之ニ準據スルト同時ニ更ニ現行約款ノ不備ヲ補足ス）
右明治四十四年十一月二十七日臨時社員總代會ニ於テ決議同年十二月二十日申請大正元年八月二日認可

生存保險認可申請(1155)

日本徵兵保險株式會社

日本徵兵生存保險株式會社（元年八月改稱）

生存保險ニ關スル認可申請書

當會社今般更ニ生存保險ヲ營業致度候ニ付御認可被成下度左記ノ書類相添ヘ此段申請候也

一生存保險事業方法書
二生存保險普通保險約款【省略セリ】
三生存保險料及責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類

明治四十五年三月八日

東京市京橋區桶町十八番地　日本徵兵保險株式會社
取締役社長　門野幾之進

事業方法書(1156)

農商務大臣宛

【備考】大正元年八月九日認可、同年八月廿一日營業開始

生存保險事業方法書（抄）

第一　事業ノ範圍及營業地域　當會社ノ生存保險ハ日本帝國ノ臣民ニシテ保險契約締結ノ當時十七歳迄ノ男女ヲ被保險者ト爲シ帝國領土內（臺灣、朝鮮ヲ除ク）ニ於テ營業スルモノトス
第三　保險金額　被保險者一人ニ付キ契約スヘキ保險金額ハ貳百圓以上壹万圓以下トス

死亡表ト豫定利率(1157)

生存保險保險料及責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類（抄）

一死亡生殘表ハ「キング」氏H・M表ヲ用ユ
一豫定利率ハ年四分トス

定款變更認可申請(1158)

定款變更ノ認可申請書

當會社ノ定款中別紙ノ通リ變更致度候間御認可被成下度理由書幷ニ株主總會ノ決議錄抄本相添ヘ此段申請候也

明治四十五年三月八日

東京市京橋區桶町十八番地　日本徵兵保險株式會社
取締役社長　門野幾之進

農商務大臣宛

【備考】大正元年八月九日認可
明治四十五・大正元年　逢萊生命　日本徵兵保險（日本徵兵生存）

徴兵保険約款中変更認可申請(1159)

變更條項

一定款第一條中日本徴兵保険株式會社トアルヲ日本徴兵生存保険株式會社ト變更ス

一定款第二條全文ヲ左ノ如ク變更ス

當會社ハ日本帝國領土内（臺灣、朝鮮ヲ除ク）ニ於テ徴兵保険並ニ生存保険ノ業ヲ營ムヲ以テ目的トシ其被保険者ハ徴兵保険ニ在リテハ兵役ニ服スルノ義務アルベキ日本帝國臣民ニシテ保険契約締結ノ當時滿十五歳五ケ月以下ノ者タルコトヲ要ス

一定款第十七條全文ヲ左ノ如ク變更ス

取締役ノ任期ハ三年、監査役ノ任期ハ二年トス但任期中ノ最終ノ配當期ニ關スル定時總會ノ終結ニ至ルマデ其任期ヲ伸長ス

變更理由

理由書

今般當會社ニ於テ更ニ生存保険ノ事業ヲ營ミ且ツ監査役ノ任期ヲ二年トスルヲ便利ト認メ本文ノ通リ變更セントスル所以ナリ

徴兵保険普通保険約款變更ノ認可申請書

當會社ノ徴兵保険普通保険約款中別紙ノ通リ變更致度候間御認可被成下度理由書相添ヘ此段申請候也

明治四十五年三月八日

東京市京橋區桶町十八番地　日本徴兵保険株式會社

取締役社長　門野幾之進

農商務大臣　男爵　牧野伸顯　殿

【備考】大正元年八月九日認可

變更條項

徴兵保険普通保険約款第二十四條全文ヲ左ノ如ク變更ス

毎事業年度ノ決算ニ於テ生シタル純利益金ノ百分十乃至百分二十ヲ保険契約配當金トシ之ヲ其年度末ニ於ケル責任準備金ニ比例シテ徴兵保険ニ屬スル配當金ト生存保険ニ屬スル配當金トニ分割ス

變更理由

理由書

今般當會社ニ於テ更ニ生存保険ノ事業ヲ營マントスルヲ以テ徴兵保険ニ屬スル配當金ト生存保険ニ屬スル配當金ヲ分割スルノ必要ヲ認メ本文ノ通リ變更セントスル所以ナリ

同胞生命保険株式會社

農商務省令商第一三五三號

明治四十五年二月二十六日附申請生命保険營業ノ件免許ス

明治四十五年四月十八日

東京府東京市京橋區山城町壹番地　同胞生命保険株式會社

農商務大臣　男爵　牧野伸顯

明治四十五・大正元年　日本徴兵保険（日本徴兵生存）同胞生命

〔五・一八、官報〕株式會社登記簿第二十一冊第九一〇號

【備考】明治四十三年發起認可申請ノ際ノ定款ニ記載セラレタルモノト同樣ノ事項ハ省略セリ

一商　號　同胞生命保險株式會社

一本　店　東京市京橋區山城町一番地

一設立ノ年月日　明治四十五年二月二十二日

一取締役ノ氏名住所

東京市芝區西應寺町五十三番地　吉村鐵之助

同　市神田區柳原河岸二十二番地　小林富次郎

東京府荏原郡品川町南品川八百九十七番地　荒木眞弓

東京市芝區二本榎西町二番地　石原雄熊

大阪市東區北新町一丁目二十六番屋敷　緒方銈次郎

一監査役ノ氏名住所

大阪市北區北同心町二丁目三百四十二番屋敷　青木庄藏

東京市麻布區新堀町七番地　前田武四郎

同　市麹町區紀尾井町三番地　東郷昌武

一設立費用償却ノ方法　營業初年度ニ於テ償却ス

右明治四十五年四月廿五日登記

東京區裁判所

【備考】本約款中明治四十四年改正模範約款ト略同樣ノ規定ハ省略セリ

第五條　前條ノ拂込期間内ニ保險料ヲ拂込マス尚ホ保險契約解除ノ請求ヲモ爲ササルトキハ第二十條ノ返還金アル場合ニ限リ當會社ハ其返還金中ヨリ不拂保險料及ヒ其利息ニ相當スル金額ヲ貸付金ニ振替ヘ拂込ミニ充當シ其返還金ノ殘額カ三箇月分ノ保險料ニ不足ヲ告クルマテ保險契約ノ効力ヲ持續セシム但貸付金ニ對シテハ利息ヲ附加ス

第二十二條ノ貸金アル場合ニ於テハ第二十條ノ返還金中ヨリ其貸金元利ヲ控除シタル殘額ヲ限度トシテ前項ノ規定ヲ適用ス

第十條　當會社ハ被保險者カ從事スル職業又ハ旅行等ノ危險ニ因リ死亡シタル場合ニ於テモ保險金支拂ノ責ニ任スルモノトス

第十六條　保險契約申込書ニ記載シタル被保險者ノ年齡ニ錯誤アリタル場合ニ於テハ左ノ方法ニ依リテ處分ス【一、三ハ省略】

二錯誤ノ年齡カ實際ノ年齡ヨリ多カリシトキハ當會社ハ被保險者ノ身體ヲ診査シ年齡相當ト認メタルトキニ限リ將來ニ向テ保險料ヲ減少シ既ニ拂込ミタル保險料ノ過剩額ノ十分ノ九ヲ返還スヘシ但保險金ヲ支拂フヘキ事由發生前ニ其手續ヲ爲ササルトキハ其割合ヲ以テ保險金額ヲ增加スヘシ

第十七條　保險契約者カ保險料ヲ拂込マサル爲メ保險契約ノ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ其失效ノ時ヨリ百八十日以内ニ當會社所定ノ書式ニ據リ契約ノ復活ヲ請求スルコトヲ得當會社ハ被保險者ノ身體ニ異常ナシト認メタルトキニ限リ延滯保險料ニ對シ一日一萬分ノ四ノ利息ヲ徵收シテ之ヲ承諾スヘシ

第十二條及ヒ第十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ準用ス

第二十條　保險契約ノ解除失效又ハ當會社カ保險金支拂ノ責ニ任セサル場合ニ於テハ滿三箇年以上ノ保險料ヲ拂込ミタルモノニ限リ當會社ハ當該保險年度末ニ於ケル責任準備金ノ十分ノ九ヲ返還スヘシ但第十五條第二號ノ場合ハ此限ニ在ラス

第二十一條　保險契約ノ解除ヲ請求スル者ニ對スル返還金ハ現金ヲ以テ支拂ヒ或ハ保險契約者ノ希望ニ依リ相當金額ノ拂込濟證券ニ振替ヘ交付ス可シ

第二十四條　保險契約者ハ當會社ノ利益分配ニ與ルノ權利ヲ有ス其金額ハ當會社每事業年度ノ純益金中ヨリ其二十分ノ一乃至二十分ノ三ノ法定準備金、二十分ノ一以内ノ特別準備金、十分ノ一以内ノ役員賞與金及ヒ拂込ミタル株金額ニ對シ年六分以内ノ株主配當金ヲ控除シタル殘額ノ十分ノ六ヲ當會社ニ積立置キ當會社營業開始ノ翌年ヨリ每五箇年ノ事業年度末ニ現ニ效力ヲ有スル保險契約者ニ對シ年拂ノ計算ニ依ル既拂込保險料ニ比例スルモノトス但每事業年度ノ純益金ハ計算ノ都合ニ依リ其全部又ハ一部ヲ次年度ヘ繰越スコトヲ得

保險契約カ滿二箇年ヲ經過セサル者ニ對スル分配金ハ之ヲ積立置キ次ノ五箇年ノ事業年度末ニ於テ現ニ效力ヲ有スル其保險契

約者ニ分配スルモノトス

備考　保險料拂込期間カ一時、五年、十年ノ契約ニ對シテハ第二十條中「滿三箇年以上ノ保險料ヲ拂込ミタルモノニ限リ」ノ二十一字ヲ削除スルモノトス

(1163)　教育結婚資金保險普通保險約款（抄）

第四條　第二回以後ノ保險料ハ期日後六十日ヲ以テ猶豫期間トス此期間ハ期日後延滯保險料ニ對シテ一日一萬分ノ四ノ利息ヲ徵收ス

第八條　被保險者カ保險期間滿了前ニ死亡シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ此場合ニ於テハ保險契約者ハ死亡ヲ證明スヘキ戸籍謄本ヲ添ヘテ保險料ノ拂戻ヲ請求スヘシ當會社ハ每年拂ノ計算ヲ以テ既拂込保險料ノ全部ヲ返還スルモノトス

第十三條　保險契約ノ解除、無效又ハ失效ノ場合ニ於テハ左表ニ依リ保險料ヲ返還ス可シ

經過二年以上三年未滿	拂戻ヲナサス
經過三年以上六年未滿	既拂込保險料ノ六割
經過六年以上十年未滿	既拂込保險料ノ六割五分
經過十年以上十三年未滿	既拂込保險料ノ七割
經過十三年以上十五年未滿	既拂込保險料ノ七割五分
經過十五年以上	既拂込保險料ノ八割
	既拂込保險料ノ九割

第十五條　保險契約者、被保險者及ヒ保險金受取人ハ當會社ノ利益分配ニ與カル權利ナキモノトス

創立總會ヨリ開業（第一回　明治四五・五・五　大正元・一二・三一　營業報告書ヨリ）

一明治四十五年二月二十二日東京市京橋區山城町壹番地日本工業協會ニ於テ創立總會ヲ開ク出席株主委任狀共壹百五拾八名此株數八千五百貳拾九株發起人吉村鐵之助議長席ニ着キ會社創立ニ關スル經過事項ヲ報告シ承認ヲ得タリ引續キ第二號議案「定款議定ノ件」第三號議案「取締役及監査役選任ノ件」第四號議案「取締役及監査役報酬額決定ノ件」ヲ議定シ續テ取締役及監査役ノ選任ヲ行ヒ取締役ニ吉村鐵之助、小林富次郎、荒木眞弓、石原雄熊、緒方銈次郎ヲ監査役ニ青木庄藏、前田武四郎、東郷昌武ヲ選任ス而シテ商法第百三十四條ニ據ル調査ノ爲メ玉木彌市、木下末治ノ兩氏ヲ檢査役ニ選擧シ其調査報告ニ對シ滿場一致之ヲ承認シ且ツ又決議書類ノ文句ノ修正或ハ主務官廳ヨリ命セラレタル訂正ハ總テ取締役會ニ一任スル事等ヲ議定シ竝ニ會社ノ成立ヲ告ゲタリ偶々株主中ヨリ創立發起人ノ功勞ニ對シ慰勞金ヲ呈スベク發議アリ滿場之ニ贊同シタルモ創立發起人ハ他日事業ノ成績ヲ擧ゲタル時ニ於テ之ヲ受クルモ遲カラズトシテ辭退セリ於此議長閉會ヲ宣言セリ

一明治四十五年二月二十二日取締役互選會ヲ開キ社長兼專務取締役壹名常務取締役貳名ノ互選ヲ行ヒ專務取締役社長ニ吉村鐵之助、常務取締役ニ石原雄熊、荒木眞弓選任シタリ同日大谷嘉平衞氏ニ當會社顧問ヲ囑託スルコトヲ議決シ其承諾ヲ得タリ

一同年五月三日各株主ニ對シ開業期日ノ通知ヲ爲シ同月五日ヲ以テ開業ス

旭日生命保險株式會社

〔九・五、官報〕株式會社登記簿第二十三冊第九七四號

明治四十五・大正元年　同胞生命　旭日生命

設立登記

一商　號　旭日生命保險株式會社
一本　店　東京市日本橋區本材木町一丁目八番地
一保險ノ種類及營業ノ範圍　帝國內ニ於テ帝國臣民（但朝鮮人ヲ除ク）ニシテ保險契約締結ノ當時年齡十四年六箇月以上六十年六箇月未滿ノ者ヲ被保險者トシテ保險期間滿了ノトキマテ被保險者カ生存シタルトキ又ハ保險期間中ニ被保險者カ死亡シタルトキニ保險金ヲ支拂フヘキ契約ヲ爲スコト
一設立ノ年月日　明治四十五年六月十八日
一資本ノ總額　金五十万圓
一一株ノ金額　金五十圓
一各株ニ付拂込ミタル株金額　金十二圓五十錢
一公告ノ方法　本店所在地ノ區裁判所ノ商業登記ノ公告ヲ掲載スル新聞紙ニ掲載ス
一取締役ノ氏名住所

東京市日本橋區本材木町一丁目七番地	渡邊治右衞門
同　市芝區西久保城山町一番地	渡邊勝三郎
同　市下谷區眞島町一番地	渡邊六藏
橫濱市元濱町一丁目一番地	渡邊和太郎
東京府北豐嶋郡日暮里村大字日暮里百七十九番地	吉田丹治郎
東京市本鄕區駒込林町百四番地	久米良作
同　市下谷區谷中眞島町一番地	福澤平太郎

一監査役ノ氏名住所

東京市麹町區下二番町四十二番地	伊藤幹一
同　市日本橋區川瀨石町十七番地	石川甚作
同　市同區靑物町二十四番地	福島浪藏

一設立費用償却ノ方法　初年度ニ於テ償却スルモノトス
右大正元年八月三十一日登記

東京區裁判所

創立總會ヨリ開業ニ至ル期間（第一回明治四五・六・一八大正元・一二・三一事業報告ヨリ）

一六月十八日　創立總會終了後引續キ取締役會ヲ開キ社長及專務取締役ノ互選會ヲ開キタルニ社長ニ渡邊治右衞門氏專務取締役ニ渡邊勝三郎、福澤平太郎ノ二氏當選セリ
一六月二十九日　事業免許申請書並ニ附屬書類ヲ主務大臣ニ提出セリ
一八月二十四日附ヲ以テ主務大臣ヨリ營業免許ノ指令ヲ下付セラレ二十六日之ヲ受領セリ
一九月一日　營業ヲ開始シタリ

常磐生命保險株式會社

發起認可ノ報(1167)

〔一二・九、報知〕**常磐生命認可**　今春其筋に對して發起認可の申請を爲したる佐竹作太郎、若尾民造、大谷嘉兵衞、吉田榮右氏等一派の常磐生命保險株式會社は其筋にて詮議中の處何等不備の點なきものと認め七日付農商務大臣より發起認可の指令ありたるか會社側にては既に引受株主も九分通り決定し居れば速に拂込を爲して會社を成立せしむる由なるが愈々成立の上は嘗て紐育保險に在りて斯業に深き經驗を有する吉田氏主として事業經營の衝に當るべしとなり

發起認可申請ノ報(1168)

報國生命保險株式會社

〔四・七、時事新報〕**報國生命認可申請**　神戸鈴木一派の計畫　既記の如く神戸の鈴木商店主を始め岡烈（東京）前田助七（大阪）柳田富士松、金子直吉、小松楠彌、西川文藏（以上神戸）の諸氏の計畫に係る資本金五十万圓の株式組織報國生命保險會社は六日發起認可の申請を爲したり、營業免許の上は本店を東京に置くべしと

富國生命創立總會開催ノ報(1169)

〔八・二八、中外商業〕**富國生命創立總會**　富國生命保險會社にては二十七日午前九時より九州倶樂部に於て創立總會を開き、創立委員長戸水寛人氏議長席に着き創立の經過を報告して、創立費三千九百八十七圓五十六錢の承認を得、重役を左の如く選定せり

取締役　戸水寛人　服部英明　村井眞雄　內村鹿郎　木村春東

監査役　脇田勇　上野榮三郎

明治徴兵婚資保險ノ發起(1170)

〔一〇・二九、大阪朝日〕**富國生命免許申請**　富國生命保險相互會社に於ては兩派の感情融和し、內紛一掃されたるを以て二十三日附を以て主務省に營業免許の申請をなせりと

亞細亞生(1171)

〔一・一一、時事新報〕**新保險認可申請**　大阪市の藤本清兵衞氏等八名の發起に係る明治徴兵婚資保險會社（資本金五十万圓）幷に同市本田常次郎氏外十二名に係る太平洋海上保險會社（資本金百万圓）發起認可の申請は何れも八日附を以て農商務省に提出されたり

〔三・一六、中外商業〕**亞細亞生命保險申請**　舊東鐵大株主一派にて生命保險會社を創立せん計畫ありしが愈利光鶴松、吉田幸作、苗村又右衞門、大塚常次郎、北村文德、中野寅次郎、川田鷹、加藤佐兵衞、磯村保次、

明治四十五・大正元年　常磐生命　報國生命　其他ノ會社

命發起ノ報

太田信光の諸氏を發起人として十五日農商務大臣に發起認可の申請を爲したり、其内容は五十万圓の基金を有する相互組織となし差當り十二万五千圓の拂込を以て事業經營の筈

(1172)

同仁生命設立計畫

〔九・一、大阪朝日〕**同仁生命保險出願**　神戸の小寺謙吉、竹田文吉、瀧川辨三、森本六兵衞等の諸氏は今回資本金五十万圓を以て同仁生命保險株式會社なるものを設立すべく三十日其の筋へ出願したり尚是等の諸氏は遠からず火災保險會社をも創立すべく目下協議中なりと

(1173)

神戸生命出願ノ報

〔九・一二、大阪朝日〕**神戸生命保險出願**　廣瀬滿正、直木政之助、坪田十郎、岸本信太郎、松方幸次郎等十五名より資本金五十万圓一株五十圓一萬株を以て設立すべく十日其の筋へ出願したり

(1174)

新日本生命發起ノ報

〔一二・二八、二六新報〕**八千代生命の改稱**　東京の森一馬氏外八名より農商務大臣に對し資本金五十万圓を有する八千代生命保險株式會社なるもの、發起認可の申請を爲せること既報の如くなるが右は松平直平氏一派より先むして認可の申請を爲せる八千代生命と同名に就き今回社名を新日本と改稱することゝなりたる旨廿七日主務省へ届出でたり

チヤイナ・ミユチアル生命保險會社

(1175)

横濱ヨリ東京ヘ支店移轉

〔六・七、官報〕外國株式會社登記簿第二冊第二十四號（抄）

【備考】明治四十四年〔九・二、官報〕横濱支店設立登記（本編1105）事項ト同樣ノ事項ハ省略セリ

一商　號　・ゼ、チヤイナ、ミユチアル、ライフ、インシユアランス、コンパニー、リミツテツト

一本　店　清國上海廣東街十番地

一支　店　東京市麹町區内幸町一丁目三番地

一明治四十五年六月三日支店ヲ神奈川縣横濱市山下町五十番地ヨリ東京市麹町區内幸町一丁目三番地ニ移轉シタルニ付本號ノ登記ヲ爲シタリ

右明治四十五年六月三日登記

東京區裁判所

附錄

生命保險事業成績一覽表

凡例

一、明治三十三年ヨリ大正元年ニ至ル十三年間ノ生命保險會社ノ事業成績中主要ナル事項ニ關スル數字ヲ掲記セリ

一、主トシテ會社ノ事業報告書及其ノ統計表ニ據リ、其ノ足ラザル所ハ保險年鑑・帝國統計年鑑（農商務統計參照）・保險銀行時報統計號・岩間六郎著保險漫錄・保險銀行時報社編本邦生命保險業史等ヲ參酌シテ之ヲ補ヒタリ

一、各年度ノ數字ハ各社夫々ノ決算ガ同一曆年内ニ屬スル分ヲ集メタリ、各社ノ決算期ハ次ノ如シ

一月―北海　二月―皇國　三月―有隣・京都・浪速　四月―徵兵　六月―佛教・日本共立・六條・國光・蓬萊　八月―第一　九月―眞宗信徒　十二月―明治・帝國・日本・大日本・酒家・萬世・內國・名古屋・海國・大東・國民・北陸・明教・共濟・相互・大阪・仁壽・山陰（東亞）・朝日・九州・護國・日宗・日本教育・愛國・日本生存・禪徒・日本共同・東北・共慶（東洋）・大同・千代田・萬歲・日清・橫濱・日之出・神國・福壽・富士・太平・東海・日本徵兵・同胞・旭日

參考ノ爲メ本史料ノ統計ト帝國統計年鑑・保險年鑑等ノ數字ノ差異ヲ次載ノ「本史料ト他ノ統計トノ生命保險事業成績比較」ニ於テ對照掲記シ置ケリ

一、會社ニヨリ「新契約」ノ「件數」ヲ「人員」ニ代ヘタルモノアルモ凡テ之ヲ「件數」ト看做シ掲記シタリ

一、契約ノ增加ニ於テ「新契約」ト「其他ノ增」トノ數夫々詳カナラザル會社ニアリテハ前者ノ欄ニ後者ノ分ヲ含ム

一、消滅契約ニ在リテ死亡滿期ノ別不詳ノ會社ノ分ハ之ヲ死亡保險ニ付テハ死亡ノ欄ニ生存保險ニ付テハ滿期ノ欄ニ掲記セリ

傳染病罹病ノ數字ハ便宜上死亡欄ニ掲記セリ

一、「利益　剩餘金」又ハ「損失金」ノ欄ニ於テ△印ヲ附シタル數字ハ損失ナリ

一、明治三十五年ニ於テハ現存セザル會社ノ成績數字不明ナル爲メ東京・大阪・京都ノ各府廳ノ書類又ハ當時ノ日刊新聞竝保險銀行時報紙上ノ記載ニ依リ決算期ニアラサル日ノ數字ヲ以テ之ヲ補ヒタルモノアリ

一、事業停止、財產整理又ハ清算中ニ屬スル會社ハ其ノ事故ノ起リタル年度ノ成績表其二ノ備考欄ニ社名ヲ記載シ置ケリ

自明治三十三年
至同四十五・大正元年

本史料ト他ノ統計トノ

年度	統計種類	會社數	新契約		其他ノ增	被保險者ノ死亡	保險期間ノ滿了	其他ノ減
			件	円	円	円	円	円
三三	本史料	38	246,334	60,455,706	460,150	1,839,919	192,497	30,496,398
	20回統計	35	231,726	58,776,788	不詳	2,046,254	不詳	不詳
	保險漫錄	40	245,843	61,431,458	〃	不詳	〃	〃
三四	本史料	37	179,782	46,644,364	299,755	1,859,804	159,328	28,141,378
	21回統計	37	168,540	44,233,306	不詳	2,206,868	不詳	不詳
	保險漫錄	40	168,129	44,016,861	〃	不詳	〃	〃
三五	本史料	35	194,200	54,003,875	286,410	2,201,842	126,010	23,894,332
	23回統計	27	137,674	39,157,200	不詳	2,155,854	不詳	不詳
三六	本史料	30	169,226	52,246,597	348,070	2,218,686	83,966	26,335,296
	23回統計	25	149,245	48,166,980	不詳	2,397,995	不詳	不詳
三七	本史料	27	138,721	46,192,740	1,074,650	2,991,154	148,233	31,941,993
	24回統計	29	135,860	45,798,499	不詳	不詳	不詳	不詳
三八	史本料	26	146,234	51,258,922	1,104,525	3,478,356	201,106	30,758,735
	25回統計	25	145,183	51,336,878	不詳	不詳	不詳	不詳
三九	本史料	27	199,776	76,418,566	624,743	3,088,131	212,707	26,694,066
	26回統計	25	195,120	76,343,614	不詳	不詳	不詳	不詳
四〇	本史料	28	263,086	112,217,134	518,967	3,628,395	285,444	32,487,773
	保險年鑑	28	263,704	113,529,713	不詳	不詳	不詳	不詳
四一	本史料	29	316,405	136,148,922	819,790	3,998,085	347,135	40,565,263
	保險年鑑	29	316,821	134,243,222	不詳	不詳	不詳	不詳
四二	本史料	29	268,925	129,463,154	897,573	4,870,083	470,581	54,251,014
	保險年鑑	29	265,918	129,331,604	不詳	不詳	不詳	不詳
四三	本史料	29	270,121	148,410,120	1,569,024	5,723,016	860,183	73,447,828
	保險年鑑	29	272,089	149,744,212	不詳	5,574,566	663,399	68,568,678
四四	本史料	31	327,000	184,800,120	2,818,920	6,563,079	718,993	73,017,362
	保險年鑑	31	326,854	191,292,042	不詳	6,417,892	701,693	70,389,589
四五元	本史料	33	386,924	234,925,648	2,671,860	7,611,978	995,375	81,703,739
	保險年鑑	31	387,205	236,951,073	不詳	7,471,471	957,725	80,075,698

【備考】明治何年トアルハ本史料ハ暦年、帝國統計年鑑及保險年鑑ハ官廳會計年度、6.30、三十四年ハ 34.7.1—35.6.30、三十五年ハ 35.4.1—36.3.31 ニシテ以下順次帝國統計年鑑ニ於テ所載ノ會社數ヨリ多クノ會社ノ分ヲ計上セル科目アリ、卽チ三十五、三十六年23回ニ於ケル資本金ハ37社、三十七年24回ニ於ケル資本金ハ35本史料ニ於テハ確定配當準備金ハ責任準備金ニ加ヘタルモ保險年鑑ニアリテハ之保險漫錄ハ明ラカナラズ。但シ帝國統計年鑑ニアリテハ明治三十三年ハ33.7.1—34.會計年度ナリ。

三十三年20回ニ於ケル資本金及準備金ハ43社、三十四年21回ニ於ケル資本金ハ40社社、三十九年26回ニ於ケル資本金ハ32社ノ夫々合計額ナリ。

ヲ契約者配當準備金ニ含メアリ。

生命保險事業成績比較 (其一)

(本史料・帝國統計年鑑 保險年鑑・保險漫錄)

年末現在契約		收入保險料	收入諸利息	支拂保險金	解約其他返戻金	支拂契約者配當金	事業費
件	円	円	円	円	円	円	円
809,937	209,269,296	7,012,141	790,723	1,916,170	175,531	–	2,434,283
803,468	195,586,977	7,047,049	815,108	1,948,836	206,122	–	2,433,224
821,336	198,421,217	7,085,213	不詳	1,960,356	不詳	–	2,477,270
802,513	199,110,860	7,006,981	989,113	2,157,476	306,940	–	2,424,280
797,689	197,684,522	6,993,422	1,088,287	2,117,817	373,517	–	2,399,729
790,964	198,167,879	7,013,092	不詳	2,176,964	不詳	–	–
797,498	205,473,722	6,766,928	1,032,939	2,147,914	383,667	–	2,223,216
668,735	181,651,115	6,588,479	1,113,961	2,089,991	436,072	–	2,115,385
796,959	216,844,445	7,886,748	1,237,219	2,620,307	517.698	5,583	2,751,156
727,828	205,768,844	7,476,528	1,076,887	2,371,199	569,402	不詳	2,462,378
754,354	217,726,496	8,135,511	1,346,226	2,922,927	649,555	5,812	2,548,232
743,971	214,257,161	8,163,954	1,177,670	2,927,920	675,040	不詳	2,536,740
778,306	234,768,995	8,927,499	1,593,249	3,442,488	667,567	4,576	2,749,932
767,027	234,733,391	8,874,677	1,374,882	3,472,251	663,008	不詳	2,748,650
874,421	281,225,009	10,864,758	1,904,580	3,155,756	496,221	15,256	3,422,179
862,875	281,478,615	10,832,084	1,902,878	3,136,065	489,566	不詳	3,366,938
1,023,018	357,355,192	13,478,876	2,142,897	3,634,710	465,285	14,542	4,583,077
1,016,138	359,623,749	13,515,568	1,966,695	3,610,757	446,591	不詳	4,700,487
1,176,654	435,827,207	16,659,295	2,806,967	4,131,542	675,854	13,277	5.598,904
1,171,779	438,904,124	16,755,121	2,483,289	4,143,648	663,165	不詳	5,680,636
1,271,736	497,097,335	19,001,854	3,318,284	4,811,601	834,337	12,619	6,155,238
1,257,345	498,058,704	19,157,909	3,299,660	4,840,164	823,091	不詳	6,169,786
1,357,181	567,180,430	22,039,812	3,462,609	5,785,255	957,283	12,756	6,808,044
1,304,125	557,663,107	21,741,433	3,391,370	5,619,716	896,675	不詳	6,652,284
1,520,721	676,894,240	26,385,743	4,013,359	6,702,879	1,017,597	25,660	7,962,078
1,463,003	669,363,484	26,027,235	4,014,086	6,539,717	981,511	不詳	7,926,604
1,731,524	825,182,707	31,727,260	5,199,682	7,942,804	1,220,543	11,792	9,304,956
1,681,286	819,785,482	31,477,177	5,073,852	7,774,421	1,213,037	不詳	9,338,706